

総 則

1 研究のテーマとねらい

教育課程研究会研究推進委員会総則部門（以下「総則部門」）では、平成 27 年度の研究テーマである「アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた単元の授業づくりの実現に向けた校内授業研究の在り方」を更に進め、「組織的な授業改善の推進～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業実践の必要性和授業づくりの在り方～」という、より具体的なテーマ設定を行い、研究を深めることとした。

(1) アクティブ・ラーニングの視点到係る国の動向

次期学習指導要領は、平成 32 年（高等学校は平成 34 年度からの実施）からの 10 年間の子どもたちの学びを支える重要な役割を担い、これからの子どもたちが活躍する将来、つまり、2030 年頃の社会を前提としている。その社会では、進化した人工知能により判断が行われ、情報化やグローバル化などの社会的変化が加速的に進み、予測が困難な事象も起こることが考えられる。そのような予測困難な社会に対応するために、様々な問題を子どもたちが受け身で対処するのではなく、人間的な感性を基に主体的に対処できる力の育成が重要となる。中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成 28 年 12 月 21 日）」（以下「答申」という。）では、2030 年とその先の社会を見据えて、学校教育を通じて子どもたちの育成したい姿と「生きる力」の理念の具体化について次のように述べている。

- ・ 社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。
- ・ **対話や議論**を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えとともに、他者の考えを理解し、**自分の考えを広げ深め**たり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って**多様な人々と協働**したりしていくことができること。
- ・ 変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、**よりよい人生や社会の在り方**を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、**新たな価値を創造**していくとともに、**新たな問題の発見・解決**につなげていくことができること。

— ゴシックは高校教育課による（『答申』13 ページ）より —

この記述から、次期学習指導要領の内容を捉える上で、重要と思われるキーワードとして、「対話や議論」、「自分の考えを広げ深め」、「多様な人々と協働」、「よりよい人生や社会の在り方」、「新たな価値を創造」、「新たな問題の発見・解決」などを挙げることができる。これらのキーワードは、昨今の教育現場で盛んに言われるようになっている「アクティブ・ラーニングの視点」という言葉を再確認し、「生きる力」を育むための方策を明確化させるヒントとなる。

現行の学習指導要領は、各教科等において

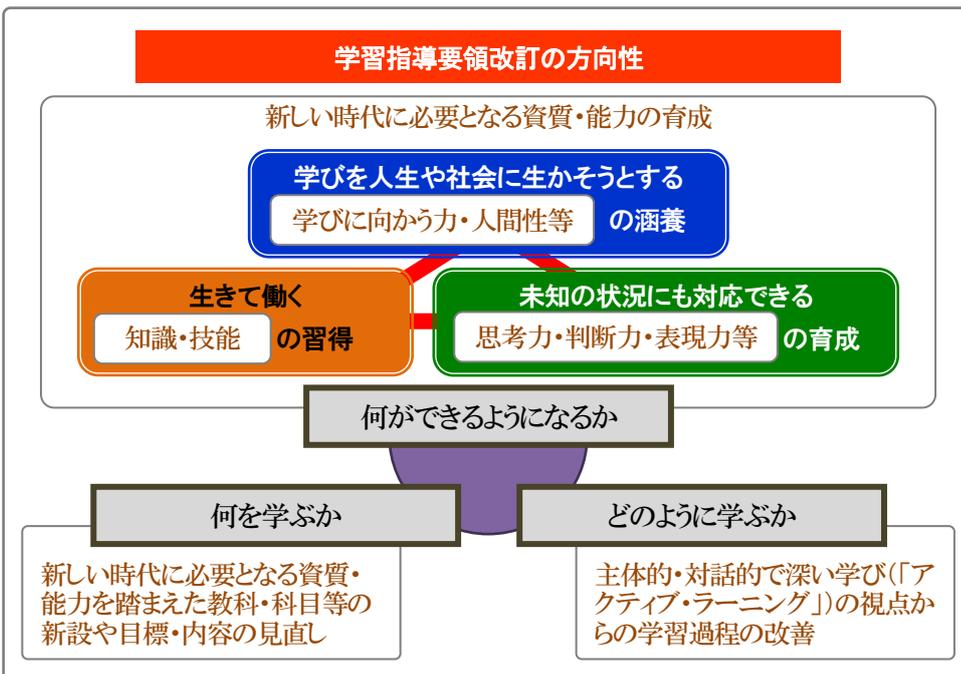


図1 次期学習指導要領改訂の方向性（「答申」補足資料より一部改編）

「教員が何を教えるか」という点に重きを置いて組み立てられているが、**図1**のようにこれからの教員には、生徒たちが学ぶことを通じて、「何ができるようになるか」という点を意識した指導が求められる。この「何ができるようになるか」ということの意味は、学校教育全体を通じた、新しい時代に必要となる資質・能力（「学びに向かう力・人間性等」、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」）の育成に他ならない。また、「何を学ぶか」という観点に基づき、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直しを図り、「どのように学ぶか」という点に基づき、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善を図ることなどが求められている。

(2) 育成をみざす資質・能力の三つの柱

また、**図1**で示した新しい時代に必要となる資質・能力を、改めて**図2**のように、「育成をみざす資質・能力の三つの柱」とし、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかといういわゆる**学びに向かう力・人間性等**、何を理解しているか、何ができるかといういわゆる**知識・技能**、理解していることやできることをどう使うかという**思考力・判断力・表現力等**とし、これらは、現行の学習指導要領で示されている「確かな学力」、「健やかな体」、「豊かな心」を総合的に捉えて構造化している。

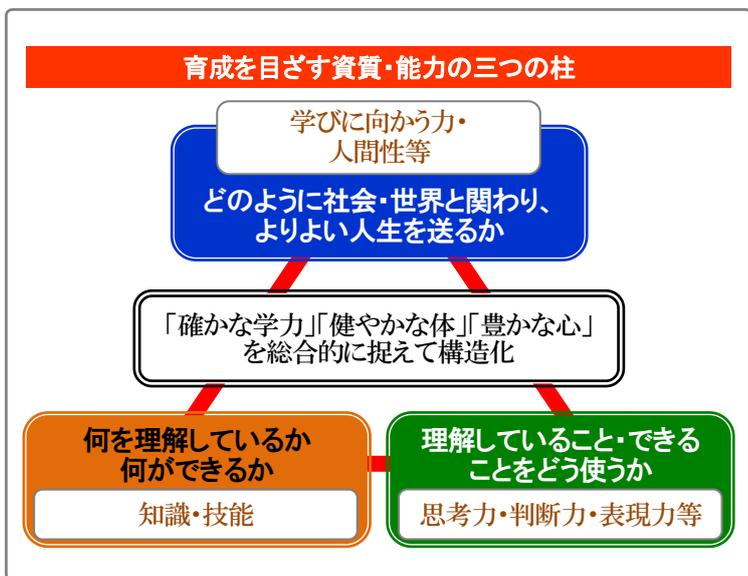


図2 資質・能力の三つの柱（「答申」補足資料より一部改編）

子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善の取組を活性化していくことが重要である。

育成すべき資質・能力の一つ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」に関しては、学校と地域社会において具体的な連携や協働をすでに展開している。例えば、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や、地域住民等の参画により子どもたちの成長を支える仕組み（地域学校協働本部）等である。このような資質・能力も含め、学習指導要領改訂の方向性が示す「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何

ができるようになるか」の三つの要素が有機的に結び付く必要がある。

2 アクティブ・ラーニングの視点に係る課題

平成 27 年度教育課程研究会総則部門で行った教員対象の調査結果によると、アクティブ・ラーニングの認知度が約 90%以上と非常に高いことから、アクティブ・ラーニングという言葉がかなり浸透していることが分かった。また、今年度は各学校においても、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた様々な研究授業等の取組を行っている。しかし、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業の実施に際し、「指導方法が分からない」、「やってみたら、うまくいかない」等の声があることも当該調査結果から分かった。ここでは、何が問題で、どのような工夫が必要なのかをアクティブ・ラーニングの失敗事例を基にまとめた。

(1) アクティブ・ラーニングの視点と資質・能力の育成について

アクティブ・ラーニングの課題について、答申に次のような記述がある。

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善は、形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型をみざした技術の改善に留まるものではなく、子どもたちそれぞれの興味や関心を基に、一人ひとりの個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しをみざすものである。

— 高校教育課により改編（『答申』26 ページより）—

「アクティブ・ラーニング型授業」として、高等学校では数々の実践が紹介されているが、それは「型」ではなく、アクティブ・ラーニングの**視点**に基づいた授業改善が重要であることに留意する必要がある。

(2) アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業づくり

アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業を単元にどのように位置付けていくかについては、答申で次のように示された。

「主体的・対話的で深い学び」は、1 単位時間の授業の中ですべてが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子どもが考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる。

— 高校教育課により改編（『答申』52 ページ）より —

つまり、単元を中心とした授業づくりを行う中で、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた学習活動を効果的に配置していくことが重要であるということが示されたと考えられる。

またアクティブ・ラーニングの視点については、深まりを欠くと表面的な活動に陥ってしまうといった失敗事例も報告されている。

<※コラム：アクティブ・ラーニングの失敗事例>

ここでは、文部科学省の研究指定の報告書より、大学でのアクティブ・ラーニングの失敗事例を挙げ、失敗の原因からアクティブ・ラーニングに係る留意すべき点を示すこととした。

【ケース例】	授業のマンネリ化による学習への新鮮な刺激の欠如
グループ学習のとき、各回の授業が同じ流れになる、つまり同じパターンで「グループ学習の組立て」をして進めると、そのパターンを学生が学習してしまい、同じ学習方法なのに新鮮さを失ってしまい、学生の取組意欲に負の影響を及ぼすことがある。	
<学習者の問題行動の現われ（例）> ○「主体的な学び」の点での問題行動 ⇒ 知識吸収への貪欲な態度の後退 ○「対話的な学び」の点での問題行動 ⇒ 議論を尽くすなどの手続きを飛ばして結論を求めようとする態度 ○「深い学び」の点での問題行動 ⇒ 面倒な課題を早々に片付けようとするやや投げやりな姿勢	
<指導者側の原因（一部）> ○教員が、慣れないアクティブ・ラーニングに戸惑い、準備不足であった。	
<対策法（例）> ○単一の課題で長時間作業にするのではなく、その課題を短時間での複数タスクに分割し、小刻みなテンポ感も検討する。 ○曖昧で大きな課題は、生徒が何をすればよいか分からず途方に暮れさせる可能性がある。生徒の能力を考慮した課題を立てる。	

このケース例は、アクティブ・ラーニングを型として捉え、一定の手法で継続して行うことによる失敗例である。「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識し、求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことが、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業づくりの在り方を考える大きなヒントになる。

〔「アクティブラーニング失敗事例ハンドブック～産業界ニーズ事業・成果報告」～（平成 26 年 11 月）（中部地域大学グループ・東海 A チーム）〕

3 具体的な実践事例からアクティブ・ラーニングを考える

アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業づくりを行う上で、どのような点に留意する必要があるかを探るため、研究授業を行うことにより、具体的な実践事例を通してアクティブ・ラーニングを考えてみることにする。

研究授業実施の趣旨	「特定の学習・指導の型や方法の在り方を理解し実践すれば、どの学校におけるどのような授業においても目標の実現につなげることができるというわけではなく、それぞれの学校によって、育みたい生徒像に基づき設定している身に付けさせたい力の育成に向けた授業の組立てが必要である。」という仮説を立て、その検証を行うため、タイプの違う二つの学校において研究授業を行った。
-----------	--

(1) 横浜明朋高等学校（定時制課程）

ア 研究授業実施校について

①実施校における研究テーマ：

生きていく上で必要となる確かな学力とコミュニケーション能力及び豊かな人間性を育む

②科目名：「社会と情報」学年（年次）：1年

③単元名：情報の活用と表現

④単元のねらい：

- ・情報を伝える際に、どのようなことに気を付けることで確実に伝わるかを理解する。
- ・情報を共有し課題を解決していくために必要な役割について学ぶ。
- ・情報通信、コミュニケーションの特徴を踏まえ、課題の発見と解決に役立てることができる。

⑤単元で身に付けさせたい力：

コミュニケーション能力、情報を伝達する力、情報を自ら活用しようとする力

⑥本時の授業内容の概要：

前半は、ペアを組み絵を口頭で伝え描いてもらう伝達ゲームを行い、後半はグループを作り情報伝達・収集による課題解決ゲームを行う。

⑦本時のねらい：

口頭でのみ情報を発信してよいというルールのもと、与えられた白紙をどう活用するかについて考察させることで、情報共有において大切なこと、課題解決へのつなげ方に気付き、実践できるようにさせる。

イ 授業づくりの視点

身に付けさせたい力	授業づくりの際に留意した点
コミュニケーション能力	・全員が活動できるような題材にする。 ・言葉による情報伝達に重点を置き、言葉で伝達しなければ解決できない課題設定にする。
情報を伝達する力	・基礎から発展という流れの中で、伝わりやすい言葉を意識できるようにする。 ・絵を描く課題を通し、情報を伝える際の言葉の重要性に気付かせる。
情報を自ら活用しようとする力	・役割分担（司会、書記）を明確にすることで、情報共有がスムーズに進むことに生徒自身が気付くよう促す。 ・共有した情報のまとめ方も、工夫しなければスムーズに解決できないような課題設定にし、生徒自身がそのことに気付くよう促す。

ウ 振り返りから見た生徒の変容

①「今日の授業で気付いたこと」について

「自分の意見をしっかり言うことが大事」、「言葉だけで情報共有する難しさを知った」、「コミュニケーション能力の重要さが分かった」といった、言葉での情報伝達の重要性や難しさに関する記述が複数あった。このことから、言葉のみで情報を伝える難しさを感じつつも、情報共有において大切なことに気付いた生徒が多数いたことが分かった。またそれらを共有し課題解決につなげることができたグループもあり、全員ではないが、授業のねらいが概ね達成できた。

②「今日の授業でどのような力が身に付いたか」について

「コミュニケーション能力」、「的確に情報を伝える力」、「情報をまとめる力」といった記述が複数あり、この単元を通して身に付けさせたいと考えていた「コミュニケーション能力」、「情報を伝達する力」、「情報を自ら活用しようとする力」の育成を、生徒自らが実感していたことが分かった。しかし後半のグループワークにおいて、実際に課題解決につながったグループは6グループ中2グループであったことから、特に「情報を自ら活用しようとする力」の育成については、十分に達成されなかったと考えられる。

(2) 湘南高等学校（全日制課程）

ア 研究授業実施校について

①実施校における研究テーマ：

授業互見による湘南高校での授業及び、進学重点校におけるアクティブ・ラーニングの視点による深い学びに係る組織的研究

②科目名：「物理」学年（年次）：3年

③単元名：電磁誘導と電磁波

④単元のねらい：

電磁誘導の法則を基に、交流の発生の仕組み、コイルにおける自己誘導と相互誘導の原理、交流回路における現象、電気振動回路についての理解を図る。

⑤単元で身に付けさせたい力：

電磁誘導の法則を基盤とし高度な数式を用いて現象を正確に解き明かす力

⑥本時の授業内容の概要：

前半は、振動回路について「なぜこの現象が起こるのか」を、習熟度に応じたプリントを用いて、既習の知識を用いながら、生徒一人ひとりが取り組む。後半はその内容を整理するために課題に一人ひとりで取り組み、最後にグループ活動の中で理解を深める。

⑦本時のねらい：

高度な数式を用いて、電気振動回路が生じる理由に関する理解を図る。さらに、発展的な課題解決の場面を設定し、個人から協働へ、協働から個人への活動場面の転換により、深い理解の促進を図る。

イ 授業づくりの視点

身に付けさせたい力	授業づくりの際に留意した点
事象を解明する力	<ul style="list-style-type: none">・見通しと振り返りの徹底を意識する。・レベル別のワークシートを用意し、個々の能力にあった課題設定をする。・個々の考える時間を大切にするために、教師のアプローチは極力控え、理解しておいて欲しいところのみ焦点をあてるアプローチを行う。
課題を解決しようとする力	<ul style="list-style-type: none">・発展的な題材を基に、現象を一般化できるような課題設定を行う。・個人の活動からグループ活動を経て、再度個人の活動に戻ることによって、自らの考え方の整理を促すことができる。

ウ 振り返りから見た生徒の変容

①「今日の授業で気付いたこと」について

「いろいろな公式の導出過程について、知らずにきたので、復習したい」、「公式を見て現象を思い浮かべなければ応用ができないことを実感した」、「数式の内容は知っているけど、それを証明などに使う時に活用することができない」、「感覚的に理解はしていても公式の意味を知らなかった」などの意見が多く挙がった。これまで、上級学校の進学に必要な知識をただインプットするだけで終わっていたため、いざ、本質を問う課題に挑戦すると、その活用ができないことに気付いてくれたので、授業者のねらいは伝わったと考えられる。

②「今日の授業を通して今後知りたいこと」について

「これまで習ってきた公式をもう一度、数学を用いて解き直したい」、「この単元以外の所で習った振動する運動について同様に考えてみたい」、「もっと現象の本質に数学を用いて迫ってみたい」などの意見が挙がった。物理が、数学を用いて現象を導いていくものであることを前向きに捉えて、更に高度な課題に対して取り組みたいという姿勢が見え、授業者のねらい以上に自らの考えを整理していた。

③「自由記述欄」より

グループ活動により、「人に説明して、より分かった」、「周りと話して、整理できた」などの意見があり、授業者のねらい通りの回答が出てきた反面、「一人で考えていきたい」という意見もあった。また、「今回の授業のような課題にまた取り組んでいきたい」という回答も得られた。

4 授業検証と課題の分析

授業の検証を行う上で、アクティブ・ラーニングの重要な視点である「主体的・対話的で深い学び」については、本来一つの概念であることを前提としながら、より焦点化した分析を行うという観点から、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つに切り分けて考えていくこととする。

まず、それぞれの授業を「教師の仕掛け」、「生徒同士の学び」という視点から観察し、その結果としての「生徒の姿」を見取ることとした。なお、それぞれの授業について観察して気付いた項目を、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」のうち比較的関連性が高いと思われるものに分類している。

(1) 横浜明朋高等学校（定時制課程）

ア 授業観察の結果

【「主体的な学び」の見取り】

教師の仕掛け

- ◇楽しめるペアワークを設定した。
- ◇課題ができない生徒には励まし、できた生徒には皆の前でほめた。
- ◇生徒の達成状況に応じて、基礎的な内容だけでなく、発展的な内容を含む課題についても設定を行った。

生徒同士の学び

- ◇情報を共有し、課題解決に向け様々な工夫をしながら話し合いを行った。

生徒の姿

- 学ぶ喜びを実感した。
- 「分からない」ことを恥ずかしいと思わず、安心して課題に取り組んだ。
- より発展的な学びへの意欲を見せた。
- 課題解決につながる情報を提供しようとした。
- より早く解決するための方策を見付け出そうとしていた。

【「対話的な学び」の見取り】

教師の仕掛け

- ◇情報伝達だけでなく、「考えるための議論」をするための指導を行った。
- ◇生徒にマイクを向けて、説明を求めた。

生徒同士の学び

- ◇まとめ役（司会進行）の必要性を見出した。
- ◇自分の意見と他者の意見を比較していた。

生徒の姿

- 「情報の伝達」と「課題を解決するための議論」を区別し、互いに意見を交わすようになっていた。
- マイクを渡されることで、より分かりやすく伝えるように説明の仕方を工夫した。
- 「グループ内の役割」、「グループ内における協働」が自然に生まれた。
- 意見の違いについて、原因を分析しようとしていた。

【「深い学び」の見取り】

教師の仕掛け

- ◇段階を追って学習内容を積み上げていく授業の構成とした。
- ◇課題解決のための方策をいくつか例示した。

生徒同士の学び

- ◇正答した他者から、正答した理由を学んでいた。
- ◇グループ協議で出た想定外の答えについて、意見交換した。
- ◇限られた時間の中で、課題の解決策を協働して練り上げていった。

生徒の姿

- 対話やマトリクスの作成を通じて、課題解決のための戦略を各班で練り上げていた。
- 授業後、情報伝達の難しさを実感しつつ、より難易度の高い学習を求めている。
- 他者の答えから、自分の誤りについての振り返りを行った。
- 様々な解釈について学び合い、想定外の答えの原因を追究していた。
- 課題解決のための整理法の改善が見られた。

イ 横浜明朋高等学校の授業の様子から分かったこと

学校として、生徒に単元で身に付けさせたい力を踏まえ、学習者にそれらの力を意識させ、その育成に向けた指導を行うとともに、生徒同士の学び合いを促すことで、教室全体が主体的に学ぼうとする姿に変わり、「対話的な学び」から、「深い学び」につながった。

ウ 課題

授業全体についての課題	○授業のはじめに「本時のめあて」をもう少し明確に示さないと、活動の見通しを持たせることが難しくなる。 ○生徒の学習活動の状況の把握を適切に行わないと、学習内容を理解できない生徒の活動が滞ってしまう。
「主体的な学び」に係る課題	○「人の話を聞く」態度の指導の徹底が重要である。 ○「チームへの貢献度」や「情報伝達の達成度」等、生徒に問いかけて意識させるとよかった。 ○主体的になれない生徒に対して、興味や関心を高め、課題解決のためのアドバイスやヒントを用意するなどの支援があるとよい。
「対話的な学び」に係る課題	○うまく情報伝達ができなかったグループの例にも注目させ、「なぜ」や「どうすればよいか」等、検証させる時間が必要である。 ○対話だけでなく議論させることの必要性を指導するとよい。
「深い学び」に係る課題	○「振り返り」は、単なるアンケートや感想ではなく、学習の達成状況や学習後の生徒の変容を見取るためのものであることの共通理解が必要である。 ○常に生徒に自らの発言の根拠を求める等、より深い学びに導く工夫をする。

エ 生徒による授業評価の推移（当該クラスのみ）

次の表1の結果から分かることを整理すると、次のようになる。

（表1から分かること）

- 項目「④授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。」に関しては、授業者がある程度の長い期間で作為的にこのような学習活動を多く取り入れることを意識し、継続的に取り組んだ成果として表れている。
- 項目「③生徒の理解度に合わせて、授業が進められている。」及び項目「⑤説明の仕方がていねいで、分かりやすい授業である。」に関しても、項目④と連動するように数値が上昇しており、教師がアクティブ・ラーニングの視点に基づく授業を実践することにより、生徒は自分たちの学習状況に応じた指導を受けていることを実感し、また、生徒にとって分かりやすい授業となっている。

表1 横浜明朋高等学校における「生徒による授業評価」の結果

評価項目 (データ母数：第1回28、第2回27)	第1回（7月）				「4」の 比率(%)	第2回（11月）				「4」の 比率(%)
	4	3	2	1		4	3	2	1	
① 材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。	15	11	2	0	53.6	16	11	0	0	59.3
②授業で学習した内容がだいたい理解できている。	10	14	3	1	35.7	13	12	2	0	48.1
③生徒の理解度に合わせて、授業が進められている。	10	13	5	0	35.7	14	13	0	0	51.9
④授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。	8	13	6	1	28.6	13	12	2	0	48.1
⑤説明の仕方がていねいで、分かりやすい授業である。	12	13	3	0	42.9	16	11	0	0	59.3
⑥生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。	12	14	2	0	42.9	15	12	0	0	55.6
⑦授業でわからないことがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かるようとする努力をしている。	13	9	5	1	46.4	12	12	2	1	44.4
⑧授業に対して意欲的に取り組んでいる。	15	11	2	0	53.6	15	11	1	0	55.6
⑨授業のルール、マナー（携帯電話、ヘッドフォン、飲食、おしゃべり、居眠り、途中入退室をしない等）を守っている。	17	8	3	0	60.7	19	8	0	0	70.4

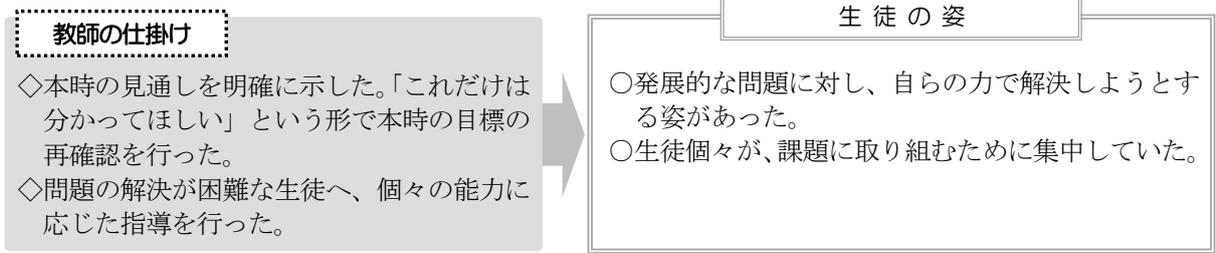
※ すべての質問において「1～4」は以下のとおりである。

- 1 ほとんど当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 ほぼ当てはまる 4 かなり当てはまる

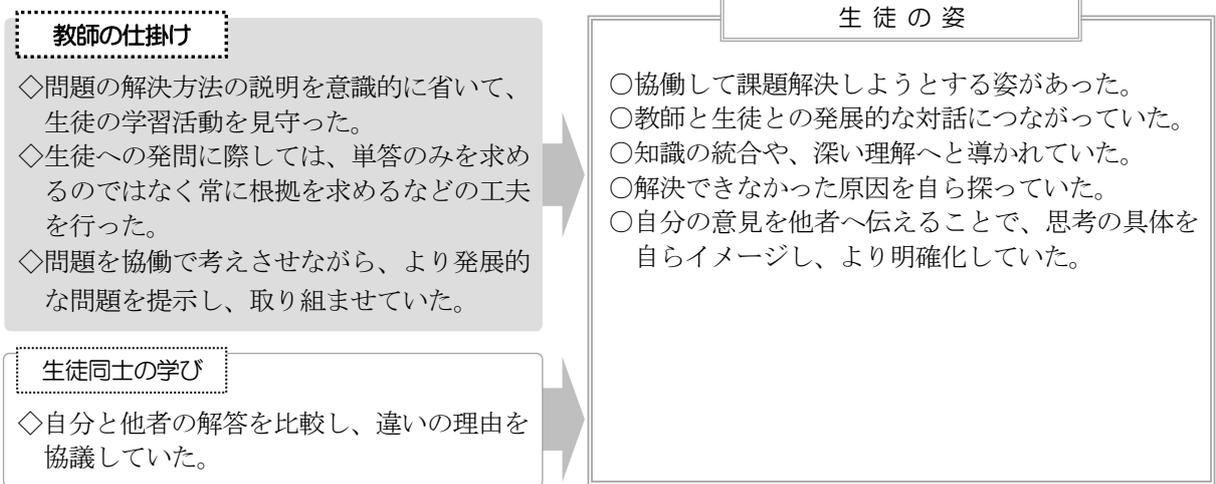
(2) 湘南高等学校（全日制課程）

ア 授業観察の結果

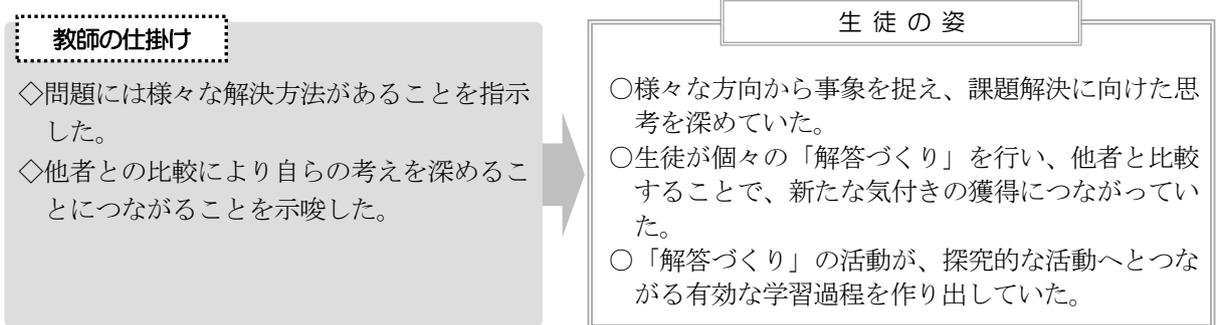
【「主体的な学び」の見取り】



【「対話的な学び」の見取り】



【「深い学び」の見取り】



イ 湘南高等学校の授業の様子より分かったこと

授業の中で、三つの学び（「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」）が連鎖していく様子を見ることができた。

【「主体的な学び」の見取り】から【「深い学び」の見取り】へ ・前回の授業テーマの確認（知識の定着）を活用し、今日の課題「なに?」、「なぜ?」を自ら積極的に解決しようとする姿があった。 ・ワークシートでは自己の学力の達成状況に応じた複数の方法を提示したが、生徒が自らの判断で選択し、それぞれ解き方を工夫して取り組んでいた。 ・物理の問題を解くために、数学の視点や知識を活用した。
【「対話的な学び」の見取り】から【「深い学び」の見取り】へ ・グループで、問題の解決方法について話し合い、理解している生徒が理解していない生徒に説明することで、理解している生徒が、より思考を深めていた。 ・問題点をグループ内で共有することで、多角的な解決策を導いていた。
【「主体的な学び」の見取り】、【「対話的な学び」の見取り】、そして【「深い学び」の見取り】へ ・上級学校の入学者選抜試験問題の解決を示唆する。学び合いながら苦労して考え、様々な方法で解くことで課題を解決しようとする力を身に付けていた。

ウ 課題

授業全体についての課題	○解決を図った生徒にクラス全体の中で説明させるとよい。 ○三角関数や微分法など数学の学習内容を活用する場面が多くあるため、教師が数学的な「見方・考え方」を理解する必要があり、教科横断的な発想を持つことが求められる。
「主体的な学び」に係る課題	○授業のねらいを板書した方が、より明確に生徒に活動の見通しを持たせることができた。 ○教師による生徒の活動への介入については、生徒にとっての必要性や期待について、しっかりと把握する必要がある。
「対話的な学び」に係る課題	○生徒の学習内容の定着度の差により、話し手と聞き手に分かれてしまう。
「深い学び」に係る課題	○生徒の振り返りが、アンケートではなく、学習活動の一つであることに留意する必要がある。

エ 生徒による授業評価の推移（当該クラスのみ）

次の表2の結果から分かることを整理すると、次のようになる。

（表2から分かること）

- 項目「④授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。」に関しては、授業者がある程度の長い期間で作為的にこのような学習活動を多く取り入れることを意識し、継続的に取り組んだ成果として表れている。
- 項目「②授業で学習した内容がだいたい理解できている。」及び項目「⑥生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。」に関しても、項目④と連動するように数値が上昇しており、教師がアクティブ・ラーニングの視点に基づく授業を実践することにより、生徒は教師による個々の学習状況に合わせた指導を実感し、また、生徒の学習内容の理解の深化につながる。

表2 湘南高等学校における「生徒による授業評価」の結果

評価項目 (データ母数：第1回82、第2回83)	第1回（7月）				「4」の 比率(%)	第2回（11月）				「4」の 比率(%)
	4	3	2	1		4	3	2	1	
① 教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。	33	47	2	0	40.2	42	41	0	0	50.6
②授業で学習した内容がだいたい理解できている。	21	47	11	3	25.6	34	40	7	2	41.0
③生徒の理解度に合わせて授業が進められている。	25	52	5	0	30.5	31	50	2	0	37.3
④授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。	16	35	31	0	19.5	25	41	17	0	30.1
⑤説明の仕方がていねいで、分かりやすい授業である。	44	37	1	0	53.7	48	35	0	0	57.8
⑥生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。	24	50	8	0	29.3	38	41	4	0	45.8
⑦授業で分からないことがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かろうとする努力をしている。	21	54	7	0	25.6	28	46	8	1	33.7
⑧授業に対して意欲的に取り組んでいる。	25	48	9	0	30.5	29	46	7	1	34.9
⑨予習や復習を行い、授業のマナーを守っているので授業態度は良好である。	19	50	13	0	23.2	24	46	11	2	28.9

※ すべての質問において「1～4」は以下のとおりである。

- 1 ほとんど当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 ほぼ当てはまる 4 かなり当てはまる

5 提言 ～「サーモグラフィで生徒の脳を見る」というイメージ～

今回の教育課程推進委員会総則部門では研究テーマを「組織的な授業改善の推進～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業実践の必要性と授業づくりの在り方～」とした。

学習指導要領の改訂に向けて、大きな柱である「アクティブ・ラーニングの視点」は、「主体的・対話的で深い学び」の視点そのものであり、習得、活用、探究へとつながる学習過程を通して生徒の育みたい資質・能力を育成する。ただここで注意しなければならないのは、あくまでもアクティブ・ラーニングの「視点」であり、「型」ではないということを教員がしっかりと認識すべきであるということである。それは、本研究で検証したタイプの違う二つの学校で行った研究授業において、次のことが明らかになったということと大きく関連している。

本研究から分かったこと

アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業づくりを行うためには、アクティブ・ラーニングを共通の型(手法)と捉えずに、それぞれの学校の求める資質・能力の育成を旨とする学習活動の場面を設定し、教師による効果的な舵取りを行う必要がある。

つまりそれぞれの学校で育みたい生徒像や身に付けさせたい資質・能力は異なるので、**アクティブ・ラーニングの視点を授業に取り入れればよいのではなく、どのようなアクティブ・ラーニングの視点に基づく授業を行えば、自校における生徒の育みたい資質・能力を高めることができるか、**ということを考えなければならないということである。そのためには教員一人ひとりが個々で考えるのではなく、オープンな議論で、RPDCA サイクルに則り、学校全体で組織的に行われるべきなのである。

生徒の学習に対するアクティブな姿とはどのようなものなのだろうか。確かにグループ活動を行ったり、ペアワークを行ったりすることで、アクティブな姿を見取することもできる。ただ本研究を進めるうちに、分かってきた授業に対する生徒のアクティブな姿のイメージは、「サーモグラフィで生徒を見たときに脳が真っ赤になっている。」というものであった。夢中になって取り組み、思考し、表現しようとする生徒の脳はきっと、サーモグラフィで見ると真っ赤になっているだろう、というものである。

自校の生徒が、自ら考え、夢中になるためには、どのような方法があるのか。育みたい生徒像に近づけるためにはどのようなアクティブ・ラーニングの視点に基づく指導方法があるのか。このことを是非周囲の教員、同じ教科、同じ学年、更には学校全体で考えていただきたい。本研究成果がそのきっかけになってもらえば幸いである。

最後に、答申の中に、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業を取り入れることが授業時間数の不足につながるという考え方に対する答えとも言える記述があるので、紹介する。

こうした学習活動（アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業の基となる学習活動）については、今までの授業時間とは別に新たに時間を確保しなければならないのではなく、現在すでに行われているこれらの活動を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫が求められていると言えよう。

— 高校教育課により改編（『答申』51 ページ）より —

このように、アクティブ・ラーニングの視点とは、学習指導要領の改訂に向けて新たに生まれた視点では決してないということを押さえておく必要がある。

単元の構想を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で捉えた場合、どのような学習活動をどのように単元の中に配置するか、配置されたそれぞれの学習活動をどのように評価するか、それぞれの学習活動を評価する評価の観点と各観点に対応する評価規準をどのように設定するかなど、単元全体を総体的な一つの物語として作り上げ、組み立てていくことが重要なことである。これはまさに、本県における組織的な授業改善の推進そのものであり、アクティブ・ラーニングの視点を授業づくりに取り入れることは、今まで取り組んできた授業改善を継続しながら更なる見直しを図ることであると考える。

国 語

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びにつなげる国語科の授業実践事例

(2) 研究のねらい

授業において、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」ということに着目する際、「アクティブ・ラーニングの視点」を欠くことはできない。「アクティブ・ラーニングの視点」とは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要な視点である。しかし、実際にどのような授業をすればよいのか、というイメージはなかなか湧きにくい。また、「アクティブ・ラーニング」という言葉に対して、少なからぬ誤解があるということも、現状では看過できない課題である。

今回、国語部門では、「資質・能力」の育成を目ざすための「アクティブ・ラーニングの視点」を取り入れた実践事例を示すに当たり、いわゆる「定番教材」を用いることで、より具体の授業イメージが持ちやすくなると考え、研究を進めた。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：「国語総合」（学年：1年）

②単元名：小説を深く読む楽しさを味わう～読み手に対し色彩表現が及ぼす影響を比べる～

③単元のねらい（身に付けさせたい力）

- ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。（関心・意欲・態度）
- ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。（読む能力）【読むことア】
- ・色彩を用いた象徴表現の特色及び役割を理解する。（知識・理解）

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ア）】

- ・難解語句の語彙を理解する。（知識・理解）【 同イ（イ）】

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章の内容に応じた象徴表現の特色や効果に注意して読もうとしている。	文章の内容に応じた象徴表現の特色や効果に注意して読んでいる。	色彩を用いた象徴表現の特色及び役割を理解している。 難解語句の語彙を理解している。

⑤単元の指導計画 a: 関心・意欲・態度 b: 読む能力 c: 知識・理解

次	学習活動	a	b	c	指導上の留意点
1	○学習の見通しを立てる。 ・単元の目標について確認する。 ○本文の内容を把握する。 ・難解語句の語彙を確認する。 ・本文をペアで音読する。 ・「夢十夜（第一夜）」の初読感想を書く。			○	・本文の内容を把握させるとともに、使われている語句の意味に着目させる。 ・初読の感想は単元の最後に振り返りで活用する。
2	○色彩を用いた表現を整理する。 ・「夢十夜」と「羅生門」の中の色彩表現をそれぞれ抜き出す。 ・インターネット等の資料を用いて、それぞれの色が持つ一般的な意味、イメージを調べる。				・第3次の準備部分であるため、ここでの評価はなし。 ・色が持つ具体的なイメージをなるべく多く挙げることによって、色彩を用いた表現の効果の可能性を実感させる。

3	<p>○色彩を用いた表現の効果等を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両作品に共通して登場する色に着目し、それぞれの色が持つイメージを、作品に照らして考える。 ・色が読み手に与える、印象の違いや効果について考える。 ・個人で考えた内容について班で話し合う。 ・班で話し合った結果をクラスで共有し検討する。 ・検討結果を踏まえて、色彩を用いた表現が読み手に与える効果を個人でもう一度まとめる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・象徴表現の受け止め方については個人差があることが予想されるので、まずはしっかりと個人で考えさせる。 ・個人で考えた上で班、クラスと意見交流の範囲を広げる。
4	<p>○単元を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢十夜（第一夜）」の鑑賞を行い、初読の感想と比較する。 ・小説における象徴表現の特色、効果等について考える。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の「夢十夜」、「羅生門」の具体的な効果に留まることなく、小説における象徴表現の効果へと思考を一般化させたい。

⑥授業実践例（第3次の2時間目）

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
<p>○前時の内容の確認と本時の見通しを立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色が読み手に与える、印象の違いや効果等について個人で考える。（前時） <p>○色彩を用いた表現の効果等についてグループで考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に個人で考えた内容について班で話し合う。 ・班で話し合った結果をクラスで共有し検討する。 ・検討結果を踏まえて、色彩を用いた表現が読み手に与える効果を個人でもう一度まとめる。 	<p>文章の内容に応じた象徴表現の特色や効果に注意して読んでいる。【読む能力】 (ワークシートの記述の分析)</p>

研究実施校：神奈川県立川崎北高等学校（全日制課程）
 実施日：平成28年10月6日（木）
 授業担当者：西 泰弘 教諭

（2）アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

○主体的な学び

国語の授業では、「教科書を教えるのか」「教科書で教えるのか」という議論がなされることがあるが、本事例で言えば、『夢十夜』の内容「を」理解することが授業の目標、目的なのではなく、生徒に小説を読み味わうことの楽しさや方法を、『夢十夜』というテキスト「で」学ばせることが最終的な目標となる。

一年生の「国語総合」の時間は、生徒が、今後、多くの小説作品に主体的に向き合うための大切な導入期間だと考える。深く内容を読み味わおうとする姿勢を育てるためには、まず、そのための「方法」を生徒に身に付けさせることが大切である。そこで今回は、小説を読み味わうための一つの方法として、特に「色彩表現」に着目した。

授業を通し、このような方法を身に付けることで、生徒は『夢十夜』以外の小説に出会った際にも、「色彩表現」を手掛かりとして、主体的に作品と向き合い、それを読み味わうことができるようになる。国語科における「主体的な学び」とは、その授業の活動に積極的に参加したり関わったりすることではなく、授業を通して身に付けた力を、今後の言語生活の中で生かしていくために、生徒が自らの中で整理できるような学びを指している。

○対話的な学び

評論文等と異なり、小説は読み手によってその解釈に幅がある。同じテキストであっても、読み手が抱える価値観で受け取り方が異なるのが小説の面白さだとも言えよう。特に、本事例で取り上げた「色彩」は、その印象が人によって大きく異なる。多様な読みの可能性を交流することで、一人ひとりの読みは深まり広がる。本来、個人内活動であるはずの小説の読みを教室という場で行う意味は、まさにここにある。

また、「対話的な学び」とは、目の前にいる人間との対話だけではなく、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ自己の考えを広げ深めることであるとされている。国語科で扱うテキストの向こう側には、筆者・作者が存在し、読み手に何かを訴えようとしている。本事例で言えば、作者である夏目漱石が『夢十夜』を通して何を伝えようとしたのか、そのためにどのような表現上の工夫を行ったのか、そのことを追究することがすでに「対話的な学び」であるということも忘れてはいけない。

○深い学び

「深い学び」とは、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かうことであり、国語科の「見方・考え方」は、自分の思いや考え方を深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることであるとされている。

本事例で扱った『夢十夜』には、夢ゆえの独特な事物が登場する。ここに表現されているものは、現実世界に存在するものではなく、作者と読者の概念の中、「言葉」の上だけで成立している。まさに「言語」により構築された世界である。

殊に、今回着目した「色彩表現」はイメージの個人差が大きく、概念的なものであるが、同時に、読み手が物語の世界観に入り込む上で大きな役割を果たすものでもある。今回は、生徒が色彩表現について考えやすくするため、既習の「羅生門」に使用されている色彩表現と比較を行い、読み手に与える物語の印象の違いを感じ取らせることとした。

ワークシートの記述に見える『夢十夜』に対する読みの印象の変化

- ・色を使った表現によって、物語のイメージをしやすく鮮明に伝わってくるものだと思った。色を気にせず読んでいくよりも、色に注目して見た方が、深く話に入り込めると思いました。
- ・作者の視点からの色の感じ方というのは、自分にはなかった発想で、なるほどと思った。色に着目すると、いろんな違いを知ることができて、小説の新しい読み方を見つけられた気がします。
- ・最初読んだときは「人が死ぬ物語」というくくりで読んでいて暗いイメージだと思ったけれど、一つひとつの単語で物語の色が変わっていくことが分かって、物語の一つの出来事で印象を決めてしまうのはもったいないなと思った。
- ・羅生門ではカラスの糞や白髪など、あまりいい印象を持つものがありません。夢十夜では真っ白な頬、唇の色など、綺麗で上品なイメージを持つものがあります。この二つを比べてみて、色は想像力を広げる効果があるのだと改めて思いました。

以上のような記述から、生徒が今回の授業を通して、『夢十夜』の内容を理解するという事に留まらず、小説を読み味わうための一つの視点として「色彩表現に着目する」ということを学んでいることが分かる。また、自分の受け止め方ということだけではなく、「作者の視点からの色の感じ方」といった、小説における表現の工夫という部分にまで言及している生徒もいた。このように、作品をメタ認知できているということは、今後、彼らが「主体的な読み」を行う上で大きな力となっていっくだろう。

しかし、一方で、研究授業の参加者からは、「『羅生門』との比較の意図やねらいがよく分からなかった。」との指摘もあった。他の作品と比較するという手法は、『夢十夜（第一夜）』の表現上の特徴を顕在化させるという意味で効果的だが、比較対象として『羅生門』が適当だったかということについては、本委員会の中でも議論になった。既習教材である利点はあるが、「色」に注目させるとなると、より扱いやすい作品（『夢十夜』の別段等）があるのではないかと、という意見が挙がった。「深い学び」の追究のためには、授業デザインやアプローチ方法の吟味だけではなく、教材となるテキストの深い読み込みも欠かすことができないと考える。

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：「古典B」（年次：2年）

②単元名：平安時代の人の心を読み解く『更級日記』（『源氏物語』を読む）

③単元のねらい（身に付けさせたい力）

- ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。（関心・意欲・態度）
- ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。（読む能力）【指導事項ウ】
- ・古典の内容や表現の特色を理解する。（知識・理解）【指導事項エ】

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
『更級日記』を読んで、筆者の思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	『更級日記』を読んで、筆者の思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	古典の内容や表現の特色を理解している。 菅原孝標女に関する事柄、文学史的知識等を理解している。

⑤単元の指導計画

次	学習活動	関	読	知	指導上の留意点
1	<p>○本文に出てくる単語調べを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語の意味を理解する。 <p>○本文クイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項、表現事項をつかむ。 			○	単に教え込むことをせず、自ら考え予想をし、その後調べるように指導する。
2	<p>○登場人物をまとめ、作者との関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の言動が、それぞれどのように作者の心情に影響を与えていくか考え、作者の人物像を整理する。 <p>○源氏物語の登場人物を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源氏物語の登場人物関連図、平安時代の生活について学ぶ。 		○		<p>ここでの読み取りを第3次の活動につなげるために、作者の心情を想像できるよう、机間指導を随時行う。</p> <p>作者の高揚感が理解できるよう、源氏物語の世界観をつかませる。</p>
3	<p>○前半部分での作者の心情変化を押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れを図にし、行動と心情変化を整理する。 <p>○後半の場面の心情描写を本文から抜き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の心の動きを理解し、的確にまとめる。 ・回覧し共通認識を持つ。 <p>○「まづいとはかなく、あさまし」と言っているのは誰か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何に対して、またどうして「あさまし」と言ったのか考える。 ・時間経過、年齢経過による心情変化を考える。 <p>○今と昔の日記の違いを考える。</p>		○		<p>グループごとの作品を回覧させることで自発的に読み解くことを生徒に意識させたい。</p> <p>一人で考えさせ、自分の意見を構築させ、その後にグループで意見交換をさせる。</p>
4	<p>○作者のこの後の人生を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14歳の自分と50歳代の自分との差異を考える。 ・更級日記の全体像を想像させる。 <p>○更級日記を文学史的に調べ、紹介パネルを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館等を利用し、更級日記に関する情報を集め、まとめる。 			○	本文の内容も加味したパネルになるよう指導する。

5	○単元を振り返る ・各々の作品を見合うことで人物描写や場面の場 景、心理描写がしっかりと捉えられているか振 り返る。	○	作成した資料の良し悪しで判断せず、本文 の内容をしっかりと捉えたものにできてい るかを評価し、評価シートも単なる感想に ならないよう工夫する。
---	--	---	--

⑥授業実践例（第3次の2時間目）

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
○前時の内容の確認と本時の見通しを立てる ・前時に作成した後半の場面の心情描写を回覧。 ・これからの話合いについてのポイントを理解する。 ○「まづいとはかなく、あさまし」と言っているのは誰か考える。 ・作者の心の動きをグループでまとめる。 ・まとめたシートを黒板に貼り付け、全体で確認する。 ・前半部分の終わりの言葉と、後半部分（縮めの言葉）を比較する。 ・個人で「あさまし」と言っているのは誰か、何に対して「あさまし」と言ったの か、どうして「あさまし」と言ったのか考えさせる。 ・「あさまし」の意味を踏まえた上で、時間経過、年齢経過による作者の心情の変 化をグループで考える。 ＊次回の課題である、今と昔の日記の違いや、作者がこの後どのような人生 を送ったのかを考えることにつなげる。	『更級日記』を読んで、筆者の思想や感情を的確にとらえ、 ものの見方、感じ 方、考え方を豊かに している。 【読む能力】 （それぞれのグルー プで作成したシート と個人のまとめプリ ントの記述の分析）

研究実施校：神奈川県立橋本高等学校（全日制課程）
 実施日：平成28年10月28日（金）
 授業担当者：内田 一利 教諭

（2）アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

○主体的な学び

高校生が「古典」に対して親しみが持てないということは、国語科の抱える大きな課題の一つであるが、その理由の一つとして、作品の内容や表現に、自分とのつながりが感じられないことがある。しかし、そのような生徒たちが高校を卒業した後、年齢を重ね環境が変わることにより、古典に対して親しみが持てるようになることは十分あり得る。これまでの古典の授業の考え方は、高等学校の授業時間内に、その作品の内容をいかに理解させるか、ということを目ざしてきた感がある。しかし、今後は視点を換え、学校卒業後も、生徒が折に触れて古典文学やそれに関わる事柄を意識していけるように、高校の授業において、「古典との接し方」を身に付けることを目指していく必要がある。これが、古典の授業における「主体的な学び」の大切な要素であると言えよう。

○対話的な学び

【事例1】の解説の部分でも述べたように、国語科の授業における「対話的な学び」には、作品の筆者・作者との対話が欠かせない。本事例の教材である『更級日記』は古典作品であり、平安時代を生きる作者との対話は、実に1000年近くもの時を経た対話となる。「対話的な学び」の目指すところは、多様な価値観に触れることにより、自らの考えを広げたり、深めたりするところにある。そういった意味では、古典作品に触れるということは、同時代の他者と対話することとは、また違う意義を持つ。時空を超えた対話、これこそが、我々が古典を学ぶ意義の一つであろう。

本事例では、14歳の主人公の心情を読み味わうことが一つの大きな目標となっている。時代を超えて、生徒が主人公である同世代の少女の心に触れること、さらには、成長後の主人公が、改めて幼かった自分

を振り返り、様々なことを思うその心に触れること、このような学びは、人生の疑似体験でもあり、生徒が自分自身を改めて見つめる契機となるだろう。

○深い学び

本事例は、本文の最後に50代の孝標の女が、14歳の自分を振り返り「あさまし」という感想を漏らす、その「あさまし」の示す具体的な心情を追究することを中心に据えて単元計画を組み立てている。辞書的に言えば「あさまし」は、「驚きあきれることだ」や「興ざめだ」と訳す。もちろん、本事例においても、その訳で間違いではない。しかし、そのような、通り一遍な訳では、筆者の心に迫ったことにはならないだろう。文中の一つの単語にとことんこだわり、突き詰めることで、文章全体が生き生きと立ち上がるということもある。

また、「深い学び」を考える上で重要な要素として、「習得・活用・探究」という学習プロセスがある。本事例では、『更級日記』の特定の部分を読み深めるだけでなく、その後に学校図書館等を用いて、作品全体について、その背景も含めて調べ、クラスで紹介し合うという学習を取り入れている。これは、先の学習プロセスで言えば、「探究」に当たる活動であるが、この一連のプロセスは、必ずしも「習得→活用→探究」という一方通行の活動ではなく、本事例で言えば、作品の全体像を捉えた上で、もう一度、細部の読みに戻ることによって、更に読みは深まるであろうし、そのプロセスの中で、知識の定着も進むと考えられる。

* 『更級日記』ワークシート例（グループまとめ用）

The worksheet consists of four pages, each featuring a drawing of a woman in traditional Japanese court attire (Koromo) and handwritten notes in Japanese. The notes are organized into columns and sections.

- Page 1 (Top Left):**
 - Text: 「見た目や顔立ちが良くなること、髪が長くなること、光の源氏の夕顔になりたい」
 - Character thought bubble: 「あ、髪が長くなること、光の源氏の夕顔になりたい」
 - Handwritten notes: 「髪が長くなること、光の源氏の夕顔になりたい」
- Page 2 (Top Right):**
 - Text: 「髪が長くてかわいい夕顔や浮舟の女君のようにになりたい!!」
 - Character thought bubble: 「あ、髪が長くてかわいい夕顔や浮舟の女君のようにになりたい!!」
 - Handwritten notes: 「髪が長くてかわいい夕顔や浮舟の女君のようにになりたい!!」
- Page 3 (Bottom Left):**
 - Text: 「未来について、髪を長く伸ばしてキレイになりたい、夕顔のようにになりたい」
 - Character thought bubble: 「あ、髪を長く伸ばしてキレイになりたい、夕顔のようにになりたい」
 - Handwritten notes: 「未来について、髪を長く伸ばしてキレイになりたい、夕顔のようにになりたい」
- Page 4 (Bottom Right):**
 - Text: 「顔立ち、限りなくよくなること、髪を伸ばしたい、夕顔のようになりたい、宇治の大将の浮舟の女君のようになりたい」
 - Character thought bubble: 「あ、顔立ち、限りなくよくなること、髪を伸ばしたい、夕顔のようになりたい、宇治の大将の浮舟の女君のようになりたい」
 - Handwritten notes: 「顔立ち、限りなくよくなること、髪を伸ばしたい、夕顔のようになりたい、宇治の大将の浮舟の女君のようになりたい」

今回、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業実践例として、二つの事例を紹介した。「アクティブ・ラーニング」というと、これまでになかった全く新しい何か、という印象があるが、この二例の解説を通して述べてきたように、今、求められているこの視点は、ゼロからスタートするものではなく、これまでの授業の中でも、すでに取り入れられてきたものである。ただ、これまで、無意識に行われてきたことを、意図的・計画的に行うことが必要であり、そのためには「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」という三つのキーワードを使って授業分析を行うことが有益だろう。これまでの授業を、この視点から分析整理し、今後の授業づくりに生かしていくことが重要である。

地 理 歴 史

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究のテーマ

逆さま歴史教育の視点を踏まえ、現代の事象と歴史的事実との因果関係などの考察を通して現代社会の成り立ちを深く学ばせる授業の実践

(2) 研究のねらい

平成27年度より、地理歴史部門では「逆さま歴史教育」に関する指導方法の研究や教材の開発を進めてきた。今年度は「逆さま歴史教育にかかる研究校」を5校指定し、平成29年度までの2年間の計画で研究が始まったことを踏まえ、昨年度の研究成果の上に立った新しい提案をすることを旨としてきた。「逆さま歴史教育」とは、現在の事象の歴史的な背景を、生徒自らが過去にさかのぼって探究し、因果関係などで結び付けながら、現代社会を多面的に捉える力を育もうとするものである。生徒は、多くの資料の中から有用な情報を得て、自分の仮説を発表し、また他人の意見を聞いたり、先哲との対話を手掛かりに考えたりすることで、更に自分の意見を錬磨していく。こうした営みがアクティブ・ラーニングの視点であり、私たちは「逆さま歴史教育」を通して、「歴史を語る力」を育みたいと考えた。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

- ①科目名：日本史A（学年：3年）
- ②単元名：開港と社会変化 ―横浜港から地域へ―
- ③単元のねらい：横浜の開港が周辺地域の人々の生活や社会にどのような影響を与えたかを考え、歴史的な背景と現代との因果関係を理解し、主体的に考察できる力を育む。
- ④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
開港による日本の産業や社会への関心を高め、現代から遡って過去を学ぶ態度を身に付け、主体的に学習に取り組もうとしている。	開港による日本の産業や社会について、過去に遡り背景を考え、適切に表現している。	開港による日本の産業や社会についての影響を表や地図など有用な資料を活用し適切に読み取ったりまとめたりしている。	開港による明治維新以降の日本の産業や社会の変化について、その背景や影響について理解し、知識を身に付けている。

- ⑤単元の指導計画 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

時間	学習項目	学習活動	ねらい	評価の観点				評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
1		本時の問い：ペリー来航の目的は、何だったのだろう。							
	東アジアとアジアへの競争	ペリー来航までの東アジアの情勢を理解する。	産業革命などを経て欧米諸国がアジアを旨としたことを理解する。					開国された経緯について、自分なりにまとめている。	ワークシート
	ペリー来航	ペリー来航の目的を理解する。	アメリカの寄港地として重要性に気付く。		○				
	日米和親条約	日米和親条約	条約の内容を知り、米国以						

	親条約 日米修好通商条約と締結	日米修好通商条約の締結前後の状況を調べる。	外とも結ばれたことを理解する。 条約締結に関して国内での混乱の状況を調べる。					○ 条約の不平等性や攘夷派の主張を整理し理解している。	ワークシート
2		本時の問い：開港によって、日本社会は、どのようなものと出会ったのだろう。							
	開国の影響	開港直後の貿易品目を調査する。	輸出入品の特徴を捉える。				○	資料を有効に使い、貿易品目の特徴をまとめている。	記述や発表の内容
	欧米諸国との交流	開国による人とモノの交流を考える。	日本と欧米で人やモノの交流が活発になったことを知る。						
	開港地の文化と社会	欧米から伝わったものを理解する。	西洋建築、ローマ字、新聞などが開港地から日本国内に広まったことを知る。	○				欧米から移入したものについて意欲的に調べようとしている。	ワークシート グループ作業
3		本時の問い：なぜ、八王子と東神奈川（横浜）は、結ばれたのだろう。							
本時	横浜線と国道16号	JR 東神奈川駅及び国道16号線の写真から考える。	横浜と八王子が結ばれている理由について仮説を立てる。						
	グラフや絵図を読み解く	発問例 「絵中の人は何をしているのだろう」 「日本からの輸出品目は何だろうか」	生糸取引の図であることを理解する。 輸出品の1位が生糸であったことを知る。				○	写真や絵図から読み取ったことを基に意見を発表している。	発言内容
	横浜から八王子への道	「各地から横浜に運ばれたものは何だろうか」	上州、甲州、信州が生糸の産地であることを読み取る。				○	横浜と近郊地域とのつながりを意欲的に理解しようとしている。	グループ作業
	横浜線と国道16号	「逆に横浜から八王子に伝わったモノは何だろうか」 横浜と八王子を結ぶ鉄道や道路の役割をまとめる。	生糸商人を通して、欧米の文化や考えが伝わったことを知る。 横浜と八王子を結ぶ鉄道や道路は、生糸や欧米文化が交流する場であったことを知る。						

研究実施校：神奈川県立神奈川工業高等学校（定時制）

実施日：平成28年11月21日（月）

授業担当者：加藤 将 教諭 授業クラス：第3学年建設科

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

生徒が日頃から目にしている駅や道についての話題を授業の導入とし、また絵画資料や各地の写真を用意したことにより生徒の興味関心を喚起することができた。また、資料から読み取ったことを言葉にするとといった活動を取り入れることもできた。

(3) 成果と課題

生徒が日常的に利用しているJR横浜線や国道16号の一部（八王子街道）の原型である神奈川と八王子を結んだ道は、かつて文化やモノが相互に行き来した道であった。横浜開港をきっかけとして、八王子や北関東地域と横浜とは深い結び付きが生まれた。このことについて、学校に近い駅や道から過去へさかのぼって探り、歴史的な背景を探究させる活動を、授業で取り上げた。一方、逆に神奈川から八王子へ伝播した文化やモノなどについては、触れられることはあまりないため、本時では、神奈川から八王子へどのような文化やモノが伝播したのかも視野に入れた授業を展開した。生徒は授業を通して、「生糸のおかげで自分がいつも利用している電車が開通した。」ことや「群馬県に横浜銀行の支店が三つもあると聞いたが、はじめはそれが何の意味があるのか分からなかったが、生糸の取引のことを知ってなるほどと思った。」、「内陸で生産された生糸は横浜から海外へ輸出された。今度は逆に内陸へキリスト教会、銀行、海外の家のデザインなどが伝わったことが分かった。」ことなどの感想があった。

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

- ①科目名：世界史A（学年：1年）
- ②単元名：モノと世界史（主題学習）
- ③単元のねらい：世界史の知識を活用してモノに隠された歴史を感じ、言葉にすることができる。
- ④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日常生活の中にある事柄に着目し歴史的観点に立って取り上げた衣食住、家族、余暇、スポーツなどの事例の変遷などを意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。	歴史的観点に立って取り上げた衣食住、家族、余暇、スポーツなどの事例から日常生活にみる世界の歴史について、その起源や変遷などを考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的観点に立って取り上げた衣食住、家族、余暇、スポーツなどの事例から日常生活にみる世界の歴史の考察に必要な諸資料について、有用な情報を読み取りたり図表などにまとめたりしている。	日常生活の中にある日本と世界の諸地域との接触・交流の軌跡や、生活・文化の地域的特色などについて理解し、知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

次	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 (本時)	茶と世界史	<ul style="list-style-type: none"> ・紅茶を実際に飲んで、自らが持っている「紅茶観」を言葉にする。 ・紅茶の基礎知識を学び、イギリス人が歴史的にどのように紅茶を受容してきたのかを理解する。 ・アヘン戦争を取り上げ、紅茶とアヘンと銀の貿易構造を示す。 ・アヘン戦争以後、中国が列強の侵出を招くことを理解する。 ・もう一度、紅茶を実際に飲んでみて、自らの「紅茶観」に変化があったかどうかを言葉にして示す。 ・グループで話し合いを行い、ホワイトボードに考えを書き全体に発表する。 	○				日常生活の中にある事柄について自分の考えを記述している。	ワークシートの記述内容
				○			学んだ知識を活用して考えを述べている。	ワークシートと発表資料

2	砂糖と世界史	<ul style="list-style-type: none"> ・映画を見て、本時に扱うモノが砂糖であることを知る。 ・映画の背景を知る。 ・イギリス風ライフスタイルの象徴と言われる「砂糖入り紅茶」について取り上げ、紅茶と砂糖、及び奴隷について、それぞれを関連付けて述べる。 ・アメリカやカリブ海になぜ黒人がいるのかを考える。 					○	学んだ知識と資料を活用し、事象について筋道を立てて説明している。	ワークシートと発表資料	
3	コーヒーと世界史	<ul style="list-style-type: none"> ・コーヒーを飲んで、自らが持っている「コーヒー観」を言葉にする。 ・コーヒーの基礎知識を学び、イギリスのコーヒーハウスの例を取り、コーヒーが歴史の中でどのような役割を果たしたのかを知る。 ・コーヒーによって結び付いた人々の例として、イギリスの党派やフランス革命を知る。 ・モノが人間の歴史の影にあるということを理解し、言葉にする。 	○				○	歴史的な背景を踏まえて、日常生活の中の事柄について自分の考えを述べている。学んだ知識が定着している。	ワークシートの記述内容 ワークシートの記述内容	
4	チョコレートと世界史	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートを食べて、自らが持っている「チョコレート観」を言葉にする。 ・チョコレートの基礎知識を学び、歴史的にチョコレートが砂糖とともにどのように受容されてきたのかを知る。 ・現代のカカオの生産地であるガーナを例に、児童労働の実際や労働者が手にできる賃金について知る。 ・モノを巡るヒトの動きが自分の生活にも関係していることを理解し言葉にする。 					○	○	グラフから特徴を読み取っている。知識を活用し現代の事象を表現している。歴史的な背景を踏まえて、日常生活の中の事柄について自分の考えを述べている。	ワークシートの内容 小論文

研究実施校 : 神奈川県立大和南高等学校 (普通課程)

実施日 : 平成28年10月26日 (水)

授業担当者 : 渡辺 研悟 教諭 授業クラス : 1年5組

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

「主体的な学び」

- ・日常生活の中で目にすることの多いモノに焦点を当てることで、生徒の歴史に対する興味関心を喚起した。
- ・具体物を用意し、実際に触れさせ、味わわせることで、生徒の歴史に対する興味関心を喚起した。

- ・触れたり味わったりしたときに感じたものや考えたことを、言語活動を通して表現させ、整理させた。

「対話的な学び」

- ・授業で取り上げるモノについての経験や考えを生徒同士で共有し、自らの考えを広げ深めた。
- ・授業を通じて学んだことや考えたことを、協働的な活動の中で言葉としてまとめ上げた。

「深い学び」

- ・現在のモノと歴史を結び付けて、授業で扱ったものについて語る力が身に付いた。

(3) 成果と課題

身近なものを取り上げることで、生徒が歴史に関心を持つ新たな切り口が提供できたことはよかったが、今後は、生徒自らが発表する時間をもっと確保して発表する力を伸ばすことも検討したい。この実践は、生徒が日常の生活の中で目にしているものを題材として授業を展開し、表現活動も、自らの経験則を基にして行うことができるので、簡単な準備でできる実践と言える。

しかし、そもそも「歴史を語らせる」はずが、生徒は「紅茶を語っている」にすぎないのではという反省点もある。最終的には「紅茶」を通して生徒自らが歴史を語ることを目的であるので、発問の仕方等に工夫が必要であった。この単元を通して最終的に生徒に何を理解させ、表現させるのかについて更に練り上げる必要がある。

【その他の事例】

その1

- 研究実施校 : 横浜明朋高等学校 (定時制) 実施日 : 平成28年9月6日 (火)
 授業担当者 : 鈴木 健司 (教諭)
 単元名 : イスラーム世界の形成と拡大 世界史B (学年 : 3年)
 単元のねらい : 現代のイスラーム世界の広がり把握することで、イスラーム教の形成と拡大の歴史を、現代とつなげて理解することができるようにする。

(授業実践例)

学習活動	
導入 (図書室を利用)	タブレット端末と大型テレビによって、イスラーム地域の動画と地図を見せながら「イスラーム」について生徒が思い付くことを記入していく。
展開	現代のイスラーム国家を調べ、ムスリム住民が多い地域や様々な情報を地図に記入、そこから分かることを仮説として発表する。
まとめ	イスラーム国家の抱える現在の課題について調べ、記述する。

授業では、イスラーム教の広がりについて地図上に分かりやすく表現することができたか、また設定した課題について、諸資料を調べ、その結果をまとめることができたかという点に特に着目して評価を行った。イスラームの国々を知識として教えるよりも、自分で調べ、現在の地図に表してみることで、イスラーム教がとてつもなく広いエリアに広がっていることを実感させることができた。今回は図書室で授業を行うことで非日常感を出すことができ、生徒たちも積極的に取り組むことができた。

その2

- 研究実施校 : 大和南高等学校 (全日課程) 実施日 : 平成28年10月31日 (月)
 授業担当者 : 畠 陽一郎 (教諭)
 単元名 : 帝国主義と世界諸地域の抵抗 世界史B (学年 : 3年)
 単元のねらい : 現在の資本主義国家と社会主義国家の違いを理解し、その中で、現在の経済大国アメリカがどのように発展してきたかを生徒自らが考える。

(授業実践例)

学習活動

- ・アメリカの大手・有名企業のロゴマークについて、生徒が知識を持っていると思われる有名なものから提示して財団の大きさを理解する。
- ・米上院議会の風刺画を見せ、そこから考察できることをグループで話し合い、その結果について発表させる。なお前面に映し出した画像について、風刺画の細かいところをズームアップするなどして適宜、適切なサポートを工夫する必要がある。
- ・資本主義と社会主義の長所・短所をブレインストーミングで付せんに書き出し、グループワークの中で分かりやすい発表の仕方を検討し、図の構成を考えて作成する。

(例)

	資本主義	社会主義
メリット	裕福な暮らし アメリカンドリーム 技術の発展	平等な暮らし 資源の有効活用
デメリット	貧富の格差 欲求の暴走 資源の浪費	財政圧迫 労働意欲の低下

現在の資本主義国家と社会主義国家の違いを理解し、その中で、現在の経済大国アメリカがどのように発展してきたかを生徒自らが考え、その後に対話的に思考を広げていったところは評価できる。また、資本主義のメリット、デメリットと社会主義のメリット、デメリットは、付せんとホワイトボードを使うことで、より明確に整理できていた。また、付せんにまとめることで、グループの生徒同士で思考を広げ深める（具体的なものを抽象化したりする作業）ことが実現しやすいと感じた。加えてICT機器を利用することで着眼点を明確にすることができ、思考を深めさせられたことは大きい。

その3

研究実施校 : 保土ヶ谷高等学校 (全日制)

授業担当者 : 岡部 正史 (総括教諭)

単元名 : 結び付く世界と世界の一体化 世界史B (学年: 2年)

単元のねらい : ヨーロッパの目覚めにつながる「大航海時代」「ルネサンス」「宗教改革」「主権国家体制の成立」での学びから、ヨーロッパの国々が各地に進出することが、各地に与えた影響やヨーロッパ社会の変化に気付く。そして、その後の世界の一体化の進展について予想し、現代世界の国際状況につなげて考える。

その4

研究実施校 : 大船高等学校 (全日制)

授業担当者 : 野間 聡 (教諭)

単元名 : 撰関政治 日本史B (学年: 2年)

単元のねらい : 撰関政治がどのように展開していったかについて、プリントの質問を、教科書や資料集を利用し自ら探し出し、考えをクラス全体でまとめていくことによって撰関政治についての理解を図り、考察を深める。

公 民

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究テーマ

社会参画の視点を踏まえた「政治参加教育」の指導方法の工夫

(2) 研究のねらい

共通テーマである「アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業の実践事例」を研究するため、公民部門では次の2つの視点を研究の柱とした。

【視点1】 思考力・判断力・表現力を身に付ける「問い」の工夫

これまで公民部門では中等教育資料（平成25年6月号）に示された「『問い』と『答え』をつなぐのが授業である」という考えを基に、思考力・判断力・表現力を身に付ける「問い」を基軸とした単元指導計画を作成し、授業実践を通じて、その「問い」の妥当性等について検証を行ってきた。今年度についても、質の高い「問い」を立てることを研究のねらいとした。

【視点2】 社会参画の視点を踏まえた「政治参加教育」の指導の工夫

文部科学省が平成28年6月に「最終まとめ～主権者として求められる力を育むために～」をまとめ、主権者教育の目的を「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるに留まらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせること」としたこと、平成27年に選挙権年齢が18歳に引き下げられたことにより、これまで以上に公民科の授業に「政治参加教育」の視点が求められていることから、「社会参画の視点を踏まえた『政治参加教育』の指導方法の工夫」を研究テーマとした。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：現代社会（学年：1年）

②単元名：「社会保障の役割」

③単元のねらい（身に付けさせたい力）社会保障制度がどのように成立し、私たちの生活とどのように関わっているかを理解した上で、現代日本の社会保障制度の意義を改めて分析し、それが直面している課題を解決する方法について考察することで、社会保障制度についての基本的知識を身に付け、「よりよい」社会保障制度とは何か、その実現のために自分は何をすべきか考える力を養う。

【基軸となる問い】より良い社会保障制度を実現するには、何が必要か？

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
社会保障制度と私たちの生活との結び付きに関心を持ち、課題解決の手段を意欲的に探究している。	社会保障制度の特徴や課題、今後の方向性について、主体的かつ多角的に考察している。	社会保障に関わる各種の統計や図、報告などを、適切に収集し、効果的に活用している。	社会保障制度とその課題について理解し、その知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画 a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

時間	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点				評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
1	社会保障制度はなぜ存在するのか？							社会保障制度の誕生と整備の経緯を理解し、その必要性について考察している。	ワークシート 定期試験
	社会保障制度の誕生	社会保障制度の誕生と整備の経緯を学ぶ。	社会保障制度の必要性の根拠を理解させる。		○		○		

2	現代日本の社会保障制度は、誰のどのような幸せにつながっているのか？			○	○	資料をもとに、外国の制度と日本の制度を比較し、その違いを読み取っている。 日本の社会保障制度について、基本的な知識を身に付けている。	ワークシート 定期試験
	現代日本の社会保障制度	・現代日本の社会保障制度の概要を学ぶ。 ・外国の制度と比較し、日本の特徴を考える。	社会保障制度と、自分たちの生活との関わりを意識させる。				
3 本時	今後の社会保障制度はどうあるべきか？			○	○	日本の社会保障制度の課題とその解決方法を意欲的に探究している。 日本の社会保障制度の課題とその解決方法について、自らの考えを適切に表現している。	ワークシート 定期試験
	日本の社会保障の課題	・日本の社会保障制度が抱える課題を認識する。 ・課題解決の方法を探究する。	より良い社会保障制度を実現するため、自分がどのように関わるかを考えさせる。				

⑥授業実践例

【本時のねらい】

- ・日本の社会保障制度が抱える課題について理解を深め、解決策を考える。
- ・すべての人が安心して暮らせるようになるためには何が必要か、グループでの討議を通じて多角的に考察する。

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
導入 5分	前回までの振り返り	日本の社会保障制度の概要と特徴を振り返る。	社会保障制度の4本柱を整理する。	
展開 40分	理想の社会保障制度を考える。 ① 個別の考察 ② グループ討議	<ul style="list-style-type: none"> ・問い「今後の社会保障制度はどうあるべきか？」 →ワークシート ・50年後に自分がどのような生活を送っていたいかを考え、それを実現するための具体策を考える。 ・各自の考察をグループ内で発表し合い、意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データや実例を考慮して検討するよう指導する。 ・単なる感想ではなく、お互いの考察を更に深化させられるような指摘や質問を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（思）社会保障の課題とその解決策について、考察を深めている。【ワークシート・定期試験】 ・（技）必要な情報を適切に収集し、社会保障の在り方を考える判断材料として活用している。【ワークシート】 ・（知）社会保障制度について理解し、その知識を身に付けている。【ワークシート・定期試験】
まとめ 5分	本時の振り返り	・よりよい社会保障制度を実現するため、最も大切なことは何かをワークシートにまとめる。	・グループ内で出た意見を踏まえて、最終的な考察をまとめるよう指導する。	

研究実施校：神奈川県立元石川高等学校（全日制）

実施日：平成28年11月25日（金）

授業担当者：岩村麻子

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

これまで、社会保障の学習は生徒の制度理解に重点を置いてきた。今回は「主体的な学び」を生み出すことを重視して「問い」について考えながら取り組むワークシートを作成した。

社会保障制度の概要については、各自が資料を見てワークシートに記入し、理解する形式を取り、その後の「社会保障の意義」や「よりよい社会保障」を探究する学習に活用した。「今後の社会保障制度を考える」グループワークでは「50年後に自分がどのような生活を送っていたいか」という問いを設定し、自分の理想とする老後をイメージさせ、その実現のために必要なものを考えさせることで「深い学び」となるよう工夫したが、制度の具体的な改革案にまで思考を深められない生徒が多かった。今後の改善点は、高校生が「老後の生活」を具体的にイメージすることが難しかったので、事前学習で家族に聞き取りを行うなどの工夫をすることが考えられる。また、世代によっても考え方が異なり、高校生はどうしても若年層に対する優遇策を望む傾向があるので、違う立場から考察させる工夫の必要性を強く感じた。【事例2】のような若年層重視の改革案を議論した後に、年金問題を議論すれば、多方面への目配りの大切さを認識し、「幸福」、「公正」、「正義」などについても、思考をより深めることが可能だろう。

[生徒のコメント例]

- 安定した社会保障制度の実現には、安定して社会保険料が支払われる必要があるから、誰でも平等に働ける社会を作っていくことが大切。
- 子どもや老人へのサービスだけでなく、国民全員が健康を保障されていることが大切。
- 政策や制度などを他人事と思わず、しっかりと自分で考えて暮らしていかなければならない。
- どこかで国民が妥協しなければならない。
- 国民負担を増やすことも必要。そして、国民全体がなるべく平等なサービスを工夫することも大切。

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：政治・経済（学年：2年）

②単元名：「現代の経済」

③単元のねらい（身に付けさせたい力）：市場の仕組み、現代の企業、国民所得と経済成長、金融と財政の仕組みを理解し、貨幣と自分の生活との関わり方を考察することにより、

- 現代経済の仕組みや機能について理解させ、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。
- 様々な資料から情報を適切に選択し、考察する力や活用する力を身に付けさせる。
- 現代経済の仕組みや貨幣がどのように社会で機能しているのかについて理解させ、経済活動の在り方と福祉の向上について考察する力を身に付けさせる。

【基軸となる問い】「お金はどのように世の中で回っているのか？」

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代経済について関心を高め、経済活動の在り方と福祉の向上との関連について意欲的に考察しようとしている。	現代経済の特徴や課題について、多角的に考察し、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察し、適切に表現している。	図表やグラフの情報を正確に収集し、適切に活用している。	現代経済の仕組みと働き、役割について理解し、その知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画（GW＝グループワーク） a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点				評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
1	財・サービスとお金は、経済主体間をどのように回っているのか？							<ul style="list-style-type: none"> 三つの経済主体の役割を理解している。 価格の役割と需要供給曲線の仕組みについて理解している 	観察 発問への 回答状況 定期試験
	市場機構① 3つの経済主体 市場メカニズム	3つの経済主体 市場メカニズム	三つの経済主体の関連と役割、特徴を理解させる。 市場経済における価格の調整機能を需要供給曲線を用いて理解させる。		○		○		
2	市場の失敗とそれに対する政府の役割とは何か？							<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事例をグループで考察し、市場の失敗と政府の役割について理解している。 	観察 発問への 回答状況 GW 定期試験
	市場機構②	市場の失敗	GWで具体例を考察し、身近に市場の失敗例があることを理解する。 政府の役割を理解する。	○	○				

3	企業ではどのようにお金を生み出し、お金を使っているのか？			○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 現代の企業の特徴について理解している。 株式会社についてのグループで積極的に考察しようとしている。 	観察 発問への 回答状況 GW 定期試験
	現代の企業	株式会社 企業の社会的責任	QWで株式会社の仕組みや特徴を理解する。 多様化する企業活動に着目し、CSR活動について理解する。								
4	国の経済の規模のはかり方は？ 豊かさとは？			○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 国民経済の指標について理解している。 様々な指標を理解して考察している。 景気変動について経済成長と関連付けて考察している。 	観察 発問への 回答状況 定期試験
	国民所得と経済成長①	国内総生産と国民所得 経済成長と景気循環	国民経済全体を示す指標を理解する。 フローとストックの意味を理解する 景気変動と経済成長を関連付けて理解する。								
5	金融の仕組みはどうなっているのか？			○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 金融と経済主体との関わりを理解している。 金融機関の役割を理解している。 信用創造について理解している。 	観察 発問への 回答状況 ワークシート 定期試験
	金融の仕組み①	マネーストック 金融の機能 金融機関の役割	金融の機能について理解する。 銀行の役割を理解する。特に信用創造の仕組みについて理解する。								
6	金融と政府のつながりは？			○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 中央銀行の機能と金融政策について理解している。 金融政策についてのGWで積極的に考察しようとしている。 	観察 発問への 回答状況 ワークシート 定期試験
	金融の仕組み②	現代の通貨制度 マネーストック 中央銀行と金融政策	中央銀行の機能と金融市場・政府の役割を関連付けて理解する。								
7	財政の機能と役割とは何か？			○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 財政の役割について理解している。 予算制度と財政投融资について理解し、考察している。 財政政策の目的や、景気の調整に果たす役割を理解している。 	観察 発問への 回答状況 定期試験
	財政の役割①	財政の役割 日本の予算制度	財政の三つの機能について理解する。 日本の予算制度について理解させ、内訳の特徴について考察する。								
8 本時	これからの財政の在り方は？			○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 租税制度について理解している。 租税制度の課題や問題点について、的確に考察している。 	観察 発問への 回答状況 ワークシート 定期試験
	財政の役割②	日本の租税制度 財政政策の課題	日本の租税制度の特徴と課題を理解し、課題の解決策を考察する。								

⑥授業実践例 (50分)

【本時のねらい】歳入と歳出の内容を理解した上で、これからの財政の在り方について考察する。

本時の問い 財政の現状を踏まえ、大学での自己負担の無償化はできるか？

	授業展開	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習 ・財政の役割と現状 ・歳出と歳入の内訳 ・租税の仕組み ○本時の説明 	財政の役割と現状について歳入・歳出のグラフ等を示し説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを提示し、授業への関心を高める。 ・前時の学習内容を基に話し合いを進めていくことをあらかじめ生徒に伝えておく。 	観察

展開① 30分	○準備・話し合い ・大学の自己負担無償化を考える ・歳出を削減するとしたら、どの項目を削減するか考える。 ・増税するとしたら、どの項目について増税するか考える	導入で示されたグラフやその他の資料を活用し、自分の意見をまとめ、グループで共有し話し合い、意見をまとめる。	・最初の5分は自分で考える時間を設け、考えを整理させる。 ・グループごとにホワイトボードを活用して、発表しやすいようにまとめさせる。 ・なぜその項目を選んだのかの理由と、増減することでの影響を考えさせる。 ・話し合いの会話を聞き取り、内容に応じて教師が補足や軌道修正をする。	グループワークの状況観察
展開② 10分	○各班の発表	意見と理由を明確に発表する。発表内容を的確にメモする。	・まとまっていない場合、無理にまとめさせず、なぜ意見が割れているかを述べさせる。 ・時間がなければ、ホワイトボードを見せ合うことで、すべての班の意見を生徒に共有させる。	観察 ホワイトボードの記載 発表の内容
まとめ 5分	○本時のまとめ	ワークシートの記入	・話し合いや発表を受け、学んだことや自分の考えを中心に記述させる。	ワークシート

研究実施校：神奈川県立瀬谷高等学校（全日制）

実施日：平成28年11月8日（火）

授業担当者：古川 竜三

（2）アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

対話的な学びの工夫として、グループワークで財政について考察させることにより、単元のねらいである「歳入と歳出の内容を理解した上で、これからの財政の在り方について考察することが達成できた生徒は多かった。また、議論の中で「知識が必要だと思った」、「世の中の動きを知るためにニュースや新聞を見ようと思った」、「自分の意見と他の人の意見との相違を認識し、様々な考えを考慮しながら意見をまとめようとしたことが勉強になった」などの記述があり、単元のねらいが達成できたと考える。

深い学びの工夫としては、生徒にとって身近な問いを設定することで議論が活発になった。これは、「問い」の設定にあたり教科内外の教師と論議し、授業者が考えた「財政を現状よりよくするにはどうすればいいのか？」という「問い」を「**財政の現状を踏まえ、大学での自己負担の無償化はできるか？**」に変更したためである。前者の「問い」では国の赤字解消の手段を歳入・歳出のグラフから総括的に考察するため、議論のポイントが絞りにくい。後者の「問い」では「大学無償化」という身近な課題を設定することで、生徒たちが歳入や歳出のグラフ等をより丁寧に考察し、「どこで歳入を増やすことが出来るか」、「どこで歳出削減が出来るか」、「税金の無駄遣いはどこか」、「そこまでして大学を無償化をする必要があるか」等について、新たな「問い」を立て活発に意見を述べ、「これからの財政の在り方は？」について考察が深まった。生徒の状況を良く知る教員が議論することで「問い」の精度を高めることができることが検証できた。

一方、「社会保障費を削減したらいい、理由は自分にとってあまり影響がないから」と発表している班があった。【事例1】と組み合わせて実施することで、事象を多面的に捉えることができるので工夫したい。また、グループワークの際、提供する資料の選定が難しい。議論の時間的な制約から細かい資料を提供して分析させることを見送ったが、参観者から判断材料が少なすぎるとの指摘があった。資料の精選とワークシートの工夫が課題である。主体的な学びを進めるため、生徒が議論の中で疑問に思ったことを調べられるよう、教室などのICT機器の環境整備を行う等の工夫も考えられる。

- ①「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の主な記述内容
- ・班員同士でも違う意見が出て、他の班とも違う意見が多くあり、その様々な意見の中から一つのものを生み出すということが大変難しいことだと感じた。それを考えている企業や国会などは、大変だと感じた。
- ②「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の主な記述内容
- ・たくさんの意見が出てきて、高校生の自分達でもこれだけの意見が出てくるのだから、みんながもっと日本をよくしていく意識を高く持ち、行動していけば少しずつ財政はよくなると思った。高齢者の働き口を増やすという意見がすごくいいと思ったし、軽減税率やブランド品税など、新たな税のスタイルがあってもいいのではないかと思った。

【事例3】

1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：現代社会（年次：2年次）

②単元名：「国民の政治参加と地方自治」

③単元のねらい(身に付けさせたい力) 地方自治と議会制民主主義の意義や選挙制度について理解し、民主主義の在り方について多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する力を身に付ける。

【基軸となる問い】 民主政治はどのように行われるべきか。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
地方自治の在り方に対して関心を持ち、意欲的に考察しようとしている。	選挙制度の在り方について、多面的・多角的に考察し、様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	選挙に関する資料を適切に活用し、学習に役立てている。	地方自治と議会制民主主義の意義や選挙制度、マス・メディアと世論の関係について理解し、その知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画

a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

時・次	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	地方自治	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の在り方や役割について整理する。 地方公共団体の現状と課題について考察する。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の在り方に対して関心を持ち、意欲的に考えようとしている。 地方自治の役割や仕組み、現状と課題について理解し、その知識を身に付けている。 	ワークシート 定期試験
2 [本時]	政党政治と選挙	<ul style="list-style-type: none"> 政党政治と選挙制度について整理する。 一票の格差と選挙制度の在り方について考察する。 		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 選挙制度の在り方について多面的・多角的に考察し適切に表現している。 新聞記事から選挙制度の課題についての情報を読み取り、学習活動に役立てている。 政党政治と選挙制度について理解し、その知識を身に付けている。 	ワークシート ワークシート 定期試験
3	マス・メディアの役割と世論の形成	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディアの種類を整理する。 マス・メディア、メディア・リテラシーの問題点について考察する。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> マス・メディアの役割と問題点、メディア・リテラシーの必要性について理解し、その知識を身に付けている。 地方自治や議会制民主主義の視点からマス・メディアを捉え自分の考えを述べている。 	定期試験 ワークシート

⑥授業実践例（90分）

授業展開	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	<p>選挙制度について考える</p> <p>○今年7月に実施された参議院議員通常選挙における選挙制度の変更点は何か、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを示すことにより、生徒に学習の見通しを持たせる。 ・変更点を答えられなくても、この場面では説明しない。 	
展開① (20分)	<p>○政党政治と選挙制度について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政党の役割 ・政党政治（多党制と二大政党制） ・選挙の原則（普通選挙、秘密選挙、平等選挙、直接選挙、自由選挙） ・選出方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に知っている政党を答えさせる。 ・「一票の格差」が平等選挙の原則に反することを理解させる。 ・大選挙区、小選挙区、比例代表について、その特徴を理解させる。 	
展開② (20分)	<p>○日本の選挙制度について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衆議院の小選挙区比例代表並立制 ・参議院の選挙区制と比例代表制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドント式も含めて、中学校での既習事項であるので、詳しい説明は控える。 ・7月の選挙から「合区」が導入されたことをその理由とともに理解させる。 	
展開③ (40分)	<p>○一票の格差と合区について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合区導入後も「違憲状態」の判決が出されたことを受けた新聞記事を読む。 ・合区を進めるべきか、それとも別の方法がよいのか、一人ひとりが考えを記述する。 ・グループで検討する。 ・検討した内容とグループの提案をホワイトボードに書き出し、グループの代表が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表が終わったグループのホワイトボードを黒板に貼る。 	ワークシート
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表についての感想や本日の学習についての感想を記述する。 		ワークシート

研究実施校：神奈川県立小田原高等学校（全日制）

実施日：平成28年10月24日（月）

授業担当者：山下 創

（2）アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業を実践するとともに、生徒に主権者としての自覚を深めさせ政治参加への意欲を高めさせる授業を考えた。そこで、生徒に具体的な事例に基づいて選挙制度の在り方について考えさせる授業を構想した。平成28年7月に行われた参議院議員通常選挙では、「一票の格差」を是正するために、隣接する二つの県から一名を選出するいわゆる合区が導入されたので、合区における「平等選挙の原則」と「有権者の心情」について考察させた。校内の他の教員の「高校生が当事者意識を持って考えることは難しいのではないかと意見があったが、平成28年10月14日に広島高裁岡山支部で、合区後も「一票の格差」を「違憲状態」とする判決が出され、翌日の新聞に、投票価値の平等化を進めるべきとの声とともに対象地域の困惑の声を伝え、さらに「憲法に参議院議員を都道府県代表と位置付けるべきだ」とする議論も紹介する記事が掲載された（『神奈川新聞』2面）。このことから、本題材では、時事的な問題であり、米国の上院議員が州代表であることなどの既習の知識も活用でき、この新聞記事を教材とすれば、生徒は興味を持って取り組むのではないかと考えた。

「合区を進めるべきか、それとも別の方法がよいのか」について考える活動では、新聞記事を読んだから、初めに一人ひとりで考えて記述し、その後4人のグループになって協議をし、グループとしての提案をホワイトボードを活用してまとめ、最後にグループの代表が黒板の前に立って全体に発表した。

「平等選挙の原則」など身に付けた知識を活用し、グループでお互いの考えを交換し合いながら、単純な二項対立の議論ではなく、代表の在り方、少数意見の扱い方などについて考察を深めていた。地方自治について学んだ後の学習であったこともあり、過疎化等の地方の課題についても自分たちの生活する地域のことを重ねながら考える生徒もおり、深い学びとなっていることが見て取れた。また、選挙の在り方を考えることを通して、主権者としての自覚を深め、政治参加への意欲が高まったことが、ワークシートの記述から見てとれた。

一票の格差を解消する方策として、合区ではなく定数増を提案する班もあり、予想以上に広く深く考察していた。制度の是非を問うのではなく、提案させるという形が生徒たちの考えを活性化させたものと思われる。

【事例4】

1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：現代社会（学年：2年）

②単元名：「政府の役割と財政・租税」

③単元のねらい（身に付けさせたい力）政府が行う経済活動である財政の役割を知り、現在抱えている課題について、納税者・主権者として主体的に考えることで、「経済にどのように介入しているのか」という財政の仕組みを理解する力、「身近なところから、財政健全化に向けて主体的に考察する力」を身に付ける。

【基軸となる問い】私たちはどのように財政再建を行っていくべきか。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
財政の仕組みについて、具体的に考えようとしている。	消費税の利点と問題点について考えている。 資料を読み取った上で、自分の意見を考察している。	国債発行額の推移について、資料からその理由を考えている。	財政の役割について理解している 地方財政は、国の依り関係の家英解している。

⑤単元の指導計画 a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

時間	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点				評価規準	評価方法	
				a	b	c	d			
1	日本財政の仕組みはどのようになっているのか		財政の仕組みの理解を通じて、政府が経済に介入することの意義と限界を考えさせる。		○		○	財政の仕組みについて、具体的に考えようとしているか。 景気調整方法について理解しているか。	発問への回答内容 観察 定期試験	
	政府の役割と景気調整	経済活動における政府の役割とは何か、考えられる例を挙げる。 財政による景気調節の二つの方法を理解する。								
2	財政の支出と収入の現状はどのようになっているのか		国家予算の規模や内訳について知り、原資となっている租税制度について関心を持たせる。		○		○	一般会計、特別会計、財政投融资の役割と相互の関係について理解している。 消費税の利点と問題点について考えている。	発問への回答内容 観察 定期試験	
	国家予算と租税制度	一般会計と特別会計の違い、近年の予算傾向について理解する。 租税制度について理解する。								
3	なぜ日本の借金が膨らむのか		国債の発行にはどのような制約があるかを理解し、その理由を考えさせる。				○	○	国債発行額の推移について、資料からその理由を考察することができるか。 地方財政は、国に依存しているという特徴を理解しているか。	発問への回答内容 観察 定期試験
	国債と財政危機 地方財政	国債の種類やその発行の推移、理由を考察する。 地方財政の課題について理解する。 財政再生団体に指定されている自治体もあることを知る。								
4	地方自治において、限られた財源をどう配分していくべきか		財政再建には、限られた財源をどう配分するのか、話し合っていくことが大切であることを理解させる。		○			資料を読み取った上で、自分の意見を考察している。	観察 ワークシート	
	財政再建と主権者意識	神奈川の教育予算を題材に、グループワークを通じて、予算の配分について考察する。								

⑥授業実践例（45分）

【本時のねらい】

- ・ 財政再建のためには、限られた財源をどのように配分するのか、様々な意見を踏まえながら選択していくことが必要であることを理解する。
- ・ 財政再建について主体的に考察し、問題意識を持つことができる。

本時の問い 地方自治において、限られた財源をどう配分していくべきか。

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	前回の振り返り	国家財政と地方財政がおかれている現状と課題について振り返る。	国会財政・地方財政ともに逼迫した状況におかれていることを認識させる。	
展開 (35分)	神奈川の教育予算を基に、財政の再建について考える	グループワークを行い、財政の健全化について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県が教育についてどのようにお金を使っているか予想する。 ・各施策について、ダイヤモンドランキングで順位付けを行う。 ・グループでどのように順位付けをしたか、理由を述べながら発表する。 ・実際の予算書見て、予想と比べて、感想を話し合う。 ・予算を作成する上で大切なことは何かを話し合う。 ・市民の声を届け、歳出の無駄を見直すためにはどうしたらよいか話し合い、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要施策と総額をまとめたワークシート示し、お金の使途を中心に議論するよう指導する。 ・実際の予算書を見て、多様なニーズに対応して予算を配分していることを理解させる。 ・財政再建のためには、歳出の無駄を省いていく必要があるが、多様なニーズを踏まえる必要があることを理解させる。 ・市民の目と声を届かせることも重要であると気付かせる。 ・時間があれば、歳出として他にどのようなものを削ることができるか、県税の資料を使いながら考えさせる。 	観察 グループワーク ワークシート
まとめ (5分)	本時の振り返り	・ワークシートに感想を記入する。		ワークシート

研究実施校：神奈川県立横浜翠嵐高等学校（全日制）

実施日：平成28年10月13日（木）

授業担当者：金崎 悠衣

（２）アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

今回の取組において最も重視したのは、話し合いなどによって多様な視点や価値観が社会にあることを実感させることであった。実際、生徒たちは、自分と異なった意見を聞いた時「なるほど、そういう人もいるのか」という反応をしていた。自分とは違う考えに出会い、価値観が揺らぐ経験により、現実社会における利害調整の疑似体験となり、「社会参画の視点を踏まえた政治参加教育」の入口には効果的であると感じた。

また、取組を充実させるために、思考を自由に広げやすく、かつ意見を表現しやすいワークを心がけた。それにより自分なりの根拠が導き出せ、より主体的な活動ができるのではないかと考えたからである。しかし、深い学びの追究という視点で考えると「根拠を支える知識が不足していてもある程度成立するワークになってしまった」というのは、「問い」の深まりが足りないと考えられ、反省すべき点であるとする。

さらに、想定外の反応として「もっと自分たちの声を聞いてほしい」という声が多かった。学校現場現場や生徒の声も大切だが、なぜこのような予算になっているのか、という根拠となる資料を授業の最後に配るなど工夫をすれば、現時点での予算が「社会の広いニーズを繁栄した上での予算」であるとより多くの生徒が気づけたと思う。

生徒の思考を更に深めるためには、適切な「問い」と、より深く考察するための材料としての知識や資料を活用させる工夫や、教師がいかに生徒たちを深い洞察に導くかという流れの構成が必要となってくると感じた。そのため、教師には、まず単元を貫く明確な方向性を構築すること、そして生徒たちのリアクションを見据えた準備と指導力が求められると考える。

【事例5】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：倫理（学年：3年次）

②単元名：「民主社会と自由の表現」

③単元のねらい（身に付けさせたい力）：民主社会における人間の在り方について、民主主義社会に焦点を置きながら社会と個人の関わりやその在り方を考えさせる。また、一人ひとりのものの考え方が多様であることに気付かせ、自己の価値観を確立することと他者の価値観を尊重することの大切さを自覚させる。さらに、今日の社会では人間の生き方や行動は自由であるという前提に立って、民主社会の倫理的な見方や考え方や個人と社会、国家の関係を考えさせる。

【基軸となる問い】人間の自由を実現する社会にするために私たちには何ができるか？

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
民主社会と自由の実現について関心を持ち、自分自身に関連しているという意識を高め、民主社会の倫理的な見方や考え方を追究し考察しようとしている。	意欲的に自己の価値観を確立し、他者の価値観も尊重しながら、その課題について考察し、自分の考えを表現している。	多様な資料の中から、的確なものを適切に選択し、効果的に活用できる。	民主社会と自由の実現について、社会と個人の関わり方や人間としての在り方を理解し、その知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画 a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

時間	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点				評価規準【評価方法】
				a	b	c	d	
1	なぜ、個人と社会の契約が必要になったのか？		民主社会の形成					民主社会が形成された背景と社会契約説について自然権を中心に理解している。 【観察・ワークシート】
	民主社会の形成と社会契約説(1)	民主社会が形成された背景を理解する。社会契約説を理解する。	には、人間の自然権を守ることが必要であることに気付かせる。					
2	市民社会において、私たちの自然権はどうあるべきか？		市民社会の形成					市民社会の中に生きる私たちには、自己の価値観だけではなく、他者の価値観の尊重が大切であることに気付いている。 【観察・ワークシート】
	民主社会の形成と社会契約説(2)	社会契約説に基づいて、市民社会において私たちの自然権や自由はどうあるべきかを考える。	市民社会における自由の実現には、自己の意見だけではなく他者の意見の尊重も大切であるということに気付かせる。		○			
3	個人の生き方における自由を私たちはどう生かして生きるべきか？		個人の尊厳					「カント」思想を理解している。 個人の生き方における人間の自由の在り方を自分自身にどう生かせるか考察し、行動しようとしている。 【観察・ワークシート】
	人格の尊厳	個人の生き方における人間の自由について、「カント」の思想を理解する。	人間の理性や道徳法則に対する意志の在り方を考えさせる。	○	○		○	
4	歴史や社会における人間の自由を私たちはどう生かして生きるべきか？		人倫					「ヘーゲル」思想を理解している。 歴史や社会における人間の自由の在り方を自分自身にどう生かせるかを考察し、行動しようとしている。 【観察・ワークシート】
	人倫	歴史や社会における人間の自由について「ヘーゲル」の思想を理解する。	絶対精神や弁証法、人倫の在り方について理解させ、真の自由の在り方を考えさせる。	○	○		○	

⑥授業実践例（45分 90分授業の後半）

【本時のねらい】

- ・カントの思想を理解し、個人の生き方における自由をどう生かして生きるべきかを考える。

- ・カントの思想と合わせて、「政治参加」という観点から「人間の自由を実現する社会にするために私たちは何ができるか、何をすべきか」について、討議等で他者の意見も尊重しながら考える。

本時の問い 個人の生き方における自由を私たちはどう活かして生きるべきか？

(評価の観点:a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:資料活用 of 技能 d:知識・理解)

展開	学習活動	指導内容・指導上の留意点	評価規準【評価方法】
導入 5分	○前半の講義で説明したカントの思想をワークシートにまとめて理解する。学ぶ目的を理解する。 ○ワークシート①	・ワークシートに記入する内容を分かりやすく伝える。	a: 学ぶねらいを理解し、積極的に取り組んでいる。 【観察】
展開① 15分	カントの道徳法則について自分で理解した内容を書く。 ○ワークシート② 「意志の自律」とは何かを記入する。 ○ワークシートに記入した内容をペアになって確認する。 ○ワークシートに記入した内容を発表する。 ○ワークシート③	・道徳法則について理解した内容を書けているか確認する。 ・意志の自律について理解した内容を書けているか確認する。 ・積極的にペアになって確認するよう明確な指示を出す。 ・発表する生徒が、他の生徒に聞こえるように読ませる。	d: カント思想を理解している。【ワークシート】 b: 自分の考えを、しっかり記入できている。 【ワークシート】
展開② 20分	道徳法則を政治参加にどのように生かせるかを考えて書く。 ○ワークシート④ 意志の自律を政治参加にどのように生かせるかを考えて書く。 ○ワークシートに記入した内容をペアになって確認する。 ○ワークシートに記入した内容を発表する。 ○本時の内容とねらいを確認する。 ○カントの思想を活用して、私たちの自由を実現できる社会にするためにできることは何かを考える。	・人間の生き方や行動は自由であるということを理解しながら、積極的に社会に参加する態度はどのようなものかを考えさせる。 ・積極的にペアになって確認するよう明確な指示を出す。 ・発表する生徒が、他の生徒に聞こえるように読ませる。 ○生徒が自分のことと社会のことを連動して考えられるように注意する。	a: 自分の生き方や行動は自由であるということを理解したうえで、積極的に社会に参加するという意欲と態度を表している。 【観察・ワークシート】
まとめ 5分			

研究実施校：神奈川県立弥栄高等学校（全日制）

実施日：平成28年10月26日（水）

授業担当者：和田 守

【生徒の意見】

テーマ「カントの道徳法則を、私たちの生きる民主社会における政治参加にどのように生かせるか。」
「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の主な記述内容

<ul style="list-style-type: none"> ・自然権を守るために私たちには参政権が与えられている。自分の1票では変わらないとあきらめるのではなく、「自然権を守るために参政権を活用して選挙には必ず行く」という自己のルールを作り、意志表示することが大切。皆がこれを思って選挙に参加すれば、皆の望むところは「よい社会」であるから自分だけでなく皆が納得する社会、満足のいく社会の実現に向けてというところで道徳法則を守るということに通ずる。 ・選挙への参加＝普遍的＝自らの自由意志となれば、自ずと自らの意志で政治参加する社会が成り立つ。私たちの身に自由が保障されているのは社会が成り立つためだということを自覚することで政治への参加が普遍的行動＝道徳法則であると理解することができる。だから、私たちは自由が保障されているものであることを自覚することが必要である。
--

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

昨年度からアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業を展開した結果、次の課題に直面した。

- ① 徒は積極的に取り組むが、授業に慣れてくるとマンネリ化してしまい学力の定着に結び付かない。
- ② 生徒が一斉授業に慣れているため、とまどうこともある。

そこで、今年度は「一斉授業の中でのアクティブ・ラーニング」をテーマにし、「一斉授業の中でいかに生徒の頭の中をアクティブにできるか」というところに力を入れた。また、頭の中で主体的に考えたことをどのように表現して伝えることができるか、また、生徒が身に付けた知識をどのように活用していくかというところにも主眼を置いた。

今回、「倫理」の授業の中で「政治参加教育」をテーマに実践したが、「政治参加が大切」であることは理解しても、「人間の内面からの政治参加が大切」というところまで理解できた生徒は少なかった。今後も絶えず、「生徒の内面から政治に参加する意識を高める」ということを頭に入れながら授業を実践していきたい。また、「現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察」する「倫理」という科目は、生徒一人ひとりの政治参加に関する意識を高める学習を行うことが出来ると感じられた。

【事例6】「事例6」については、「問い」を基に授業案を考察する「授業のシナリオ」形式で示す。

科目名：政治・経済（学年：3年） 単元名：「18歳選挙権について」

ねらい		○選挙制度についての学習を通して、政治が私たちの生活において重要な役割を果たしていることを理解する。 ○18歳選挙権に対しての自分の意見をまとめることを通して政治に対する関心を高める。
基軸となる「問い」		○「18歳選挙権」についての自分の考えをまとめる。
「問い」がもつ意味		○賛成、反対それぞれの理由を発表するとともに、様々な視点があることを知ることで視野を広げる。
		○討論形式で行うことを通して、社会問題をより深く考察できるようにする。
		○身近な問題について自分の考えをまとめ発表する学習を通して、参政意識を高めて、社会に主体的に関わっていきけるような人材を目指す。
学習過程	展開（1）	○「18歳選挙権について理解しよう。」 ・自分の考えをまとめる。 ・発表の準備をする。
	展開（2）	○グループに分かれて、一人ずつ発表する。
	展開（3）	○各グループで出された主な意見を代表者が発表する。
単元の評価規準		<p><関心・意欲・態度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政党政治及び選挙制度について意欲的に学習しようとしている。 ・今日の政治問題について関心が高まっている。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政党政治・選挙制度について多面的・多角的に考察している。 ・選挙制度の特色や課題について幅広く考察している。 <p><資料活用の技能・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙に関する様々な資料を検索し、その資料を主体的に選択している。 <p><知識・理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・18歳選挙権など、近年の動向を理解し、その知識を身に付けている。 ・政党政治及び選挙制度について正しく認識できている。

《様式は『中等教育資料』（平成26年1月号）より》

研究実施校：神奈川県立相模田名高等学校（全日制）

実施日：平成28年11月4日（金）

授業担当者：平林 明德 教諭

数 学

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究テーマ

「組織的な授業改善の推進～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業の実践事例～」

(2) 研究のねらい

今回の研究では、数学科におけるアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を数学的活動(数学学習に関わる目的意識を持った主体的活動)の充実の延長上にあるものと捉え、数学的活動を効果的に取り入れることをねらいとした。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：数学A（学年：1年）

②単元名：三角形の性質（第1章 平面図形 第1節 三角形の性質）

③単元のねらい（身に付けさせたい力）：三角形の性質について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。また、図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現することができるようにする。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・三角形の性質に関心を持つとともに、それらの有用性を認識し、積極的に考察しようとする。	・図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を見出し、論理的に考察することができる。	・基本的な作図や図形の基本的な性質を用いて、三角形の性質について論理的に正しいことを的確に表現し処理することができる。	・三角形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画 【評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：数学的な見方や考え方 c：数学的な技能 d：知識・理解】

時	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	三角形の五心（重心・内心）	・作図を通して三角形の重心と内心について、それぞれの定理を証明する。				○	重心と内心の性質について理解している。 重心と内心の性質について論理的に考察し表現することができる。	観察 ワークシート
				○				
2 本時	三角形の五心（傍心）	・作図を通して三角形の傍心について定理を証明する。	○				傍心の性質に関心を持つとともに、積極的に考察しようとする。 傍心の性質について論理的に考察し表現することができる。	観察 ワークシート
				○				
3	三角形の五心（外心・垂心）	・作図を通して三角形の外心と垂心について、それぞれの定理を証明する。			○		外心と垂心の性質についての的確に表現し処理することができる。 外心と垂心の性質について理解している。	観察 ワークシート
						○		

⑥授業実践例

授業展開	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分)	<p>・傍心について学習することを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>定理8 (傍心) 三角形の1つの頂点における内角の二等分線と、他の2つの頂点における外角の二等分線は1点で交わる。</p> </div>	<p>・定理8を確認し、傍心はどのような点であるかを説明する。</p>	
展開① (40分)	<p>問題1：</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>定理8が正しいことを証明せよ。</p> </div> <p>・三角形をプリントした紙を配付し、定規、コンパスを持っている生徒は様々なツールを使いながら作図をする。(1つの三角形に傍心は3つあるので、3つとれる人はすべてとる。)</p> <p>・ツールを持っていない生徒は折り紙の手法を活用して作図をする。</p>  <p>・周りの生徒で作図や証明を確認し合う。</p> <p>・作図したものを、プロジェクターを用いて黒板に映し、生徒が証明と解説を行う。</p> 	<p>・生徒が作図をすることで、問題の解決に向けて見通しが持てるようにする。なかなか証明が進まない場合は、垂線を引きヒントを与える。(証明のポイントに気付かせる)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>プリントを日差しにあて、線を透かしながら頑張って作図をしています。</p> </div> <p>・早く終わった生徒は分からない生徒に教えるよう促す。</p> <p>・生徒が解説する場面では、数学的な表現を用いて論理的に表現できているかに留意し、不十分な点があれば、質問や補足を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>作図は完璧にできました。次は証明です。どのように証明するのかな？</p> </div>	<p>傍心の性質に関心を持つとともに、積極的に考察しようとする。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>傍心の性質について論理的に考察し表現することができる。</p> <p>【数学的な見方や考え方】</p>

<p>展開② (20分)</p>	<p>・図の中で3つの傍心と三角形の関係について気付く。</p> <p>問題2：</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>△ABCの3つの傍心をI、J、Kとすると、△IJKの各頂点から対辺に下ろした垂線は1点で交わり、その点は△ABCの内心と一致することを示せ。</p> </div> <p>・作図で一致することを確認し、証明する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どうやったら証明できる？私はこうやって証明したよ。</p> </div>	<p>・傍心を結んだ三角形と元の三角形の関係について確認する。できれば生徒が作図したものを映す。</p>  <p>・分らなければ周りの生徒と協力して考えるよう促す。</p> 	<p>三角形の性質に関心を持つとともに、それらの有用性を認識し、積極的に考察しようとする。 【関心・意欲・態度】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>2つの三角形の関係は分かりますか？</p> </div>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>・傍心について確認、理解する。 ・授業アンケートを書く。</p>	<p>・何が身に付いたか等を記述させることで、本時の内容を振り返らせる。</p>	

研究実施校：神奈川県立湘南高等学校（全日制）
 実施日：平成28年11月9日（水）
 授業担当者：安齋 洋佑 教諭

（2）アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

本単元では、既習内容を活用しながら三角形の五心の性質を証明する活動を取り入れた。その活動の中で、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、3つの仕掛けを行った。第1は、高い目標設定である。生徒が自力解決するには難しいと思われる目標を設定することで、生徒が既習内容を活用して問題解決をし、さらにそれを発展させる過程で、数学的な見方・考え方を働かせることができるような深い学びの実現を目指した。第2は、生徒自身に作図をさせることである。作図をすることで、生徒が証明に向けて見通しを持ち、主体的な学びにつながるようにした。第3は、問題解決を図るための時間の確保である。思考するための時間を多くとることで、生徒同士が、自分の考えを数学的な表現を用いて論理的に説明したり、自分とは違う視点を確認したり、より良い考えに高めたりするような対話的な学びの実現を目指した。そのために、プロジェクターで生徒の作図を投影するといった工夫も取り入れた。生徒が考えを共有できるとともに、時間の短縮も図ることにもなり、問題解決を図る時間の確保に役立った。実際の授業では、この仕掛けの働きと教師の声かけにより、生徒が自分で考え、そして他者と協働し問題解決を目指している様子が見られ、様々な考えに触れ、刺激を受けていた。多くの生徒は「主体的・対話的で深い学び」が実現できたといえる。課題としては、活動を途中で諦めてしまう生徒がいたこと、証明の解説を生徒ではなく教師が行ってしまったことなどが挙げられた。授業後の研究協議において、相談しやすい環境づくりのためにペアワークやグループワークを入れる、自力で解決する力を身に付けさせるために集団で考えた後に個人で考えをまとめる時間を作る、生徒が自分の考えを全体に対して言語化するために日頃から生徒が発表をする場面を作り練習をしておく、といった意見があった。

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：数学B（年次：2年）

②単元名：空間座標とベクトル（第1章 ベクトル 第2節 空間ベクトル）

③単元のねらい（身に付けさせたい力）：座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解し、それを適切に表現することができるようにする。

④単元の評価規準

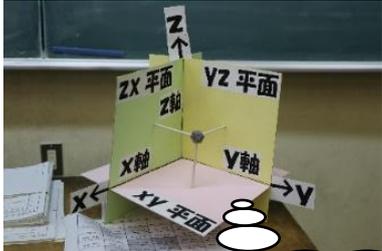
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・空間ベクトルや空間座標に関心を持ち、積極的に活用しようとする。	・空間に拡張したベクトルや座標を用いて、空間図形の性質などを考察し、的確に表現することができる。	・空間での分点や内積・図形の性質等を座標やベクトルを用いて求めることができる。	・空間座標やベクトル、演算・成分・内積や、それを用いた図形の表し方を理解し、基礎的な知識を身に付けている。

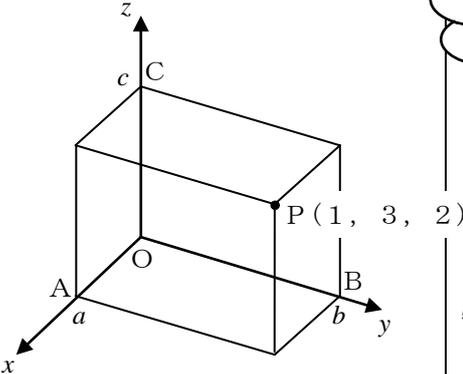
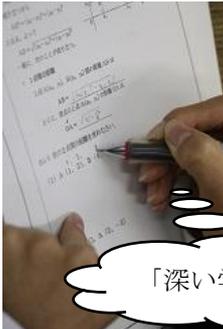
⑤単元の指導計画 【評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：数学的な見方や考え方 c：数学的な技能 d：知識・理解】

時	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1・2 本時	空間の点	平面から空間へ拡張したときにどうなるかを予想し、グループで話し合う中でそれが正しいかを確認する。		○			空間の点を平面等の下ろした座標、対称等の性質などを考察し、的確に表現することができる。	観察 ワークシート
			○				平面と空間の関係に関心を持ち、自ら進んで調べようとする。	
3・4	空間のベクトル・ベクトルの成分	平面と同様に、空間においてもベクトルやその成分表示を理解し応用する。			○		空間での分点等をベクトルを用いて求めることができる。	観察 ワークシート
						○	空間ベクトル及び成分表示を理解している。	
5・6	ベクトルの内積	平面と同様に、空間ベクトルについても内積の基本性質を理解し応用する。			○		空間での内積等をベクトルを用いて求めることができる。	観察 ワークシート
						○	空間におけるベクトルの内積を理解している。	
7・8	ベクトルの図形への応用	平面と同様に、空間においても位置ベクトルを考え、空間図形に関して考察する。			○		空間において位置ベクトルを用いての表し方を理解し、分点等をベクトルを用いて求めることができる。	観察 ワークシート
				○			四面体の性質などを考察し、的確に表現することができる。	
9・10	座標空間における図形	2点間の距離や内分点・外分点、平面、球面に関して考察する。		○			空間における距離、内分点、外分点、平面、球面の方程式を考察し、的確に表現することができる。	観察 ワークシート
						○	2点間の距離や分点、図形の表し方を理解している。	

11・12	問題解決・ まとめ	問題を解くことで空間ベクトルの理解を深める。また、空間における媒介変数表示についても理解する。	○		空間における媒介変数表示やベクトル方程式を考察し、的確に表現することができる。	観察 ワークシート
			○		空間ベクトルや空間における媒介変数表示に関心を持ち、自ら進んで調べようとする。	

⑥授業実践例

授業展開	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記述内容を読んで、グループで確認しながら空間座標の名称等を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業導入時からグループを作り、生徒同士の関わりの中で正解にたどり着けるようにする。 	
展開① (25分)	<p>例) 点P(-2, 3)からx軸、y軸に垂線を下ろし、各軸との交点Q、Rの座標を求めよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平面や空間において、模型を活用して軸や平面に下ろした垂線との交点の座標の求め方を確認(予想)する。  <p>模型を活用して空間座標を理解!</p> <p>ねばり強く考えても分からない...</p> <p>ただど!</p> <p>友達同士で教え合えるから心配なし!</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 「下ろす」という言葉の説明もする。 「0」となるところに気付かせる。 生徒同士の関わりの中で正解にたどり着けるようにする。 <p>グループで答えを「完全一致」!</p>  <ul style="list-style-type: none"> 上記パネルをすべてのグループに配付しておく。グループで問題を解く際に、全員の答えが一致したら「完全一致」を掲げさせ、教員の助言が必要な場面では「せんせ!」を掲げさせる。 	<p>平面と空間の関係に関心を持ち、自ら進んで調べようとする。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>空間の点を平面等に下ろした座標、対称等の性質などを考察し、的確に表現することができる。</p> <p>【数学的な見方や考え方】</p>

<p>展開② (25分)</p>	<p>・平面や空間において、模型を活用して軸や平面に対称な点の座標の求め方を確認(予想)する。</p>	<p>・展開①と同様に、生徒同士の関わりの中で正解にたどり着けるようにする。 ・平面から空間に拡張できることを理解させる。</p>	
<p>展開③ (25分)</p>	<p>・平面や空間において、2点間の距離の求め方を確認(予想)する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例1) 原点Oと点P(1, 3, 2)の距離を求めてみよう。</p> </div>   <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>「深い学び」へ!</p> </div>	<p>・生徒の様子を見ながら「それぞれの軸の方向を別々に考えて三平方の定理の利用」ということを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <p>ねばり強く考え、 相談しながら確認して、 更なる難しい問題へ!</p> </div>  <p>・空間における2点間の距離は、具体物を使い確認させる。 ・早く終わった生徒は分からない生徒に教えるよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>模型を活用して 空間座標を理解!</p> </div>  	
<p>まとめ (5分)</p>	<p>・今日の授業のまとめと振り返り</p>	<p>・本日の授業内容を確認する。 ・次回、小テストを実施することを伝える。</p>	

研究実施校：神奈川県立相模原総合高等学校（全日制）
 実施日：平成28年11月21日（月）
 授業担当者：喜多川 聡 教諭

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

問題解決を図る場面でお互いに教え合える環境を整えるためにグループを作って授業を行った。グループを作ることによって生徒同士の活発な意見のやりとりがあり、グループ学習が生きるような授業の進め方をしていた。例としてはグループの生徒同士で答え合わせを行わせ、すべての生徒の答えが一致したときに「完全一致」と書かれた札を立てることや、各グループに教具を配付して考えるきっかけを作り、思考を共有することであり、そのことにより、生徒同士の意見交換がより多く見られた。また、プリントを準備することによって生徒が板書をノートに書き写す時間を短縮し、考える時間を多く取った。90分授業において、単元のねらいの実現に向けて生徒全員が主体的に取り組んでいたことは、グループを作れば実現するという形式的なものではなく、授業者が生徒の様子をよく観察しながら、日々の授業改善に取り組んでいる成果である。課題としては、他の生徒の答えを写して終わってしまう生徒や、他の生徒に構わず自分だけで解き進めてしまう生徒がいたことである。授業後の研究協議において、早く終わった生徒には、グループ内やクラス全体に対して、黒板等を使ってなぜその答えになるか説明させる方がより対話的学び・深い学びに結び付くのではないかという意見があった。

理 科

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究のテーマ

組織的な授業改善の推進～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業の実践事例～

(2) 研究のねらい

研究推進委員会では、実験を通してレポートの考察の質を高め、生徒が主体的な取組をするためにはどうすればよいか、という視点から生徒の興味・関心を引き出して自ら考えることで理解を深めることをねらいとし、実験を授業の中でどのように展開すると効果的であるかについて研究することとした。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：物理基礎（学年：2年）

②単元名：仕事と力学的エネルギー

③単元のねらい（身に付けさせたい力）：重力や弾性力などの保存力について理解し、それらの力のみが仕事をする場合は力学的エネルギーが保存され、摩擦力などの非保存力が仕事をする場合は、力学的エネルギーが保存されないことを考察できるようにする。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
仕事と力学的エネルギーの関係について、関心を持ち意欲的に探究しようとしている。	仕事と力学的エネルギーの関係について考察し、導き出した考えを表現している。	仕事と力学的エネルギーの関係について観察・実験などを行い、それらの過程や結果を的確に記録・整理している。	仕事と力学的エネルギーの関係について理解し、知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画（本時は本単元の6時間目） a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 観察・実験の技能 d: 知識・理解 ⊙=特に重視

時間	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 2	仕事	仕事の原理と仕事率について理解する。	⊙				仕事の原理に関心を持っている。	行動観察 課題
						○	仕事の定義を理解している。	ワークシート
3	運動エネルギー	運動エネルギーと仕事の関係性について理解する。				○	エネルギー差と仕事について理解している。	課題
4 5	位置エネルギー	位置エネルギーの表し方について理解する。				○	位置エネルギーの定義を理解している。	課題 定期テスト
				⊙			保存力の仕事について考察し表現している。	ワークシート
6 (本時)	エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を仕事と関連付けて理解する。		⊙			実験結果を分析し考察している。	ワークシート
					○		実験の過程や結果を的確に記録・整理している。	
7 8	仕事と力学的エネルギーの保存	力学的エネルギー保存がされる場合とされない場合について理解する。		○		○	保存力の仕事とエネルギーについて考察し、その関係を理解している。	課題 定期テスト
			○				仕事と力学的エネルギーの関係について、関心を持ち意欲的に探究しようとしている。	

⑥授業実践例

本時のねらい

- 落下する物体の速度は質量に依存せず、高さに依存することを理解する。
- 摩擦力による仕事でエネルギーが損失することを考察できる。

学習内容と活動	指導・支援	評価方法
<p>【導入】10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの定義の復習をする。 ・本時の目的と学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動エネルギー、位置エネルギーの定義の復習をして、本時の学習につなげる。 ・力学的エネルギー保存則について、各グループでそれぞれ四つの実験を行い、情報を共有して考察し、レポートをまとめることについて説明した。 	<p>[思考・判断・表現] 発問に対する発言</p>
<p>【展開】30分</p> <p>各班4人(全10班)を実験1～実験4のグループに分けて進める。</p> <p>実験1 質量の違う物体を、同じレールで滑らせて、水平投射させたときの飛距離を考察する。</p> <p>実験2 同じ物体を、高さの違うレールで滑らせて、水平投射させたときの飛距離を考察する。</p> <p>実験3 同じ物体・同じ高さで、平坦部の長さを変えて、水平投射させたときの飛距離を考察する。</p> <p>実験4 水平投射の到達距離を、速度計を使い、射出速度より数値計算する。</p>  <p style="text-align: center;">実験4</p>	 <p style="text-align: center;">実験3</p> <p>それぞれの実験について補足説明をする。</p> <p>1 fragment mission 四つの実験について、それぞれの実験指示に従い、実験を行い、観察・結果の整理をワークシートに行う。 各実験は2～3人ごとに更に小集団を作り、3～4回行った平均を記録する。他の小集団の平均も記録する。</p> <p>2 group mission それぞれの実験で考察したことを、はじめのグループに戻り共有する。</p> <p>3 final mission 各グループで意見交換して考察したことを、自分の言葉でワークシートにまとめる。</p>	<p>[思考・判断・表現] [観察・実験の技能]</p> <p>ワークシート</p>
<p>【まとめ】5分</p> <p>実験1～実験4から考察できることを意見交換し、自分の言葉で表現し、ワークシートにまとめる。</p>	<p>成果発表に向けての資料作成を指導。 生徒の進捗を確認し、声かけを行う。 次回は、成果発表を行うことを予告する。</p>	

研究実施校：神奈川県立希望ヶ丘高等学校(全日制)

実施日：平成28年10月26日(水)

授業担当者：加藤 慧(教諭)

<授業で使ったワークシート>

2016 物理基礎 No12

20__月 No.____ Name_____

共同実験者_____

○エネルギーが保存される場合とされない場合

- 1 目的
さまざまな条件で坂道を転がる鉄球の飛距離・速度を測定し、エネルギー保存と摩擦の仕事の関係などについて考察する。
- 2 用具
電源配線用モールで作った坂道、鉄球、カーボン紙、上質紙、ビースピスタンド、ものさし
- 3 実験方法
1～4の実験に分かれ、それぞれの番号の実験を、指示に従い行う。
実験方法・結果・考察はその後グループに戻り、共有するので、きちんとまとめておくこと。

4 結果の整理	
<実験1について> 実験の概要	実験データ
<実験2について> 実験の概要	実験データ
<実験3について> 実験の概要	実験データ
<実験4について> 実験の概要	実験データ

<実験1> fragment I "mass" mission

- 目的
坂道を転がる鉄球のエネルギーは、質量に依存するか。
- 実験方法
電源配線用モールで作った坂道の50cmの高さから、3種類の鉄球を滑らせる。坂道の終端から発射した鉄球の飛距離を測定しよう。
2～3人で3～4回滑らせたときの平均をとってみよう。
- 測定方法
鉄球が落下する面上に上質紙とカーボン紙をおき、鉄球が落下した点を、坂道の終端から長さを測って測定する。
- 結果の整理
(途中計算などメモ欄)

	自分の平均	他のチームの結果			
鉄球 (小)	cm	cm	cm	cm	cm
鉄球 (中)	cm	cm	cm	cm	cm
鉄球 (大)	cm	cm	cm	cm	cm

<実験2> fragment II "height" mission

- 目的
坂道を転がる鉄球のエネルギーは、高さに依存するか。
- 実験方法
電源配線用モールで作った坂道に、鉄球を滑らせる。
50cm、25cm、10cmの高さから滑らせたときの飛距離を測定しよう (印あり)。
2～3人で3～4回滑らせたときの平均をとってみよう。
- 測定方法
鉄球が落下する面上に上質紙とカーボン紙をおき、鉄球が落下した点を、坂道の終端から長さを測って測定する。
- 結果の整理
(途中計算などメモ欄)

高さ	自分の平均	他のチームの結果			
50cm	cm	cm	cm	cm	cm
25cm	cm	cm	cm	cm	cm
10cm	cm	cm	cm	cm	cm

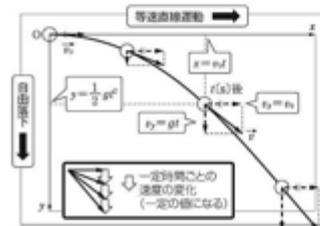
5 考察

(1) <実験1>～<実験4>でわかったことをグループでまとめる。

(2) (1) から考えられることをエネルギー保存の観点に基づいてまとめる。

*次回以降このプリントを用いて、エネルギー保存則および、エネルギーと摩擦の仕事の関係について考察・演習します。

<参考>水平投射と水平投射の式



鉛筆の実験では、間接的に運動エネルギーと飛距離の考察を行いました。
今回はx軸方向の速さは測定できるので、速さと、y軸方向の落下時間から、飛距離を計算して求められます。
<実験4>をもとに、<実験1>～<実験3>がどのような意味を持つのかもあわせて考えてみよう。

<実験3> fragment III "resistance" mission

- 目的
坂道を転がる鉄球のエネルギーは、摩擦により減少するか。
- 実験方法
電源配線用モールで作った坂道に、鉄球を滑らせる。
2つペアになった坂道の同じ高さから鉄球を滑らせて、飛距離を測定しよう。
(片方は発射までの平坦部の距離が短く、もう片方は長いものを使用する。)
2～3人で3～4回滑らせたときの平均をとってみよう。
- 測定方法
鉄球が落下する面上に上質紙とカーボン紙をおき、坂道の終端から鉄球が落下した点までの長さを測定する。
実験4の条件と何が違うのかを考察する。
- 結果の整理
(途中計算などメモ欄)

	自分の平均	他のチームの結果			
平坦部が短い	cm	cm	cm	cm	cm
平坦部が長い	cm	cm	cm	cm	cm

<実験4> fragment IV "calculate" mission

- 目的
坂道を転がる鉄球の速度を測定し、水平到達距離の計算値と実験値を比較する。
- 実験方法
電源配線用モールで作った坂道に、鉄球を滑らせる。
射出時の速度をビースピで測定すると同時に、飛距離を測定する。
2～3人で3～4回滑らせたときの平均をとってみよう。
- 測定方法
<実験値>
鉄球が落下する面上に上質紙とカーボン紙をおき、鉄球が落下した点を、坂道の終端から長さを測って測定する。
<計算値>
高さが10cm (0.10m) であるので、水平投射の式から、落下にかかる時間を計算する。
この時間と、ビースピで測った速さより、飛距離の計算値を求める。
実験値とどのくらいのずれがあるかを理解し、原因を考察する。
実験3の条件と何が違うのかを考察する。

自由落下にかかる時間 _____ 秒 ...①
ビースピの平均速度 _____ m/s ...②
①②より求めた飛距離 _____ cm
(計算などメモ欄)

	平均
自分の実験値	
他のチームの結果	

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

本時は、単元の中でまとめとなる位置付けである。仕事と力学的エネルギーについて学習した後、実験を行い、学習したことが実際に定義通りになるのか、実験結果から分析し考察することで、生徒の深い学びにつながると考えられる。そのために、保存力の仕事とエネルギーの関係を理解し考察できるように、単元の学習内容を計画した。

本時の実験では、目的を明確にし、何について考察するかを生徒に意識させた。また、説明を最小限にして実験時間を確保したことで、実験にじっくり取り組むことができた。4種類の実験を用意し、各班(4人)から1人ずつ異なる実験1～実験4について取り組んだ。同じ実験に取り組んだ別班の人と結果・考察について意見交換し、自分の班へ戻って互いの結果・考察から実験1～実験4のまとめの考察をすることで、より深い学びができたと思われる。また、一人ひとりが実験を担当して行うことにより、責任を持って自主的に実験を進める環境をつくることができ、意見交換も効果的に行われたのではないかと考えられる。

研究協議においては、以下のような意見があった。

- ・生徒への助言の仕方を工夫すると、効果的にねらいの達成ができると思う。
- ・所属班と実験集団の両方で意見交換ができ、対話によって学びをより深めることができると感じた。
- ・分からないことに対して、教師を介さずに生徒間で解決する部分があった。
- ・班内でデータを共有する作業をする中で伝えるための工夫が行われていた。
- ・実験データを班に持ち帰ることで、実験操作に対して、主体的かつ緊張感を持って取り組んでいた。
- ・実験を通して生徒たちが主体的に取り組んでいた。
- ・考察の発表までがアクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業展開であれば、大変効果的だと思う。

実験を通して、考察や成果をまとめることに重きを置き、その点において生徒が能動的に活動することが大事であると考え。そのために、1時間で完結する内容に留めず、実験から定義を導くことができるよう、まとめや発表等での意見交換の時間を十分に確保することが必要であると思われる。

今回はジグソー法を用いたが、この手法を活用したことで、生徒が学習のねらいを踏まえ、主体的に取り組む、学びを深めることができたのではないかとと思われる。本校は、意見交換を積極的に行うことができる生徒が多く、1学期から丁寧に指導することで、文系・理系や学年を問わず実施可能な内容であると考えている。また、実験道具の数及び時間の都合で、全員が同時にできない作業・実験は多々あるため、この手法を他の分野の授業でも取り入れていくことを検討している。また、実験だけでなく、演習問題において別々の課題に取り組みせ、グループで情報を共有し考察させるという展開の授業にも応用できると考えている。

それぞれの実験の目的はワークシートに示されていたが、実験グループによって、測定値と理論値との差が出てしまう原因を考察することができたかにより、生徒の理解度に差が生じていることが分かった。その原因を摩擦、空気抵抗、レールのゆがみと関連付けられたグループは理解度が比較的高いと考えられる。この原因の考察については、次の授業で展開し、クラス全体で理解を深めることができた。

生徒の感想として、次のようなものがあった。

- ・分かれての作業だったので考えることが多かった。
- ・四つの実験から何が関係しているかを考えられた。
- ・自分の持っていない意見を聞くことができた。
- ・人の意見を聞かないと分からないことが多かった。
- ・自分で実験内容をまとめることでより分かった。
- ・次回に何を考察しなければならないかを理解できた。

生徒にとって1時間はかなり短く感じているように思われた。意見交換をして考察をスムーズに進められた班については、実験の目的を理解し、定義と比較しながら実験の成果をまとめるところまで作業を進めることができた。一方で、実験データをまとめることに集中した班については、意見交換まではたどり着かず、ワークシートを完成させることに集中してしまった傾向が見られた。これを受けて、まず実験の目的をはっきりさせ、実験をスムーズに行うことを注意喚起し、次に、実験結果を班に持ち帰った後、ワークシートのまとめをする作業の前に、個人や班でまず考える時間をしっかり取るようにする。その上で、ワークシートのまとめをして教科書の定義と比較し、考察したものを成果物としてさらにまとめさせる。ジグソー法を活用する際は、このような点に注意することによって、効果を上げることができ、より深い学びへと導くことができると考えられる。

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：化学（学年：3年）

②単元名：化学平衡

③単元のねらい（身に付けさせたい力）：可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。水のイオン積、pH、弱酸、弱塩基の電離平衡について理解する。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
可逆反応や化学平衡について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	可逆反応、化学平衡や化学平衡の移動といった現象について、実証的、論理的に考え、分析し、科学的に導き出した考えを表現している。	可逆反応、化学平衡や化学平衡の移動について観察、実験を行い、その操作や記録などの技能を身に付けている。	可逆反応、化学平衡の移動、水のイオン積、pH、弱酸や弱塩基の電離平衡、緩衝液、塩の沈澱と溶解平衡について理解し、知識を身に付けている。

⑤単元の指導計画（本時は3時間目） a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 観察・実験の技能 d: 知識・理解 ◎=特に重視

時間	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 2	可逆反応と化学平衡	可逆反応、化学平衡、化学平衡の法則について学ぶ。	○				可逆反応や化学平衡について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	観察 定期試験
				○			化学反応式から平衡定数を表している。	
						◎	可逆反応と化学平衡について理解している。	
3 4	化学平衡の移動	化学平衡の状態は様々な要因で移動することを学ぶ。	○				化学平衡の移動について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	小テスト 実験の記述 定期試験
				◎			化学平衡の現象について、科学的に導き出した考えを表現している。	
					◎		実験を行い、その操作や記録などの技能を身に付けている。	
						○	ルシャトリエの原理について理解を深め、平衡定数から理解している。	
5	化学平衡の移動と化学工業	化学平衡とその応用が人間生活に及ぼす影響について学ぶ。	◎				人間生活と化学工業について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	定期試験
						○	化学平衡の応用を理解し、知識を身に付けている。	
6 7 8 9 10 11	電解質水溶液の平衡	化学平衡の考えを用いると様々な水溶液の性質を説明できることを学ぶ。	○				様々な水溶液の化学平衡について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	定期試験 実験の記述 小テスト
				○			様々な水溶液の化学平衡や化学平衡の移動の現象について、論理的に考え、分析し、科学的に導き出した考えを表現している。	
						○	化学平衡や化学平衡の移動について科学的に探究する技能を身に付けている。	
						◎	化学平衡の考えを用いて水溶液の様々な性質を理解している。	

⑥授業実践例

本時のねらい

- 実際の変化を観察することで、ルシャトリエの原理の理解を深める。

学習内容と活動	指導・支援	評価方法
【導入5分】 ・小テスト（確認テスト）を用いて本時実験の反応について結果を予測する。 ・小テスト（確認テスト）の解答を班内で共有し、予測について意見を交換する。 ・任意の生徒が予測を発表する。	・本時の実験に関係する反応であることを伝える。 ・他の生徒と意見を交換しながら結果を予測させる。 ・ワークシートに予測を書かせる。	[思考・判断・表現] 小テスト （確認テスト） 実験ワークシート
【実験操作20分】 ・実験手順を整理、確認する。 ・手順書に従い、操作を行う。 ・結果をまとめる。	・ワークシートの手順を確認させる。 （実験1＝図1＝クロム酸イオンのpHによる呈色反応） （実験2＝図2＝コバルト錯体の温度による呈色反応） ・安全に操作を行うよう注意する。 ・予測と比べながら結果をまとめさせる。	[観察・実験の技能] 実験ワークシート
【考察15分】 ・結果を踏まえ、なぜそのような結果になったのか整理する。（5分） ・結果の整理から、異なる実験（実験1と実験2）の間にある共通の原理を探究する。（10分）	・結果から反応の過程を整理させる。 ・異なる条件でも共通の原理が働いていることを気付かせる。 ・共通原理を使えば条件を変えても同様の反応が見られることに気付かせる。	[思考・判断・表現] 実験ワークシート
【演示実験5分】 ・演示実験にて同様の原理を用いて見られる他の現象を紹介し、感想を書く。 （飽和食塩水へ塩化水素ガスを通しNaClの沈殿を生じさせる実験）	演示実験と今回の実験を比較させる。また、今後の学習と関連付ける。（溶解平衡・共通イオン効果との関連）	
【片付け、振り返り5分】 ・片付けを行う。 ・ルシャトリエの原理を使うと他の条件でも同様の反応が見られることを考察する。	・重金属廃液の処理を注意する。 ・本時を踏まえ、実験方法を自分たちで考えるよう指導する。 ・検証実験は次回の授業とする。	[観察・実験の技能] [知識・理解] 実験ワークシート

研究実施校：神奈川県立厚木東高等学校（全日制）

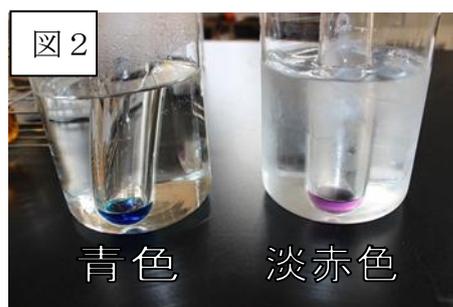
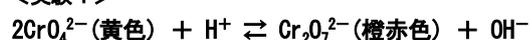
実施日：平成28年11月2日（水）

授業担当者：吉良 純平 教諭

<本時で用いた反応>

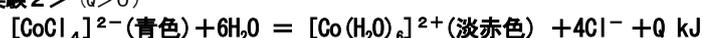


<実験1>



<実験2>

(Q>0)

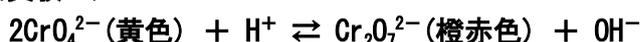


(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

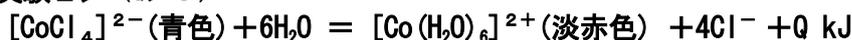
本時の構成は主体的・対話的・深い学びの達成のために、化学平衡における重要な概念の一つである「ルシャトリエの原理」を実験によって学ぶことを目的とした。化学の授業において、具体的な事象から抽象的な概念形成をする過程は主体的・対話的である方がより学習を深めることができるのではないかと、という仮説のもと、指導計画を立案し、授業を行った。

原理や概念を先に教えて実験し、考察で対話的に授業を行うのが一般的な流れであるが、今回は「ルシャトリエの原理」を先に教えず、実験を通じて対話しながら「化学平衡は与えた条件を和らげる方向へ移動する」という抽象的な概念を導くようにした。また、原理を実験から導いた後は、原理を使って、色が変わるといふ現象が他の方法でできないか考察させた。用いた反応は次の通りである。

<実験1>



<実験2> (Q>0)



実験1では酸性になった場合の色を、実験2では加熱した場合の色を予想させ、実験後に2つの変化に共通する原理を探らせた。

その結果、条件を変えるとそれを和らげる方向へ反応が進んでいるということを、生徒は自分の言葉で表現できた。その後、実験2について「温度を変える以外に色を変える方法を考えなさい」という問いを投げかけ、考えさせた。時間内に検証することはできなかったが、この問いを考えることに対して高い関心を示し、次の授業時間内に生徒どうしで検証に成功し、理解を深めた。生徒の感想では、最初に答えを知っているより今回の実験の流れの方が考えて実験できた、という意見を多く得ることができた。また、研究協議や事例発表でも「実験」→「考察」→「概念化・知識の獲得」という流れの方が、アクティブ・ラーニングの視点から、より学習が深まるという意見も多くあった。

原理を知って実験する場合、知識の定着は進むが、結果が容易に予想できるため主体的な関わりが薄くなる。それに対して今回のように原理を知らずに実験する場合、次のようなメリット、デメリットが考えられる。

<メリット>

- ・導入の部分で全員が知らない状態であるので、知識を獲得するための安心感や生徒同士の共感が得られやすい。
- ・未知の結果に対して探究心や好奇心をくすぐられ、主体的に取り組みやすい。
- ・具体的な現象を見ながら生徒同士で対話的に学んでいくので新しい概念を獲得しやすい。

<デメリット>

- ・目的や内容が不明なので成功・失敗の判別が難しく、誤った理解をしてしまう可能性がある。
- ・授業のゴールを知らずに実験を進めると達成感が得られにくい。
- ・考察や概念の獲得に時間がかかる可能性がある。

今回のような単元展開は、上記のメリット、デメリットを理解した上で単元の中で効果的に配置すれば、高い学習効果を生むものと思われる。特に今回のような流れで展開する場合、実験結果にこだわるのではなく、原理を見つけることが目的であることを、先に生徒と共有しておく必要がある。また、教員が主導して進める場面と生徒が主導して進める場面を効果的に使い分けることで、無理のない単元計画が可能になるとと思われる。

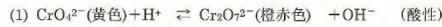
今後は、生徒の活動に対する評価を研究する必要がある。特に実験の中での概念の獲得や、その活用について客観的に評価する方法を整理し、指導と評価の一体化をさらに充実させていくことが今後の課題である。

<確認テスト>

化学 確認テスト

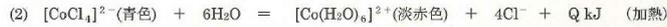
(実験前に・・・)

1. 次の反応が平衡状態にあるとき、()内のように条件を変えると、平衡はどちらに移動するか、下の①～③より1つ選びなさい。



- ① 右(→)方向に反応が進み、水溶液は橙赤色になる。
 ② 左(←)方向に反応が進み、水溶液は黄色になる。
 ③ どちらの方向にも反応は進まない。

()



ただし、 $Q > 0$ とする。

- ① 右(→)方向に反応が進み、水溶液は淡赤色になる。
 ② 左(←)方向に反応が進み、水溶液は青色になる。
 ③ どちらの方向にも反応は進まない。

()

(実験後に・・・)

2. 次の反応が平衡状態にあるとき、()内のように条件を変化させると、平衡はどちらに移動するか、もしくは移動しないか。

- (1) $\text{N}_2\text{O}_4 = 2\text{NO}_2 - 57 \text{ kJ}$ (加熱する)
 (2) $\text{NH}_3 + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{NH}_4^+ + \text{OH}^-$ (塩化アンモニウムを加える)
 (3) $\text{CO} + \text{H}_2\text{O}(\text{気}) \rightleftharpoons \text{CO}_2 + \text{H}_2$ (圧力を高くする)
 (4) $\text{NaCl}(\text{固}) + \text{aq} \rightleftharpoons \text{Na}^+\text{aq} + \text{Cl}^-\text{aq}$ (塩化水素を通じる)
 (5) $\text{N}_2 + 3\text{H}_2 \rightleftharpoons 2\text{NH}_3$ (全圧を一定に保ち、アルゴンを加える)
 (6) $\text{N}_2 + 3\text{H}_2 \rightleftharpoons 2\text{NH}_3$ (体積を一定に保ち、アルゴンを加える)
 (7) $\text{C}(\text{固}) + \text{H}_2\text{O}(\text{気}) \rightleftharpoons \text{CO} + \text{H}_2$ (圧力を高くする)

<実験ワークシート>

日付 (/) () 限目 気温 (°C)

(生徒実験5) 化学平衡とその移動

【目的】 化学平衡とその移動について、実際の反応を見て理解を深める。

【器具・試薬】 ビーカー、試験管、ガラス棒、ピペット、pH試験紙、白紙 クロム酸カリウム水溶液 1mol/L 水酸化ナトリウム水溶液、濃塩酸、1mol/L 塩酸、0.1mol/L 塩化コバルト水溶液、熱湯、氷水 (演示用：塩化ナトリウム飽和水溶液、塩化ナトリウム、濃硫酸、沸騰石)

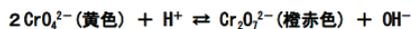
【演示実験】

塩化ナトリウムと濃硫酸の反応で()を発生させ、発生した気体を塩化ナトリウム飽和水溶液に通じ変化を観察する。

反応式 ()
 結果 ()

【実験1】

<反応式と実験結果の予測>



この反応において、酸性にすると水溶液の色は・・・？ ()色になる？

<実験操作>

- ① 試験管2本にクロム酸カリウム水溶液(黄色)を2mL取る。(1本は比較用)
 ② ①の液をガラス棒につけpH試験紙で液性(酸性or塩基性)を調べる。
 ③ ①の液に1mol/L塩酸を約1mL加え、液性を調べる。
 ④ ③の反応後、1mol/L水酸化ナトリウム溶液の色が変わるまで加え、液性を調べる。

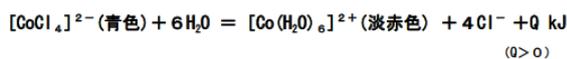
<実験結果>

	酸性or塩基性	水溶液の色	反応の向き(左←or右→)
②の結果			
③の結果			
④の結果			

実験の結果、酸性にすると()色になる。

【実験2】

<反応式と実験結果の予測>



この反応において、加熱すると水溶液の色は・・・？ ()色になる？

<実験操作>

- ① 濃塩酸が約2mL入った試験管2本に、それぞれ0.1mol/L塩化コバルト水溶液を1mL入れ混合する。(1本は比較用) 色は？()色
 ② 氷水(冷却用)を用意し、試験管を入れて観察する。
 ③ 熱湯(加熱用)を用意し、氷水から試験管を出して熱湯に入れ、観察する。

<実験結果>

	水溶液の色	反応の向き(左←or右→)	発熱反応or吸熱反応
冷却			
加熱			

実験の結果、加熱すると()色になる。

【考察】

1. 実験1について色に変化するしくみを整理しなさい。

2. 実験2について色に変化するしくみを整理しなさい。

3. 考察1、考察2をふまえ、平衡状態にある化学反応にさまざまな条件を与えると、その条件をどのようにする方向へ反応が進むか。考察1、2をふまえ、以下の文章の()を埋めなさい。

化学反応が平衡状態にあるとき、温度・温度などの条件を変えると、その条件を()る方向に反応は進み、新しい平衡状態に達する。

4. 実験2の反応は、考察3の原理を使うと、加熱・冷却以外に色を変える方法があります。色を変える方法を考えなさい。考えがまとまった班は先生まで報告しなさい。

【感想】 今回の実験で化学平衡とその移動について理解が深まりましたか？

クラス () 番号 () 氏名 () 班 ()

保健体育（保健）

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究のテーマ

組織的な授業改善の推進～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業の実践例～

(2) 研究のねらい

研究テーマ「組織的な授業改善の推進～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた授業の実践例～」に向けて、研究推進委員会では、まず実態を把握するため、推進委員の所属校における課題について検討した。その内容から課題を明らかにするとともに、その課題解決を図るためのアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた具体的な手立てについて検討することが必要であると考えた。

そこで、公開研究授業実践校の学校目標である「自己肯定感とコミュニケーション力向上」を踏まえ、授業における学習活動の工夫に着目し、全ての生徒が主体的に学習に取り組む授業実践について研究することとした。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点をおいた授業展開例

①科目名：保健 学年：2学年

②単元名：生涯の各段階における健康

③単元のねらい

ア 生涯の各段階における健康について、関心を持ち、学習に進んで取り組もうとすることができるようにする。

イ 生涯の各段階における健康について、課題の解決を旨として、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。

ウ 生涯の各段階における健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活や社会の関わりを理解することができるようにする。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<p>○思春期と健康、結婚生活と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>○加齢と健康について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>○思春期と健康、結婚生活と健康について、学習したことを、個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。</p> <p>○加齢と健康について、資料等で調べたことを基に課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。</p>	<p>○生涯にわたって健康を保持増進するには、健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>

⑤単元の指導計画

※ a:関心・意欲・態度 b:思考・判断 c:知識・理解

時	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	思春期と健康	調べ学習 グループでの話し合い		○	○	(思考・判断) (知識・理解)	○ワークシート ○観察
2	性意識と性行動の選択	ブレインストーミング	○			(関心・意欲・態度)	○観察 ○ワークシート
3	結婚生活と健康	ロールプレイング	○	○		(関心・意欲・態度) (思考・判断)	○観察

4 ・ 5	妊娠・出産 と健康	ビデオ学習 ブレインストーミング		○	○	(思考・判断) (知識・理解)	○観察 ○ワークシ ート
6	家族計画と 人工妊娠中 絶	調べ学習 ディスカッション		○	○	(関心・意欲・態度) (思考・判断)	○観察 ○ワークシ ート
7 ・ 8 (本時)	加齢と健康	調べ学習 ディベート		○	○	(関心・意欲・態度) (思考・判断) (知識・理解)	○観察 ○ワークシ ート
9	高齢者のた めの社会的 取り組み	ブレインストーミング 調べ学習		○	○	(思考・判断) (知識・理解)	○観察 ○ワークシ ート

⑥授業実践例（8時間目）

【本時のねらい】・ディベートを通して、前回の授業で学んだ加齢と老化に関する知識を深める。

学習活動	指導上の留意点	評価方法
○前時の授業を振り返る。 ○本時の学習内容を確認する。	・前時の学習内容を振り返り、本時の学習に結び付ける。 ・本時のねらいを簡潔に説明する。	
【学習内容】ディベートを通して、加齢と老化に関する知識を深めよう。		
【ディベートテーマ1】2年1組の平均寿命は80歳を超えるだろうか。		
○議長、賛成側10名、反対側10名、傍聴者の役割に応じてディベートをする。 ○傍聴者は、より説得力があったのは賛成側か、反対側か理由も含めて書く。 ○傍聴者が一斉に判定をし、何名か理由を発表する。	・根拠となる知識を活用し、傍聴者を説得させるよう促す。 ・より説得力があったのは賛成側か、反対側か考えさせる。 ・その理由を書かせ、述べさせる。	【思・判】 【知・理】 ○観察 ○ワークシ ート
【ディベートテーマ2】老後に暮らすなら都会と田舎のどちらがよいか。		
○テーマ1と役割を入れ替え、議長、賛成側10名、反対側10名、傍聴者の役割に応じてディベートをする。 ○傍聴者は、より説得力があったのは賛成側か、反対側か理由も含めて書く。 ○傍聴者が一斉に判定をし、何名か理由を発表する。	・根拠となる知識を活用し、傍聴者を説得させるよう促す。 ・より説得力があったのは賛成側か、反対側か考えさせる。 ・その理由を書かせ、述べさせる。	
○学習の振り返りをする。	・ディベートをすることで、これまでの学習の知識を深化させることができたか、振り返りをさせる。 ・今の生活習慣が将来の自分につながる意識を持ってほしいと伝える。	

研究実施校：神奈川県立愛川高等学校（全日制）

実施日：平成28年10月21日（金）

授業担当者：上田 美実 教諭

[生徒によるアンケートの集計結果41名]

	とても 良くできた	良くできた	どちらとも 言えない	あまりでき なかつた	全くできな かつた
調べ学習を積極的に行う ことができた。	23名 56%	15名 36.60%	2名 4.90%	1名 2.40%	0
相手により良い伝え方を 工夫することができた。	25名 61%	13名 31.70%	2名 4.90%	1名 2.40%	0
仲間の意見に耳を傾ける ことができた。	27名 65.90%	10名 24.40%	3名 7.30%	1名 2.40%	0
ディベートに積極的に参 加することができた	31名 5.60%	7名 17%	2名 4.90%	1名 2.40%	0
ディベートを通して、加 齢と老化に関する知識を 深めることができた。	24名 58.50%	14名 34.10%	2名 4.90%	1名 2.40%	0
自分たちの力でディベ ートを行うことで、自信に つながった。	29名 70.70%	9名 22%	2名 4.90%	1名 2.40%	0

3 実践事例

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：保健（1・2年次）

②単元名：健康の保持増進と疾病の予防

③単元のねらい

ア 健康の保持増進と疾病の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができるようになる。

イ 健康の保持増進と疾病の予防について、課題の解決を旨として総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようになる。

ウ 健康の保持増進と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
○健康の保持増進と疾病の予防について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの活動を通して、学習に主体的に取り組もうとしている。	○健康の保持増進と疾病の予防について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどして、まとめた考えを説明している。	○健康の保持増進と疾病の予防について言ったり書き出したりしている。

⑤単元の指導計画

※ a:関心・意欲・態度 b:思考・判断 c:知識・理解

時	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
①	生活習慣病と日常生活行動	自分や友達の生活習慣が健康的であるかを確認する。 ラウンドテーブルデイ スカッション	○			生活習慣について、問題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)	○観察 ○ワークシート
2	喫煙、飲酒と健康	なぜイッキ飲みがなくなるのか、飲ませる人、飲まされる人の気持ちになってグループで話し合う。 ロールプレイ		○		飲酒について、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したりするなどしている。 (思考・判断)	○観察
3	薬物乱用と健康	友達が薬物を使用していると知った時に、自分がすべき適切な対処を考え、グループで話し合う。 ディスカッション		○		薬物について学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、道筋を立てて説明している。 (思考・判断)	○観察 ○ワークシート

4	感染症とその予防	先進国で唯一、年間の新規エイズ患者報告数が増加傾向にある日本の現状について考える。 ブレインストーミング	○ 感染症の予防には、個人的及び、社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。（知識・理解）	○観察 ○ワークシート
---	----------	---	--	----------------

※ 「ラウンドテーブルディスカッション」：そのテーマについて自由に意見を交換しながら議論する手法であり、他の人の意見を聞くことで、自分の考えを深めることにつなげることができる。

⑥授業実践例

学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
○前時の授業を振り返る。 ○本時の学習内容を確認する。	・前時の学習内容を振り返り、本時の学習に結び付ける。 ・本時のねらいを簡潔に説明する。	
【学習内容】生活習慣病について、問題の解決に向けての話合いや意見交換をする。		
1 ワークシートの記入① ○スライドを見ながらワークシートの穴埋めを完成させる。 2 ラウンドテーブルディスカッション 【生活習慣病はなぜ増えるのか】 ○自分の生活習慣をワークシートに記入した後、4名程度のグループを作り、1人1問ずつ自分の考えをグループのワークシートに記入していく。 ○各グループのワークシートをスクリーンで確認する。 3 ワークシートの記入② ○自分にとっての理想の食事を文章やイラストで表現する。	<生活習慣病の基礎知識> ・生活習慣病に関わる基礎的な用語等について理解させる。 ・自分の生活習慣を振り返り、積極的に意見を出させる。 ・個々人で生活習慣は異なるが、他者の意見を尊重できるように言葉かけをする。 ・書画カメラを用いて各グループの意見を確認する。 <理想の食事とは何だろうか> ・書画カメラを用いて完成した作品を確認する。	【関心・意欲・態度】 ○観察 ○ワークシート
○学習の振り返りをする。	・より健康的な生活習慣を実践できるように意識させる。	

研究実施校：神奈川県立厚木清南高等学校（定時制）

実施日：平成28年10月18日（火）

授業担当者：村松 慶隆 教諭

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

ア ワークシートの工夫について

本校は単位制のため、クラス単位で活動することが少なく、生徒同士が活発にコミュニケーションを図る機会が比較的少ない。

しかし、ワークシートを個人で意見をまとめることができるように工夫したことにより、その意見をグループワークの際に話すことができ、活発な意見交換ができるようになった。

イ ラウンドテーブルディスカッションの導入について

グループ学習の手法の一つであるが、テーマについて、意見交換を行うことで、他者の意見を聞き、自己の考えが深まったという感想を多く聞くことができた。

ウ 書画カメラの導入について

書画カメラを活用し、完成したワークシートを全員で見ること、互いの取組を確認することができ、他者の考えに対し、主体的に意見を述べやすくする環境を整えることができた。

保健資料：生活習慣病と予防

生徒証番号： _____ 名前： _____

<ラウンドテーブル>
各自各自の問題について考え、グループごとのワークシートが回ってきたら自分の考えを記入して次の人に回す。他人の考えを知ることができるので、自分の考えをより深めることができる。

生活習慣病はなぜ増える？

日本では生活習慣病による死亡が近年増加し続けている。なぜ、増加を減らせたのだろうか？食事、運動、休養、睡眠、の観点から、考えてみよう！

食事：あなたが改善すべきだと思うけど、できる食事習慣は？

運動：あなたが運動をやらぬ(やれない)理由は？

休養：あなたの平日スケジュールは？

例

睡眠：あなたの睡眠を上げるものは？

保健体育（体育）

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究のテーマ

協働的な学びを促す学習活動を取り入れ、生徒が主体的に授業に参加することができる学習内容の工夫

(2) 研究のねらい

単元を通して、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れることで、生徒自らが課題の発見・解決を行い、グループ活動の中で適切な練習方法や戦術等を探究することができる授業について検討する。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導計画及び重点をおいた授業展開例

①科目名：体育 年次：1年次

②単元名：球技「ゴール型」（ハンドボール）

③単元のねらい（身に付けさせたい力）

ア 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。

イ 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする事、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

ウ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①学習に主体的に取り組もうとしている。 ②自己の責任を果たそうとしている。	①球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。 ②仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。	①味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ②ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れることができる。	①課題解決（運動観察）の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②ゲームのルール、トーナメントやリーグ戦など試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

⑤単元の指導計画

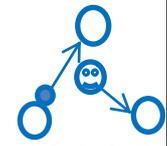
※ a:関心・意欲・態度 b:思考・判断 c:運動の技能 d:知識・理解

時	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	○主体的に取り組むことができるようにすること	○ハンドボールの学習の方法について理解する。						
2	○1対1で空間をうまく使い突破できるようにすること	○色々な状況からの1対1の練習に取り組む。						
3	○2対2で味方が作る空間をうまく使えるようにすること	○色々な状況からの2対2の練習に取り組む。						
4	○3対3で連携・連動しながら作った空間をうまく使うこと	○色々な状況からの3対3の練習に取り組む。		◎			【思・判】①②	観察 学習カード
5	○さまざまな状況に応じて動くこと	○状況に応じた攻守の練習に取り組む。			◎		【技】①	観察
6	○5対5で守備時と攻撃時での空間の違いに気付くこと	○攻守での相手との間合いの違いについて学ぶ。						
7	○5対5で攻守の切り替えを状況に合わせて行うこと	○攻守の切り替えで有利な状況を作り出せることを学ぶ。	◎				【関・意・態】②	観察
8	○5対5で連携・連動しながら有効な状況を作り出すこと	○攻守の切り替えを長い時間繰り返すことで有利な状況を常に作りだす。			◎		【技】②	観察
9	○5対5で連携・連動しながら攻守の方向を意識した攻防をすること	○攻守の方向を意識しながら攻防をする。		◎			【思・判】①②	観察 学習カード

10	○6対6で攻守の方向を意識することで有効な状況を作り出すこと	○攻守の方向を意識しながら早い切り替えを長い時間繰り返すことで有利な状況を常に作り出す。	◎					【関・意・態】②	観察
11	○7対7の試合を通し、7人が連動した動きをすること	○ゲームの進め方（役割分担、審判法）を理解する。 ○試しのゲームを行う。				◎		【技】① 【知・理】①	観察 学習カード
12	○基本的なシュート方法を身に付けること	○よい状態・よい態勢からよいシュートをする。							
13	○色々な状況からのシュート方法を身に付けること	○距離・角度・相手を意識してシュートする。							
14 15 16 17	○ゲームを通じて運営方法を理解すること	○チーム練習 ○リーグ戦 ○振り返り	◎	◎	◎	◎		【関・意・態】① 【思・判】② 【技】② 【知・理】②	観察 学習カード

⑥授業実践例

学習活動	指導上の留意点	評価方法
<p>1 出席確認・準備運動等</p> <p>(1) 本時の学習内容の確認</p> <p>(2) 準備運動・補強運動</p> <p>2 ペア、4人組での活動</p> <p>(1) キャッチボール</p> <p>(2) 4人組 <鳥かご></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2プレイ先を考えて動き出す。 <p>3 グループでの活動</p> <p>(1) 声のみでの5対5ゲーム タッチで攻守交替</p> <p>(2) ボールを利用した5対5ゲーム (シュート無) タッチ、ミス、インターセプトで攻守交替</p> <p>(3) 5対5ゲーム (シュート有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1、2班はゲーム、3、4班は協力チームの分析を行う。 <p>※協力チームの動きを学習カードに記録し、協力チームに空間を作り出す連携した動きをアドバイスする。</p> <p><特別ルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インスタントキーパー (キーパーを置かず、状況に応じてゴールに近い生徒がキーパーを行う。) ・半分押し上げシュート (攻撃中は味方全員が、相手コートに侵入したのち、シュートする。) ・失点時はゴールキーパーのパスからリスタートする。 <p>【協働的な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チーム1～2人はコーチ役となり、コート外からアドバイスを行う。 <p>4 本時の振り返り、片付け、挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認と同時に健康状態を確認する。 ・本時の学習内容とねらいを説明する。 ・体の調子や状態に気付き、怪我の予防を意識して行うよう指示する。 <p><鳥かご></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼はボールを保持していない相手にタッチできるように素早く動き、相手は、素早いボール回しを行うよう促す。 ・自分のチームがボールを保持した時は、相手ゴールへの動きを意識するよう促す。 ・自分のチームがボールを保持していない時は、味方ゴールと相手の動きを意識するよう促す。 ・ボールを保持していない時の動きを意識するよう促す。 ・イメージボールと、実際のボールとの違いを意識するよう促す。 <p>【協働的な活動】</p> <p>※他チームの試合の中から空間を作り出す連携した動きを学習カードに記録するよう促し、自チームのメンバーがどのように動けばよいか確認するよう促す。</p> <p>※各チーム、コーチ役（1～2名）の生徒は、自チームの動きを学習カードに記録し、空間を作り出す連携した動きを確認し、アドバイスを行う。</p> <p>・全員で協力して片付けをするよう促す。</p> <p>・問いかけにより、本時の学習内容が身に付いたかをチームで確認する。</p> <p>・健康状態の確認をする。</p>	<p>【思・判】①</p> <p>観察</p> <p>【思・判】②</p> <p>学習カード 観察</p>



研究実施校：神奈川県立藤沢総合高等学校（全日制）
 実施日：平成28年10月28日（金）
 授業担当者：濱田 貴廣 教諭

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

ア 学習カードを利用したグループワークについて

今回の研究を進めるに当たり、協働的な学びを促す働きかけの工夫の一つとして「学習カード」が挙げられる。「学習カード」はハンドボールのコート図を記載したものであるが、コート図に選手の動きを記載し、他者にその図を提示しながら説明することで、視覚的に訴えることができ、誰が見ても理解しやすく、自チームでの動き方の理解を深化させ、考えて動き出しができるようになった。

イ 単元計画の工夫について

「状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する」という課題に対して、単元の前半で「基本的な技能の習得」を目的に、教員からの指導を中心とした授業展開を行うことにより、知識や技能が身に付いていない生徒に対し、短期間で効果的に基本的な技能や知識を身に付けることにより、単元の中盤から後半にかけて、グループワークを中心とした協働的な学びの場面を設定することができ、生徒同士互いに動きを分析し、アドバイスをし合う活動が活性化され、自分たちの動きを改めて分析することができた。この単元の組み立てが、主体的な個々の技能の向上やチームの動きの向上に繋がった。

また、グループワークの中で、自他のチームの動きを分析しやすくするために、数的に有利な状況を作り出す動きの獲得に努めた。単元の前半において「切り替えの早さ」「動き出しの必要性」を常に意識させるルールを工夫を行い、数的に有利な状況を生み出し、シュートシーンをできるだけ多くすることで、ハンドボールの特性であるスピード感やダイナミックさを体験しながら、アドバンスや話し合いに参加しやすく、全ての生徒が、主体的に授業へ参加できるように工夫した。単元の後半では、工夫されたルールではなく、ハンドボール既存のルールで試合を行ったが、事前に学習した数的に有利な状況が多く現れるため、速攻を仕掛け、同数ではボールを回しながら相手を崩していくなど、生徒がそれぞれのチームに合った戦術を主体的に考え、活動することができた。

【事例2】

(1) 単元の指導計画及び重点を置いた授業展開例

- ①科目名：体育 学年：第1学年
- ②単元名：球技「ゴール型」（ハンドボール）
- ③単元のねらい（身に付けさせたい力）：

- ア 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。
- イ 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。
- ウ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

④単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①自己の責任を果たそうとしている。 ②学習に主体的に取り組もうとしている。	①作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。 ②健康や安全を確保するために体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。	①味方が操作しやすいパスを送ったり、守備者が守りにくいタイミングでシュートを打つことができる。 ②ゴールとボールを結んだ直線上で守ることができる。	①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

⑤単元の指導計画

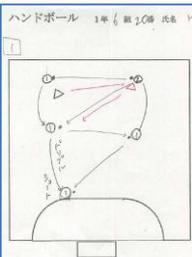
※ a:関心・意欲・態度 b:思考・判断 c:運動の技能 d:知識・理解

時	ねらい	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	○主体的に安全に配慮しながら取り組むことができるようにすること	○ハンドボールの学習の方法と安全について理解する。						
2	○味方が操作しやすいパスを送球できるようにすること	○味方が操作しやすいパスを理解し、送球する練習を行う。						
3	○守備者が守りにくいタイミングでのシュートができるようにすること	○攻撃の際、相手が守りにくいような優位な状況を作り出す。 ・2対1 ・3対2 ・簡易ゲーム						
4			◎				【関・意・態】①	観察 学習ノート
5								
6		○守備者が守りにくいタイミングでシュートできるよう練習を行う。						
7					◎		【知・理】①	学習ノート
8								
9	○今まで身に付けた技能を練習場面で発揮できるようにすること	○味方が操作しやすいパスを送る。 ○守りにくいタイミングでシュートをする。				◎	【技】①	観察

10	○ゴールとボールを結んだ直線上で守ること	○チーム練習 ○リーグ戦 ○分析 ○次回の目標・作戦を立てる。	◎			【関・意・態】②	観察	
11	○ルールを理解し、ゲームのスコアを付けること							
12	○ゴール前に広い空間を作り出す動きができるようにすること			◎			【思・判】①	学習ノート
13					◎		【技】②	観察
14	○自己の課題を設定すること							
15			◎			【思・判】②		
16	○自己の課題を意識しながらゲームをすること	○リーグ戦 ○ルールテスト			◎	【知・理】②	学習ノート	
10	○ゴールとボールを結んだ直線上で守ること	○チーム練習 ○リーグ戦 ○分析 ○次回の目標・作戦を立てる。	◎			【関・意・態】②	観察	
11	○ルールを理解し、ゲームのスコアを付けること							
12	○ゴール前に広い空間を作り出す動きができるようにすること			◎			【思・判】①	学習ノート
13					◎		【技】②	観察
14	○自己の課題を設定すること							
15			◎			【思・判】②		
16	○自己の課題を意識しながらゲームをすること	○リーグ戦 ○ルールテスト			◎	【知・理】②	学習ノート	

⑥授業実践例

学習活動	指導上の留意点	評価方法
1 出席確認・準備運動等 (1) 本時の学習内容の確認 (2) 準備運動・補強運動	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認と同時に健康状態を確認する。 ・本時の学習内容とねらいを説明する。 ・体の調子や状態に気付き、怪我の予防を意識して行うよう指示する。 	【関】 ① 観察
2 ペア、グループでの活動での活動 (1)パス ・短い距離から徐々に距離を伸ばす。 (2)ランニングパス ・二人組でゴールまでパスをしながら走り、シュートする。	<p><パス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取りやすいパスとは、どこに投げれば良いか考えるよう促す。 <p><ランニングパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・走りながら、味方が取りやすい送球をするにはどうしたらよいか、考えて送球するよう促す。 <p>【協働的な活動】</p> <p>※作戦盤（ミニホワイトボード）を使用し、自分の考えている動きのイメージを可視化し、グループメンバーにわかりやすく伝え、具体的な動きを共有するよう促す。</p> <p><グループ活動の様子></p> 	
3 グループでの活動（作戦会議） 2対1の攻撃優位な状況を想定し、グループごとに作戦を考える。 【協働的な活動】 ・各グループで作戦盤（ミニホワイトボード）を使用し、2対1の攻め方について、次の①②場面を想定し、作戦を考える。 ①ボール保持者にディフェンスがついている場合 ②オフェンス2人の間にディフェンスがいる場合		
4 グループ対抗2対1ゲーム 作戦会議で話し合った有効と思われる動きを実際に行う。 <ゲームのルール、進め方> ・ハーフコートで行う。 ・1班対2班、3班対4班、5班対6班で行う。 (1)ボール保持者にディフェンスがついている状況からの2対1 (2)オフェンス2人の間にディフェンスがいる状態からの2対1 【協働的な活動】 ・観察係りを決め、作戦どおりに動くことができているか観察、助言する。	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦どおりに守りにくいタイミングを作ることを意識するよう促す。 ・新しい作戦などを積極的に試すよう促す。 <p>【協働的な活動】</p> <p>※作戦会議で検討した有効と思われる動きができているか、グループで役割を決め、確認できるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で協力して片付けるように促す。 	
5 用具の片付け		

<p>6 振り返り (1)円陣でストレッチをしながら話し合う (2)振り返った内容を個人ワークシートに記入する。 【協働的な活動】 ・各グループで話し合った作戦が有効であったかどうか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦の改善点を具体的に考えるように促す。 ・ストレッチと振り返りが同時進行で行われるように促す。 <p>【協働的な活動】 ※作戦どおりに2対1ができていたか、どんなプレーが良かったか、改善する点は何かなど、具体的に話すよう促す。</p> 	<p>【関】 ① ワークシート 学習ノート</p>
<p>7 整列・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の確認をする。 	

研究実施校：神奈川県立鶴見高等学校（全日制）
 実施日：平成28年10月11日（火）
 授業担当者：小川 奈巳 教諭

(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

ア 作戦盤を利用したグループワークについて

今回の単元では「守備者が守りにくいタイミングでシュートを打つことができる」ために、ゲームの中で目的を持って動くことができるようグループワークや学習ノートの活用を行った。グループワークでは作戦盤を活用し、動きのイメージを可視化することで、より具体的に理解することができた。自分の持っている動きのイメージをグループで共有することにより、組織的に守備者が守りにくい状況を作り出すこと、そのために自分は何をするか目的を持って動くことにつながった。

また、作戦盤を使用したグループ活動を行うことにより、課題が可視化され、動きがイメージしやすくなり、対話が活発になり、自然と主体的活動につながった。さらに、互いにゲーム観察をする際には、動きが早い場合作戦を理解することができない生徒にとっても、作戦盤を使用してゆっくりと説明することで理解が深まり、意欲の向上にもつながった。

このように、グループ内で話し合いや教え合いなどの協働的な活動を行うことで、生徒の主体的な取組を促し、深い理解につながる。

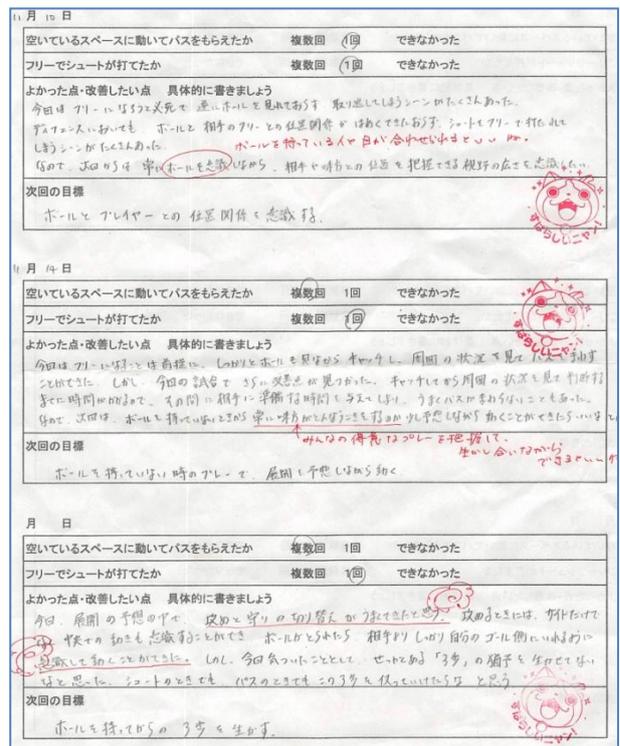
イ 学習ノートの活用について

学習者がねらいを達成するために、学習ノートの冒頭にその授業のねらいに対しての評価を行わせるようにした。その効果により、学習者が、その後の自由記述や次回の目標立ての際に、意識して考えることにつながった。

また、振り返りの内容は「できた」「できない」と簡単に終わることがないように、「どこがどのようによかったか」「できなかった原因と改善策は何か」等を考えさせ、思考力の向上を目指した。改善策を具体的に考えることは、技能向上への近道となり、授業を重ねるごとに目標もステップアップし、深い学びとなっている様子が学習ノートから読みとれた。

ウ 単元計画の工夫について

単元を通してゲーム中心の授業を計画した。その際に配慮した点として、1時間の授業の中で作戦を立て、ゲームで成功するかを試し、検証することを試みた。PDCAサイクルを1単元時間の中で行うことは、記憶が新しいため、自己の評価がしやすく、次回の課題も考えやすくなり、評価により達成感を味わうことができるため、意欲が向上し、主体的な活動にもつながった。目標を立ててある状況で次の授業を迎えることができると、内容について後戻りせずに、効率よく積み上げていくことができるという利点もある。



※ 実践事例について、今回の2事例は「入学年次」の授業展開である。「高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編」では、入学年次の態度の指導内容で「自主的に取り組めるようにする」と記載しているが、今回の単元では、研究のテーマにある「主体的に取り組めるようにする」という内容で授業に取り組んだ。

芸術（音楽）

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究テーマ

アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法を取り入れた音楽科の実践例

(2) 研究のねらい

音楽の授業では、表現活動において「主体的な学び」・「対話的な学び」はごく自然に行われていると考えられやすい。そこで更に、生徒がより活発な状態で、表現意図を持って音楽活動に取り組むためには、どのような学びの方法が考えられるのか、また、音楽における「深い学び」とはどういうことなのかという点について、授業の実践・分析を通して考察することをねらいとした。具体的には「A表現器楽」の領域において、楽器の音色や奏法の特徴を学び、楽曲を演奏することに留まらず、創作の要素を取り入れることで、生徒がより主体的に活動し、音楽を形づくっている要素に自然と気づき、グループ活動を通して、それらを意識しながら楽曲を作り上げることが可能な題材を設定した。

2 実践事例

【事例1】

(1) 題材の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：音楽Ⅱ（学年：2年）

②題材名：日本の伝統的なお囃子（祭囃子）を体験しよう！ A表現（2）器楽イウエ

③題材のねらい（身に付けさせたい力）

- ・ 音楽を形づくっている要素や楽器の奏法への理解を深め、グループでの活動を通して、自ら考え主体的に学習する力を身に付ける。
- ・ 和楽器の演奏を通して、日本の伝統音楽の特徴を感じ取り、自分のイメージを表現できるようにする。

④題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 和楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりに関心を持っている。 ② 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 和楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりや音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受している。 ② どのように音楽をつくり演奏するかについて表現意図を持っている。	和楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりや、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。

⑤題材の指導計画（7時間）

a：音楽への関心・意欲・態度

b：音楽表現の創意工夫

c：音楽表現の技能

時	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点			評価規準	評価方法
				a	b	c		
1	お囃子（祭囃子） 和楽器の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期に篠笛で演奏した「神田丸」や、唱歌について復習する。 ・ お囃子（祭囃子）の概要や様々な地域の祭囃子について学習する。 ・ 和太鼓やチャンキキ等の日本の打楽器に触れ、どのような音が出るのかを実際に体験する。 ・ 「神田丸」の旋律とともに一定のリズムで和太鼓等を演奏し、お囃子の合奏を行う。 	篠笛の独奏から、打楽器が加わることによる楽曲の雰囲気の変化に興味を持つ。	○			a①	観察

2	和楽器の奏法の理解	<ul style="list-style-type: none"> 3～5名程度のグループを編成し、「神田丸」を一部活用したオリジナルの祭囃子を創作するための楽器編成、役割分担、目的や手順の確認を行う。 和太鼓等の打楽器の基本的な奏法について学習する。 	日本の伝統音楽や文化に触れ、理解を深め、興味関心を持つ。	○			a①	観察
3	お囃子の表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 四拍子のリズムパターンを練習し、オリジナルの祭囃子で使用するリズムを決定する。 	リズムを知覚・感受し、自分なりの「神田丸」に合うリズムを追究する。		○		b①	観察 ワークシート
4		<ul style="list-style-type: none"> 篠笛の特殊奏法や、創作で使用する音階について学習する。 四拍子の旋律パターンを練習し、決定したリズムにのせる旋律を新たに作る。 	旋律を知覚・感受し、自分なりの「神田丸」に合うリズムを追究する。		○		b①	観察 ワークシート
5・6		<ul style="list-style-type: none"> 前時までに創作したリズムと旋律を組み合わせてグループごとに合奏練習を行う。 中間発表を行う。 曲に相応しい速度、音色、強弱等について話し合い、工夫した点についてワークシートにまとめ、演奏で表現する。 	基本的な奏法を基に発想を広げ、音楽表現を工夫し楽曲に親しみを持つ。	○	○		a② b②	観察 ワークシート
7	発表・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルの祭囃子をグループごとに発表する。 他のグループの演奏を聴き、表現の違いや共通点など感じ取ったことをワークシートに記入する。 	作品を発表し、お互いに評価し合う。		○	○	b② c	ワークシート 演奏

⑥授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	【評価の観点】 評価方法
<p>1. 四拍子のリズムパターンを練習し、オリジナルの祭囃子で使用するリズムを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大太鼓、小太鼓、鉦の基本となるリズムをパターン化して示すことで、その後の自発的な創意工夫を促す。（写真A：ワークシート） 最初は全員で基本のリズムパターンを練習して叩けるようにしてから、各グループの状況に応じて変化させていけるよう配慮する。 リズムパターンをすべて自分たちのオリジナルに変更させるのではなく、3種のうち一つのリズムを変更するだけでも雰囲気が大きく変わっていくことに注目させ、主体的な学習への意欲を失わせないように留意する。 	<p>【b①】 観察 ワークシート</p>
<p>2. 篠笛の特殊奏法や、創作で使用する音階について学習する。四拍子の旋律パターンを練習し、決定したリズムに乗せる旋律を新たに作る。（写真B）</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏に独自性を持たせるため一部創作を促す部分を設定しているが、日本音楽の伝承方法の一つである唱歌（しょうが）に五音音階を当てはめていくようにし、創作が苦手な生徒も気軽に取り組めるよう配慮する。（写真A：ワークシート） 神田丸の旋律のイメージが強く残っている生徒には、創作ではなく演奏方法で独自 	<p>【b①】 観察 ワークシート</p>

性を出すように助言する。

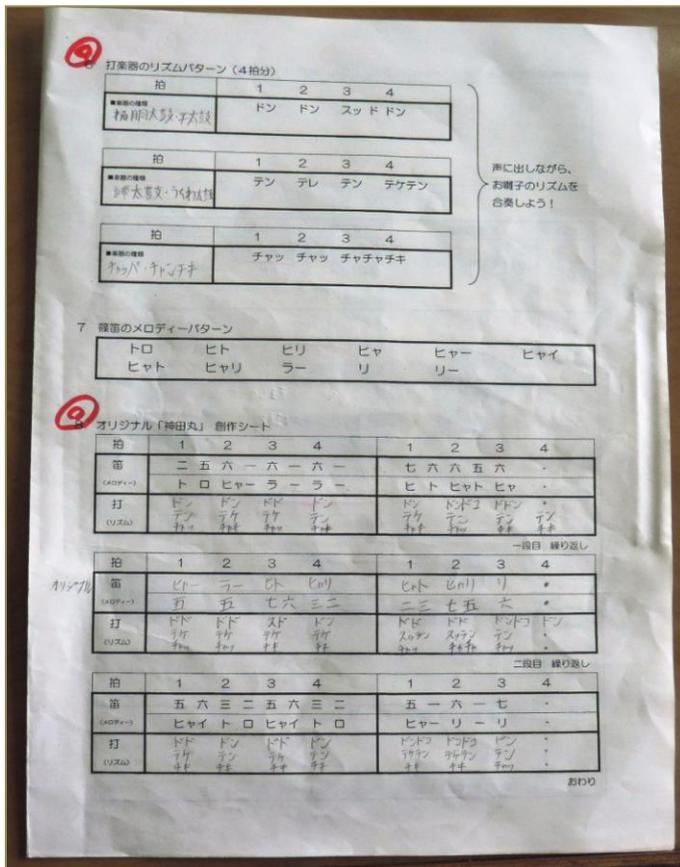
- ・篠笛がうまく発音できない生徒には、日本音楽特有の「かすれた音」も魅力の一つであることを伝え、自信を失わせないように配慮する。

3. 前時までに創作したリズムと旋律を組み合わせてグループごとに合奏練習を行う。曲に相応しい速度、音色、強弱等について話し合い、工夫した点についてワークシートにまとめ、演奏で表現する。(写真C)

- ・最初のうちは生徒だけでの合奏は難しいが、「どうやったら合わせることができるか」というアンサンブルの基本について発問し、長期的に観察しながら助言していくことで、主体的及び自発的な演奏表現を促す。
- ・ある程度完成してきたところで中間発表を行う。その際、感じ取ったことを付せんに書かせて情報交換シートにまとめさせることで、今後改善すべき点を明確にしていく。(写真D)

【a②・b②】
観察
ワークシート

(写真A：ワークシート)



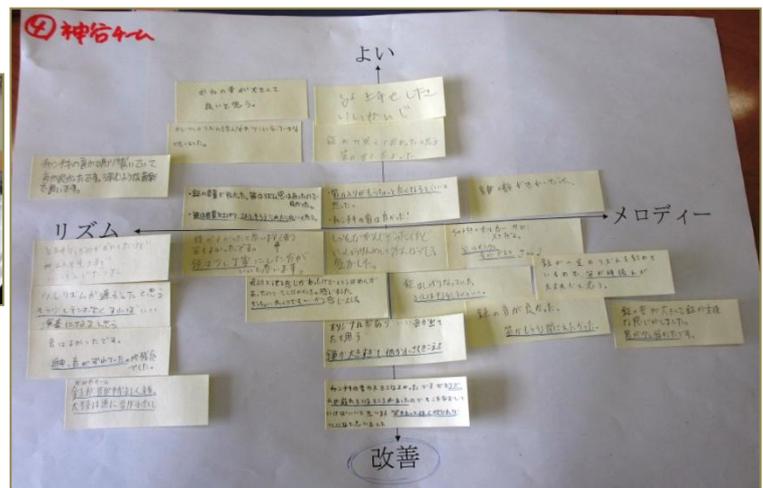
(写真B：篠笛の学習風景)



(写真C：グループごとの合奏練習)



(写真D：情報交換シート)



音楽Ⅱ



日本の伝統的な
お囃子（祭囃子）を体験しよう！



2年 組 番：氏名

- お囃子（祭囃子）とは
日本の お祭り で演奏される音楽の一つで、それぞれの地域ごとに発展してきました。それらの多くは豊耕の豊作祈願や感謝など、神 を褒めたためるための音楽であり、「はやす」「はやしたてる」という言葉の語源になったとも言われています。通常は山車や屋台の上で演奏され、祭りを にぎやか で、活気 のあるものに する役割 を担ってきました。
使用する楽器は主に 笛、和太鼓、鉦 の3種類ですが、弦楽器や掛け声が入るものもあります。楽器編成も様々なパターンがありますが、1学期に演奏した「神田丸」のような「江戸のお囃子」の場合は、5人1組（笛1、大太鼓1、小太鼓2）で演奏するものが一般的です。
- 日本の伝統的な打楽器に触れてみよう！
音を出してみた楽器にチェック！

<input type="checkbox"/> 桶胴太鼓	<input type="checkbox"/> うちわ太鼓	<input type="checkbox"/> 平太鼓	<input type="checkbox"/> 締太鼓
<input type="checkbox"/> 手びら鉦（チャッパ）	<input type="checkbox"/> 当たり鉦（チャンチキ）	<input type="checkbox"/> 拍子木	

実際に楽器に触れてみて「印象に残ったこと」は？（音色、特徴 など）
- 江戸の祭囃子「神田丸」を合奏してみよう！
 - ・篠 笛…1学期に学習した「神田丸」を演奏する。
 - ・打楽器…大太鼓、小太鼓、鉦に分かれて演奏する。（*ワークシート6のリズム）

太鼓や鉦など日本の打楽器を加えることで、「曲の雰囲気」はどのように変わった？
- オリジナルの祭囃子づくりの目的 及び 注意事項
 - ★今回の学習は、日本の伝統的な音楽文化に親しみ、理解を深める こと を目的とする。
 - ・「神田丸」の一部（主に2曲目）を創作することで、オリジナル「神田丸」の完成を目指す。
 - ・創作のイメージやテーマは、各グループで話し合ってから事前に決める。
 - ・3～5名のグループ学習とし、それぞれ担当楽器を決めて取り組む。
 - ・打楽器のリズムや篠笛の旋律は、いくつかのパターンから選んでも構わない。
 - ・使用する音は、原則として 二三五六七 とする。これを【 五音階 】という。
 - ・創作や練習など、すべてを計3～4時間仕上げ、その後、発表（演技試験）を行う。

5 こんなお囃子にしたい！ 創作のテーマやイメージをグループで話し合っ決めてみよう！

6 打楽器のリズムパターン（4拍分）

拍	1	2	3	4
■楽器の種類	ドン	ドン	スツ	ドン

拍	1	2	3	4
■楽器の種類	テン	テシ	テン	テケテン

拍	1	2	3	4
■楽器の種類	チャツ	チャツ	チャツ	チャツチャキ

声に出しながら、
お雛子のリズムを
合奏しよう！

7 篠笛のメロディーパターン

トロ	ヒト	ヒリ	ヒヤ	ヒャー	ヒヤイ
ヒヤト	ヒヤリ	ラー	リ	リー	

8 オリジナル「神田丸」創作シート

拍	1	2	3	4	1	2	3	4								
笛 (<DF(+)>	ニ	五	六	一	六	一	七	六	五	六	・					
打 (リズム)	ト	ロ	ヒ	ャー	ラ	ー	ラ	ー	ヒ	ト	ヒ	ャ	ト	ヒ	ャ	・

拍	1	2	3	4	1	2	3	4
笛 (<DF(+)>								
打 (リズム)								

一段目 繰り返し

拍	1	2	3	4	1	2	3	4				
笛 (<DF(+)>	五	六	三	二	五	六	三	七	・			
打 (リズム)	ヒ	ャ	イ	ト	ロ	ヒ	ャ	ー	リ	ー	リ	・

二段目 繰り返し

おわり

9 創作や演奏で工夫したこと（*音のつなぎ方、リズム、速度、音色、強弱、全員での合わせ方など）

年月日	
-----	--

10 学習の記録

月日	学習の内容	授業で感じたこと、気付いたこと、上達したこと
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
/	他のグループの演奏を聴いて気付いたこと	★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
発表	今回の「お雛子」の学習全体を振り返って	
	★学習の総合的な達成度	5 4 3 2 1

【事例2】

(1) 題材の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：音楽I（年次：1年次）

②題材名：リコーダーアンサンブル A表現（2）器楽イウエ
「風呼ぶ丘」橋本龍雄作曲 「出逢いの時に」北村俊彦作曲・編曲

③題材のねらい（身に付けさせたい力）

- ・リコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する能力を高める。
- ・音楽を形づくっている要素を知覚し、グループでの活動を通して、自ら考え、主体的に学習する力を身に付けさせる。

④題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 楽曲に関心をもち、イメージを持って演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ② アンサンブルの活動を通して、リコーダーの音色や奏法、様々な表現形態等の特徴に関心をもち、意欲を持って取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受している。 ② テクスチャに着目し、音と音との関わりを知覚し、生み出される表現の特質を感受し、どのように演奏するか表現意図を持っている。 ③ 楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するか思いや意図を持っている。	① 曲想を感じ取り、イメージを持って音楽表現をするために必要な読譜の仕方を身に付け、創造的に表している。 ② 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要なリコーダーの技能を身に付け、表現豊かに創造的に表している。

⑤ 材の指導計画（8時間）

a：音楽への関心・意欲・態度 b：音楽表現の創意工夫 c：音楽表現の技能

時	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点			評価規準	評価方法
				a	b	c		
1	パート練習	・グループごとに四つのパートの担当者を決める。 ・各グループから同じパート同士で集まり一斉に音取りをする。 ・振り返りシートに記入する。	楽曲、自分の受け持つパートに関心をもち、丁寧に譜読みをする。	○			a①	観察
2		・旋律の音取り、楽曲全体の流れを確認する。 ・振り返りシートに記入する。	旋律・リズムを中心に知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受し、担当パートの把握及び曲の流れを理解する。		○	○	b① c①	観察
3	グループ練習	・前半部分を合わせ、難しい箇所を練習する。 ・2パートで合わせる等、部分的に練習する。 ・振り返りシートに記入する。	アンサンブルへの意欲を高め、各パートの役割に気付く。	○			a①	観察
4		・後半部を合わせ、難しい箇所を練習する。 ・全体を通して合わせ、楽曲の雰囲気を把握する。 ・振り返りシートに記入する。	主旋律を担当する声部とそれ以外の声部による音と音との関わりを知覚する。		○		b②	観察

5	グループ練習	<ul style="list-style-type: none"> グループでテンポ、表現の工夫等を話し合いながら、練習し、楽曲を仕上げていく。 振り返りシートに記入する。 	各声部が生み出す表現の特質を感受し、どのように演奏するか思いや意図を持つ。		○		b②	観察
6	グループ練習	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで演奏を録画し、視聴する中で表現の工夫などを話し合い、練習する。 振り返りシートに記入する。 	音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりの理解を深化させ、音楽表現を工夫する。	○	○		a② b③	観察 ワークシート
7	リハーサル	<ul style="list-style-type: none"> 次回の発表に向け、本番の演奏通りの流れを確認する。 振り返りシートに記入する。 	アンサンブルの音楽表現を追究し、どのように演奏するか思いや意図を持つ。	○	○		a② b③	観察 ワークシート
8	発表会	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表し、お互いの練習の成果を聴き合う。 振り返りシートに記入する。 	グループごとの発表を聴き、それぞれの持ち味、演奏のよさを感じ取る。		○	○	b③ c②	演奏 ワークシート

⑥授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	【評価の観点】 評価方法
<p>1. 各グループから同じパートで集まり、練習する時間を通し、自分のパートをある程度まで仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの技能レベルを把握させ、教え合う雰囲気を作る。 パート練習の時間を十分に確保することで、自分の役割を自覚し、練習に意欲的に取り組めるよう助言する。 	【a①】 観察
<p>2. グループ練習では、他のパートをそれぞれ聴き合いながら表現を工夫し、楽曲を作り上げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のパートについて把握できているため、他のパートとのハーモニー等に意識が向かうよう助言する。 つまずいても気にせず演奏を続ける等、全体の雰囲気を把握することが重要であることを伝え、苦手な生徒も気軽に取り組めるよう配慮する。 	【a①・b②】 観察
<p>3. 自分たちの演奏を録画し、視聴することで更なる音楽表現の工夫に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループで、タブレットを自由に活用させ、自分たちの演奏を客観的に確認する機会を設け、主体的な演奏表現を促す。 グループの持ち味を生かした演奏に向け、どこにポイントを絞り演奏するか、今後改善すべき点を明確にしていく。 	【a②・b③】 観察 ワークシート

研究実施校：横須賀市立横須賀総合高等学校（全日制総合学科）
授業担当者：小野寺 昌枝総括教諭

【事例3】

(1) 題材の指導計画及び重点を置いた授業展開例

①科目名：音楽Ⅰ（学年：1年）

②題材名：日本の伝統的な楽器（箏）の音色を味わおう A表現（2）器楽イウエ

③題材のねらい（身に付けさせたい力）

- ・箏の基本的な奏法への理解を深め、主体的に学習する力を身に付ける。
- ・箏の演奏を通して、日本の伝統音楽の特徴を感じ取り、自分のイメージを表現できるようにする。

④題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
箏の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	① 箏の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりや音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じ受している。 ② どのように音楽を作り演奏するかについて表現意図を持っている。	楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりや、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。

④ 題材の指導計画（10時間）

a：音楽への関心・意欲・態度 b：音楽表現の創意工夫 c：音楽表現の技能

時	学習内容	学習活動	ねらい	評価の観点			評価規準	評価方法
				a	b	c		
1・2	箏についての理解	<ul style="list-style-type: none"> ・題材全体を理解する。 ・箏について演奏に必要な基本的な事項や奏法を学ぶ。 ・「名前リレー」により、基本的な音の出し方を学習する。 ・「さくらさくら」の練習をする。 	題材の見通しを持つ。 押し手の奏法等、箏の特徴に興味を持つ。	○			a	観察
3・4	箏の奏法の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・名前リレーに伴奏を付ける。 ・「さくらさくら」を復習する。 ・「セリレー」を通して、ペアで基本的な音の出し方を確認する。 ・代表的な奏法について学習する。 	基本奏法を身に付け、箏の音色のイメージを広げる。			○	c	演奏
5・6・7・8	広がる箏の（演奏の）可能性を	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくら2人用」を譜読みし、ペアで奏法を開発する。その後、開発した奏法について発表し合う。 ・「オリジナルのさくら」の活動を理解し、ペアで創作（編曲）し練習する。 ・中間発表の中で、他のペアのアイディアを得る。 	「さくら」のイメージを言語化し、音で共感する。基本的な奏法を基に発想を広げ、音楽表現を工夫する。		○		b① b②	観察 ワークシート 楽譜シート
9・10	振り返り発表	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルを行い、発表に向けて、最終確認をする。 ・発表を聴きながらペアで1つの付せんによかった点を記入し、終了後、全ペアからもらった付せんを読み、振り返りシートをまとめる。 	演奏を聴き合い、編曲された「さくら」それぞれの伝統的な音色や雰囲気味わう。	○	○	○	a b② c	演奏 ワークシート

⑥授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	【評価の観点】 評価方法
<p>1. 「七リレー」「名前リレー」を通して、ペアで基本的な音の出し方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が弾き方を正確に把握できるようにワークシートの「3 基本的な弾き方」の内容の理解を促す。 ビデオカメラとテレビを設置し、教師の手元が見えるようにする。 ペアワークによりお互いの音を聴き合うことや見合うことで、自分の弾き方をよりよくさせる効果があることを伝え、主体的かつ積極的な取組を促す。 一人ひとりにゆっくり丁寧に弾かせ、よく観察し適切な助言を行う。 <p>2. 「さくら」の編曲の活動を理解し、ペアで自由に奏法を工夫して「オリジナルのさくら」を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 編曲の方法を提示するタイミングや生徒の実態に合った内容を伝え、的確な助言を行う。 中間発表では、お互いのアイディアを共有する場とし、更に発想を広げていけるよう、助言する。 二人で一面の箏を使用して、「合わせること」に重点を置いた発表会を行う。 発表会では、感じ取ったことを付せんに書かせ、シートにまとめ、発表者に返すことで、今後の授業における演奏機会に役立てるよう助言する。 	<p>【c】 演奏</p> <p>【b①・②】 ワークシート 演奏 楽譜シート</p>

【箏譜面】



		II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	
③	八 3			は		あ		み		さ		①	巾	
⑧	巾			な		さ		わ		く		②	斗	
⑦	為											③	十	
⑥	斗			ざ		ひ		た		ら		④	九	
◎	◎			か		に		す				⑤	◎	
③	③ 3・1	五 3・1				り		に		か		さ	①	斗
◎	◎							お		ぎ		く	◎	十
○	○							う		り		ら	○	九
○	○												②	七
③	③												③	◎
③	③												④	◎
③	③												⑤	◎
③	③												⑥	◎
③	③												⑦	◎
③	③												⑧	◎
③	③												⑨	◎
③	③												⑩	◎
③	③												⑪	◎
③	③												⑫	◎
③	③												⑬	◎
③	③												⑭	◎
③	③												⑮	◎
③	③												⑯	◎
③	③												⑰	◎
③	③												⑱	◎
③	③												⑲	◎
③	③												⑳	◎
③	③												㉑	◎
③	③												㉒	◎
③	③												㉓	◎
③	③												㉔	◎
③	③												㉕	◎
③	③												㉖	◎
③	③												㉗	◎
③	③												㉘	◎
③	③												㉙	◎
③	③												㉚	◎
③	③												㉛	◎
③	③												㉜	◎
③	③												㉝	◎
③	③												㉞	◎
③	③												㉟	◎
③	③												㊱	◎
③	③												㊲	◎
③	③												㊳	◎
③	③												㊴	◎
③	③												㊵	◎
③	③												㊶	◎
③	③												㊷	◎
③	③												㊸	◎
③	③												㊹	◎
③	③												㊺	◎
③	③												㊻	◎
③	③												㊼	◎
③	③												㊽	◎
③	③												㊾	◎
③	③												㊿	◎

「さくら さくら」アレンジについて

- ワークシート7②こんな「さくら さくら」にした
のイメージを音で表現できるような楽譜を作る。
- 歌詞のついている部分をアレンジする。
- 弾いたときに、「さくら さくら」に聴こえる
ようにアレンジする。
- ワークシート5で学習した奏法やワークシート6で
開発した奏法から2つ以上を選びアレンジする。
- ペアで発表できるようにパートを決め、練習する。

一面の箏を二人で弾くための「さくらさくら」

年 組 番 氏 名



5 奏法



弱押し	左手の人差し指、中指（親指）で柱の左側の弦を押しして半音高める。	
強押し	左手の人差し指、中指（親指）で柱の左側の弦を押しして一音高める。	
後押し	弦を弾いた後、左手でその弦を押しして余韻を高める。	
突き色	弦を弾いた直後にその弦を左手で音鋭く押しして余韻を高め、すぐ放してもとに戻す。	
コリ色	弦を弾いた後「押し」と「放し」を続けて行う。	
合わせ爪	中指と親指で2本の弦を同時に弾く。	
掻き爪	隣り合った2本の弦を中指で手前に軽く掻くように弾く。	
割り爪	人差し指、中指の順に隣り合った2本の弦を「掻き爪」の要領で連続して弾く。親指は最低音の1オクターブ上か一般的。	
引き連	中指で「一と二」を同時に弾き「三〜斗」まではやさしくなでるように外（左）側にまーるく弾く。最後は「為と巾」を同時に力強く弾く。	
流し爪	親指で「巾と為」を同時に弾き、「斗〜三」まではやさしくなでるように外（左）側にまーるく弾く。最後は「二と一」を同時に力強く弾く。	



日本の伝統的な楽器（箏）の音色を味わおう！

年 組 番（箏 番）：氏名

1 箏に触れてみよう！

楽器に触れてみて“気がついたこと” “印象に残ったこと” は？（音色、特徴、材質 など）



2 歴史

奈良時代の初期に_____から伝えられ、_____の合奏用に使われていた。「こと」とは元々_____楽器を総称する言葉で、平安時代は「そのこと→_____」「きんのこと→_____」「ひわのこと→_____琵琶」と使分けられていた。17C室町時代に_____が、筑紫流箏曲を学び、さらに発展させ_____流箏曲を創始した。江戸時代になると、生田棟校が_____流、山田棟校が_____流をそれぞれ創始し、その流れは現在にも伝えられている。

3 基本的な弾き方

* 毎回、自分とペアの人をチャェックして正しい弾き方を身に付けよう。

	チェック項目	✓
1	姿勢 イスの座面半分くらいに座り、姿勢をまっすぐに正す。箏に对しまっすぐ座る。	
2	右手 親指、人差し指、中指に爪をはめる。	
3	右手 親指で弾く時、薬指は龍角の上をスライドさせる。（薬指で支えて弾く）	
4	右手 爪は弦に対して直角にあてる。	
5	右手 弾いたら次の弦で止める。（ギターのアポヤンドと同様）	
6	左手 右手で弾いている間、左手は柱の左側の弦の上に置く（右手で弾いている辺り）	

4 箏の音で名前リレー

* 隣の人の名前を「セとハの音を使って」、「どんなリズムで」、「どんなリズムで」呼びかけを考え、事例に記入しよう。
* 作った楽譜を演奏してみよう。（ドローンにのせて、「リレー型式」で...）

答	ハ	七	ハ	〇
師	ハ	七	ハ	〇

→

答	ハ	七	ハ	〇
師	ハ	七	ハ	〇

→

師	七	ハ	ハ	〇
答	ハ	七	ハ	〇

例 松原さん

師	七	ハ	七	ハ	〇
答	ハ	七	ハ	〇	

6 争の可能性を探る

石五?	楽法名	動作の説明	表記
()	手		—
()	手		—
()	手		—
()	手		—

*ヘアで、オリジナルの楽法を開発しよう。 *楽法名、動作の説明、表記を考えて書いてみよう。

7 オリジナルの「さくら さくら」

① 目的 及び 注意事項

今回の学習は、日本の伝統的な音楽文化に親しみ、争の音色を味わうことを目的とする。

- ・「さくらさくら」の一部を創作することで、オリジナル「さくらさくら」の完成を目指す。
- ・創作のイメージやテーマは、ヘアで話し合ってから決める。
- ・学習した楽法を組み合わせて、開発したオリジナルの楽法をいれたりして作る。
- ・創作や練習など、すべてを計2時間で仕上げる。その後、発表を行う

② こんな「さくらさくら」にしたい!

創作のテーマやイメージをヘアで話し合ってから決めよう!

③ オリジナル「さくらさくら」を記入する。楽譜シートへ

④ 創作や演奏で工夫したこと (*音のつなぎ方、リズム、速度、音色、強弱、全員での合わせ方 など)

8 調弦

平調子

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

雲井調子 (平調子より三と八を半音下げ、四と九を一音上げ)

乃木調子 (平調子より四と九、六と斗を半音上げ)

楽調子 (平調子より四と九を一音上げ、六と斗を半音上げ)

9 学習の記録

月日	学習の内容	授業で感じたこと、気付いたこと、上達したこと
/		
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
/		★達成度 5 4 3 2 1
	他のグループの演奏を聴いて気付いたこと	
	発表	
	今回の「争」の学習全体を振り返って	
	★学習の総合的な達成度	5 4 3 2 1

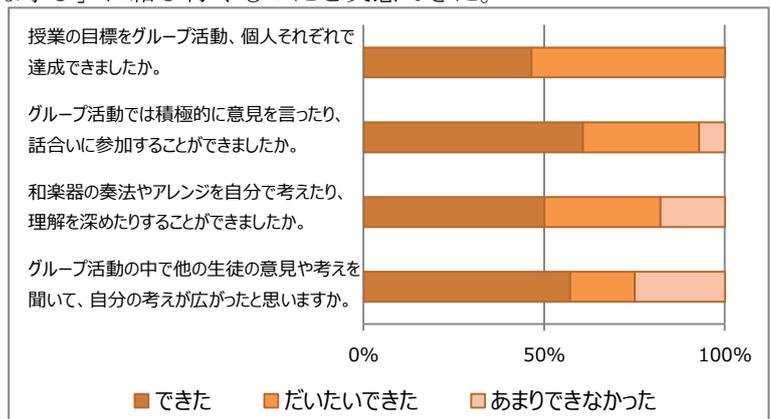
3 アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の展開に当たり、生徒に、より活発に表現意図を持って音楽活動に取り組み、「主体的な学び」・「対話的な学び」の実現に向けた授業の実践として、【事例1～3】について研究を重ねてきた。

「主体的な学び」を促す手立てとして、お囃子や箏、リコーダーアンサンブルなど、表現活動の一部にアレンジや創作の要素を持たせる課題設定を行った。実施に際しては、旋律・リズム・速度を中心に、そこに生徒がパート分担や奏法の工夫をすることで、気付いたこと等を音楽を形づくっている要素に自然と結び付け、それらを自由に組み合わせて設定できるような仕組みを整えた。生徒の音楽経験や素養は様々で、すべての生徒が主体的に取り組むことができる内容は多くない。その中で、この題材では、旋律をすべて作曲したグループもいれば、リズムのみをアレンジするグループもいるなど、生徒それぞれのレベルでアレンジの内容を選ぶことができ、どの生徒も非常に生き生きとした表情で取り組んでいた。アレンジが進みやすかった要因としては、篠笛と箏の授業においては、日本特有の音階を使い、音が限定されたことが考えられる。また、リズムのアレンジや奏法の追加など、音符以外のもので創作が可能であったことも大きい。さらに、お囃子の授業においては、1年次より継続して取り組んできた篠笛に打楽器のリズムが加わったことが、生徒の主体的な取組につながり、大きな成長が見られた。

「対話的な学び」を促す効果的な手立てとして、アンサンブル活動が挙げられる。そこではさらに、中間発表の場を設け、相互に発表し合い、付せんを用いてコメントを交換し、また、自身の演奏を録画し、客観的に鑑賞する活動を行った。付せんの貼られた模造紙を食い入るように見ながら、話し合っている姿が印象的であった。見付かった問題点や違和感を解決するなど、演奏の完成に向けて試行錯誤する過程の中で、人と合わせるためには、各楽器のバランスやテンポ設定が重要だと気づき、パート分担についても言及するグループがあった。音楽の授業において、演奏をよりよいものにしていこうとする際の「PDCAサイクル」にも似たこのような過程が、まさに「対話的な学び」に結び付くものだと実感できた。

そして、【事例1】で生徒対象に行ったアンケート結果においても、ほとんどの生徒が、「授業の目標をグループ活動や個人の取組の中で達成できた」、「グループ内で積極的に意見を言ったり、話し合いに参加することができた」と回答していることは、「主体的な学び」・「対話的な学び」につながる結果ではないかと推測できる。しかし、「奏法やアレンジを自分で考えたり理解を深めることができた」、「グループの中で他の意見や考えを参考にして、自分の考えを広げることができた」という実感を持つことができなかった生徒が一定数存在する。これは、生徒も指導する側もすぐに実感できるものではなく、次の題材につながるものであったり、継続的に少しずつ身に付いていくものであったりするからである。



【事例1】生徒対象アンケート

つまり、音楽における「深い学び」とはこのような、生徒自身が授業を通じて学んだことを「一般化」（他の活動へ応用）することが考えられるのではないだろうか。「アンサンブルの活動において、人と合わせる技能を獲得したことで、この『合わせること』（合わせるためにすべきこと）を他の活動の中で発揮させていきたい」、「お囃子を学んだことによって、郷土芸能に興味を持ち、将来地域のお祭りの中で演奏してみよう」という気持ちになることが「深い学び」につながっていくことである。

最後に、アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業を展開するためには、生徒の発達段階に合わせた、適切な条件設定が必要である。例えば、指導する側が想定した音楽を形づくっている要素を、生徒に示すタイミングは、あえて先に伝えない方が、生徒の自由な発想を生む場合もある。さらに、活動中の生徒に目を配り、何気ない生徒の発言や行動を拾い上げ、更なる学びにつながる助言を与えることも重要である。授業者が持つべき、生徒を主体とした授業観が何より大切であり、その積み重ねが生徒の感性を高め、豊かな情操を養うことになると改めて感じた。

芸術(美術・工芸)

1 研究のテーマとねらい

(1) 研究テーマ

「美術教育における『深い学び』とは」

(2) 研究のねらい

昨年度の芸術(美術・工芸)部門における研究テーマ「『発想や構想の能力』を意識した美術的アクティブ・ラーニングの研究」及び今年度の全体における研究主題、また、中央教育審議会教育課程企画特別部会による論点整理後の議論を踏まえ、アクティブ・ラーニングの視点のうち、特に「深い学び」について着目した。各委員が美術教育における「深い学び」の視点を具体的に持ち、実践研究(学習過程の質的改善等)に取り組むことを目的とした。

2 実践事例【事例1】

(1) 題材の指導計画及び重点を置いた授業展開例

ア 科目名：美術 I (年次：1年次)

イ 題材名：「オリンピックエンブレムをつくろう」

ウ 題材のねらい：現実の社会の中で起きている出来事をモチーフにすることで課題にリアリティを持たせつつ、社会の動向と美術・デザインの関わりを主体的に関連付けて考えることができるようにする。

エ 身に付けさせたい力：目的や条件を考えて創意工夫し主題を生成する力。美術と社会のつながりを理解し考察する力。他者を理解し認め合う力。

オ 題材の評価規準

a 美術への関心・意欲・態度	b 発想や構想の能力	c 創造的な技能	d 鑑賞の能力
現代社会の動向と美術・デザインの関わりに関心を持ち、目的や条件を考えて創意工夫しながら意欲的に主題を生成しようとしている。	伝達性や機能性などを考え、色彩や形態を選択し、分かりやすく美しい表現の構想を練っている。	目的や計画を基に表現方法を工夫して主題を追求し、効果的に表現している。	他の生徒の作品の良さ、表現の工夫などを感じ取り、理解している。自分なりの見方や感じ方、考えなどを持っている。

カ 題材の指導計画 a:美術への関心・意欲・態度 b:発想や構想の能力 c:創造的な技能 d:鑑賞の能力

時間 45分	学習 内容	評価の観点				評価規準	評価 方法
		a	b	c	d		
① ②	◎学習活動 ●学習のねらい(指導上の留意点を含む) ◎DVD鑑賞 「NHKプロフェッショナル仕事の流儀 - アートディレクター 佐藤可士和 -」 ●DVD鑑賞を通してデザイナーの仕事や、 美術と社会とのつながりを知る。 ◎感想文記入 ●鑑賞で得た知識や考えたことを客観的に 整理し、今後の制作の礎とする。	○			○	a 関心・意欲を持って映像の鑑賞 に取り組んでいる。 d デザイナーの仕事や美術と社会の つながりを理解し、自分なりの 考えを文章で表現している。	活動の 様子 感想文
③ ④	◎アイデアスケッチ ●プリント制作に向けてクロッキー帳にアイ デアを出す。この段階では質より量を意 識しながら進める。	○	○			a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を生成し ようとしている。 b 伝達性や機能性などを考え、色 彩や形態を選択し、分かりやすく 美しい表現の構想を練っている。	活動の 様子 プリント
⑤ ⑥	◎アイデアをプリントへ ●アイデアを三つに絞ってアレンジを加え ながらプリントにまとめる。自分が何を表 現したいのかを考え、それに適した表現 方法を客観的に考える。	○	○			a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を追求し ようとしている。 b いくつかのアイデアの中から適 切な選択、アレンジをしながらプリ ントをまとめている。	活動の 様子 プリント

⑦ ⑧ 本時	鑑賞	◎意見交換 ●クラスメイトからの客観的な意見を参考に して、自分の作品を違った角度から再検 討しつつ、アイデアを一つにまとめ最終 案を決定していく。	○		○	a 他者の意見に関心を持ち、意欲 的に主題を追求しようとしている。 d 他の生徒の作品の良さ、表現 の工夫などを感じ取り、理解して いる。	活動の 様子 プリント
⑨ ⑩	制作	◎アイデアを一つに ●クラスメイトの意見を参考にしながら最終 案を決定し、一つにまとめていく。意見を 取り入れてもよいし取り入れなくてもよい。 また複数の案を混ぜ合わせても、新しい 案を用いてもよい。よりよい表現を探りなが ら進める。	○		○	a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を表現 しようとしている。 c 目的や計画を基に表現方法を 工夫して主題を追求し、効果的 に表現している。	活動の 様子 作品
⑪ ⑫	制作	◎下描き ●最終案を決定し画用紙に下描きをする。 紙の余白とのバランスも意識しながら、美 しく効果的な大きさを探りながら進める。	○		○	a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を表現 しようとしている。 c 目的や計画を基に表現方法を 工夫して主題を追求し、効果的 に表現している。	活動の 様子 作品
⑬ ⑭	制作	◎下描きから着彩へ ●効果的な色のイメージを意識しながら丁 寧に作業を進める。	○		○	a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を表現 しようとしている。 c 目的や計画を基に表現方法を 工夫して主題を追求し、効果的 に表現している。	活動の 様子 作品
⑮ ⑯	制作	◎仕上げへ ●最終的な仕上がりをしっかりとイメージし ながら完成を目ざす。	○		○	a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を表現 しようとしている。 c 目的や計画を基に表現方法を 工夫して主題を追求し、効果的 に表現している。	活動の 様子 作品
⑰ ⑱	完成 ・ 提出	◎完成、提出 ●細部を微調整しながら完成させ提出す る。未完成者は最終提出期日までに完成 させて必ず提出する。	○		○	a 目的や条件を考えて創意工夫 しながら、意欲的に主題を表現 しようとしている。 c 目的や計画を基に表現方法を 工夫して主題を追求し、効果的 に表現している。	活動の 様子 作品
⑲ ⑳	鑑賞	◎鑑賞 ●他者との意見の相違を認め合い、理解し ようとする力を育むとともに、自他の作品を 多角的な視点で考えながら、社会の動向 と美術の関わりについても深く考える。	○		○	a 他者の意見に関心を持ち、意欲 的に主題を追求しようとしている。 d 他の生徒の作品の良さ、表現 の工夫などを感じ取り、理解して いる。	活動の 様子 プリント

キ 授業実践例

<本時のねらい>

生徒同士の意見交換を通じて他者とは自分とは異なる感じ方・考え方があることに気付き、他者との関係性や、社会とのつながりについて考えながら、自己の新たな表現を目ざす。

<本時の指導内容>

生徒間でコメントを記入し合いながらプリントを完成させる。

<本時の指導と評価の計画>

時間	学習 内容	◎学習活動 ●学習のねらい	評価の観点				評価規準	評価 方法
			a	b	c	d		
⑦ 5 分	5分間 クロッ キー	◎5分間クロッキー ●毎時冒頭に行い、毎時の作業の繰 り返しにより観察力、表現力を養 う。	○				a 感じたことや考えたことから、意 欲的に主題を生成しようとしてい る。 (作品については後日評価)	活動の 様子

時間	学習内容	◎学習活動 ●学習のねらい	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
10分	鑑賞	◎「アジアの美術工芸文化」の鑑賞 ●毎時冒頭に行い、各国の美術工芸文化を知り比較することによって美術表現の多様性やつながりを考える。さらには異文化理解へつなげる。	○			○	a 関心・意欲を持って映像の鑑賞に取り組んでいる。 d 地域、風土に合わせた表現の工夫などを感じ取り、各美術文化に対する自分なりの見方や感じ方、考えなどを持ち、理解している。	活動の様子 プリント
30分	鑑賞	◎意見交換 ●生徒間でコメントを記入し合いながらプリントを完成させる。他者の感じ方、考え方を知り、他者理解をしながらアイデアをひとつにまとめていく。	○			○	a 他者の意見に関心を持ち、意欲的に主題を追求しようとしている。 d 他の生徒の作品の良さ、表現の工夫などを感じ取り、理解している。	活動の様子 プリント



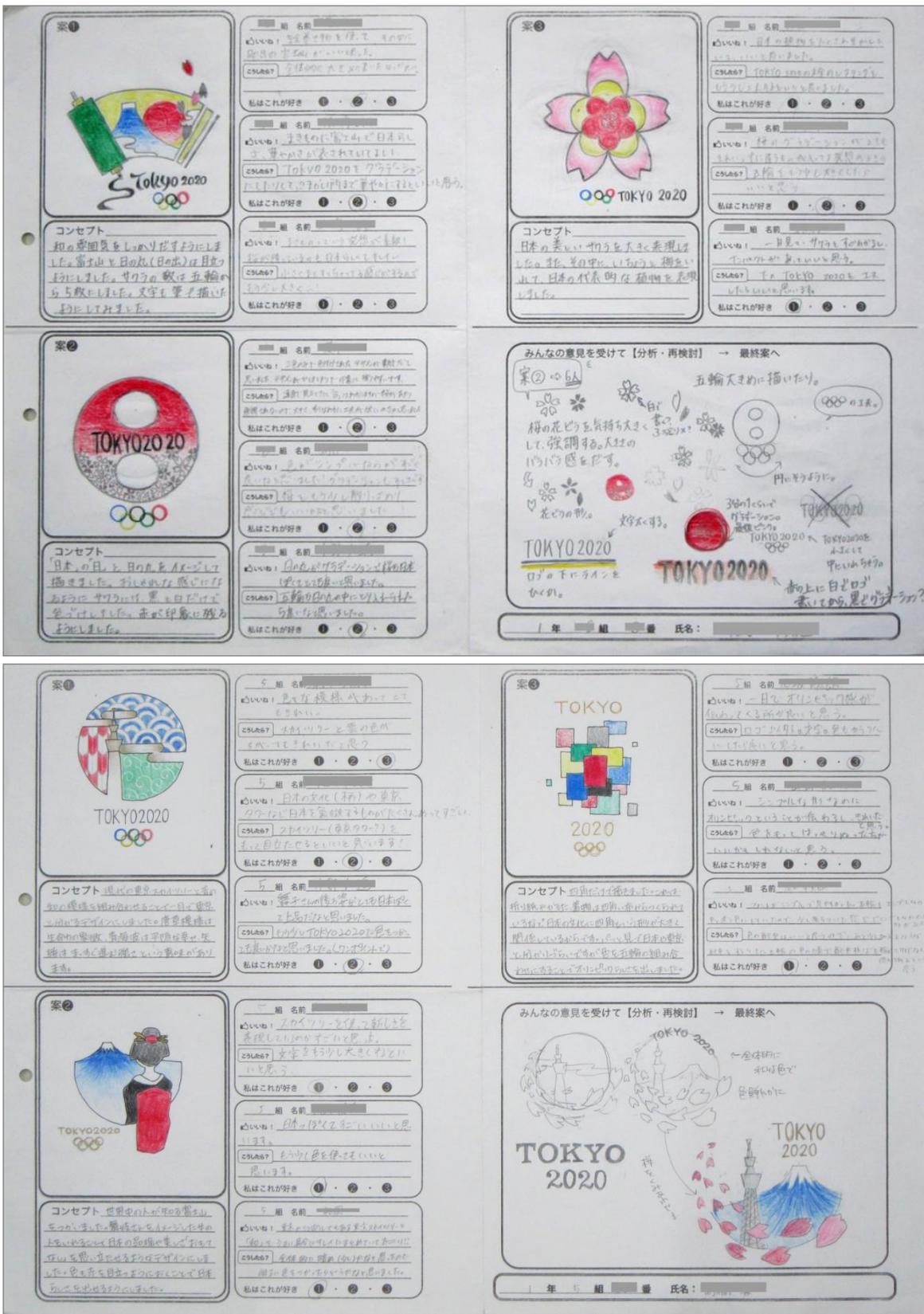
■ワークシートによる意見交換の場面

⑧	5分	導入	◎作業説明 ●後半の作業について説明を聞き、活動内容を理解する。	○			a 他者の意見に関心を持ち、意欲的に主題を追求しようとしている。	活動の様子
	30分	制作	◎アイデアの再検討 ●他者の感じ方、考え方を知り、他者との関係性や、社会とのつながりについて考えながら、アイデアをひとつにまとめ、自己の新たな表現を旨す。	○			a 目的や条件を考えて創意工夫しながら、意欲的に主題を表現しようとしている。	活動の様子 プリント
	5分	まとめ	◎本時のまとめ及び次時の説明 ●内容をしっかり理解する。	○			a 他者の意見に関心を持ち、意欲的に主題を追求しようとしている。	活動の様子
	5分	振り返り	◎プリント振り返り欄に記入する。 ●本日の内容を振り返りながら次時に向けての構成を考える。				○ d 本時の活動内容を理解して活動を振り返っている。	活動の様子 プリント

ク 事後考察：生徒の取組や振り返りを見ると、本題材のねらいは概ね達成できたように思う。今後も社会の流れを注視しつつ、美術は現代社会に対して何ができるのか、そしてそこで生きていく生徒たちに対して何ができるのか、そのために学校教育における美術教育の有効性を追求していきたい。

生徒感想 ・タイムリーな話でリアリティがあったので積極的に取り組めた。・実際にやってみてデザイナーの苦労を知ることができた。・毎時間新たな発見があり、楽しみながら一生懸命取り組めた。・アイデアを友達に見てもらうことで新たな発想が生まれた。・自分と他人でよいと思う部分が違うことがあることに気付いた。・社会の中の様々な場所で美術が役立っていることに気付いた。・社会に出てからも役立ちそうな物事の見え方・進め方を学べた。・自分の個性を残しつつも、他人の意見にも耳を向けて客観的に考え、よりよい自分になっていきたいと思った。

研究実施校：神奈川県立横浜栄高等学校（全日制）
実施日：平成28年10月27日（木）
授業担当者：猪又 隆洋教諭



(2) アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業の解説

- ア 「深い学び」に基づいた題材の設定：他者との関係性や社会とのつながり等、実感を伴った知識の習得や能動的な鑑賞等に取り組んだ。また、協働による学びの活動を取り入れた。
- イ 授業環境の整備：教室環境の整備・構造化、ICT機器の活用等、誰にでも分かりやすい授業環境の整備を心がけた。
- ウ ワークシートの工夫：生徒が能動的に取り組めるように、授業展開と連動したワークシートを作成し、双方向の言語活動や、主題の生成にとって補助的な教材になるよう工夫した。

3 その他の取組事例【事例2】

(1) 「デューラーの製図工」〔美術「素描」(年次:1年次):絵画〕

ア 研究推進委員:神奈川県立弥栄高等学校 宮田 一宏教諭

イ 題材のねらい:ルネサンス期の製図法を学習し、当時の科学的探究の熱気を体感することで、視点を固定するために姿勢を正すことが、デッサンにおいて重要であることを理解し、以降の実習に役立てる。

ウ 身に付けさせたい力:造形表現の基礎となる確かなデッサン力

エ 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
過去の技術やルネサンス期の科学的探究心の熱気に興味・関心を持ち、創意工夫して構想を練ろうとしている。	教材の機能や仕組みを考慮し、表現形式の特性を生かして、グループで協力しながら工夫して創造的な表現の構想を練っている。	目的や計画を基に教材の使い方や表現方法を工夫して、効果的に表現している。	デューラーの作品、著作やホックニーの著作などに示された表現の工夫などを感じ取り、作品や教材に対する見方や感じ方、考えなどを持ち、理解している。

オ 題材の指導計画

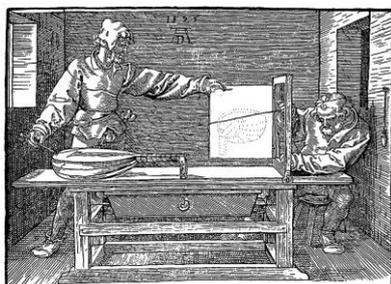
a:美術への関心・意欲・態度 b:発想や構想の能力 c:創造的な技能 d:鑑賞の能力

時間	学習内容	◎学習活動 ●学習のねらい(指導上の留意点を含む)	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
30分	導入	◎問いかけ「なぜデッサンするのか」「鹿はなぜ産まれてすぐ走るのか」 ●話の全容を明らかにせず、点と点を線で結ぶのは生徒の役割と考え、導入時に話すエピソードは、一見関係のないものを選び、徐々に核心へと向かうようにする。 ◎首が据わる話の紹介 ●理学的な実験を行い、理解を深める。 ◎デューラーの「絵画論」、ホックニーの「秘密の技術」の紹介と解説 ●理論に基づいた制作について理解する。 ◎アルブレヒト・デューラー作「リュートを描く製図工」(図1)の画中に登場する製図機を復元して使用し、その様子を見る。(図右)	○				a 過去の技術やルネサンス期の科学的探究心の熱気に興味・関心を持ち、創意工夫して構想を練ろうとしている。 	活動の様子
50分	鑑賞的制作	◎現代版製図機を配付し、使用法の簡単な説明(図2)と実習 ◎現代版製図機を用いて、デッサンを行う。(図3)		○	○		b 教材の機能や仕組みを考慮し、表現形式の特性を生かして、グループで協力しながら工夫して創造的な表現の構想を練っている。 c 目的や計画を基に教材の使い方や表現方法を工夫して、効果的に表現している。	活動の様子
10分	振り返り まとめ	◎科学的探究心の熱気について ◎感想や実習の経過をプリントに記入する。				○	d デューラーの作品、著作やホックニーの著作などに示された表現の工夫などを感じ取り、作品や教材に対する見方や感じ方、考えなどを持ち、理解している。	プリント

カ 評価と分析・成果と課題：当時の製図法について、図版を見るだけでなく再現した製図機を見て、実際に使用したことで、強い印象を残し理解は深まったと思う。できるかぎり本物又は本物に近い形のもの鑑賞させることが功を奏した。教材の使用をグループワークにしたことで、話し合いが生まれ理解が一様に深まった。場面の切替えを演出したので、場の雰囲気や各々の活動が活発になった。

歴史学習や鑑賞に適切な実習を導入することで、記憶に残る学習になる。このスタイルは、印象派など他の芸術運動を学習する際にも効果的であり、応用し活用していきたい。

キ 授業の様子・生徒作品：



■ 図1 「リュートを描く製図工」



■ 図2 アクリル板とレーザーポインターを使用する現代版製図機



■ 図3 実習の様子

4 その他の取組事例【事例3～5】

(1) 「なりきり絵画～身体表現による鑑賞～」〔美術「美術概論」(学年：3年)：鑑賞〕

ア 研究推進委員：神奈川県立白山高等学校 末棟 小百合教諭

イ 題材のねらい：「真似を超えた自分の作品を他者と協働してつくりあげる」をテーマに、名作絵画を写真表現によって共同で再現する。鑑賞活動の中で生まれる感覚や感情の「種」を育成させ、新しい創造を開花させることへの喜びに気づき、他者との異差に触れ、批評し合いながら認め合い、協力して作り上げることへの意義を知り、達成感を感じる。また、美術と社会の関わり方について理解を深め、芸術の新たな可能性に気付く。

ウ 身に付けさせたい力：①殻を破る自己表現力 ②他者と支えあう力 ③観る力 ④展覧会を経て感じる自分の作品への自己肯定感

エ 指導内容と構成の工夫：

- ①「なりきり絵画」を制作するための作品研究(図書室)、鑑賞レポートをまとめる。
 - ・歴史背景や原作者の作品意図や主題、作品内に登場する人物の心情などから美の要素を感じ取り、現代版リメイク作品の制作に向けて発想する。
- ②企画・構想を練る。
 - ・選んだ作品に対する自身の考えや感性をまとめることで、作品に協力出演してくれる他者とのディスカッションに役立てる。
- ③「なりきり絵画」共演者との話し合いをする。作者が作成したレポートを基に、各係の演出や表現方法について、意見交換をする。
- ④作品に使用する小道具や大道具を制作する。また、必要なものを各自手配し、準備の計画を立てていく。
- ⑤制作作業。役割分担をしっかりと確認した上で、カメラで撮影する。元になる名画の図版と、自分たちが作り上げたい作品意図が合うように、何度も意見交換をしながら制作する。
- ⑥写真作品と元の名画の図版、コメントシートをスチレンボード上に貼り、完成させる。
- ⑦「なりきり絵画」展覧会の企画、役割を分担するなどの準備を行う。
- ⑧展示後に作品についての相互評価、プレゼンテーションを行う。

オ 評価と分析・成果と課題：鑑賞というと、独立した授業構成で行われることが多いが、この題材では鑑賞と作品制作とが一体化しており、すべての学習活動の過程でアクティブ・ラーニングの視点を取り入れられるよう工夫されている。作品制作に当たり、出演キャスト、プロデューサー、照明、ヘアメイク、カメラマン、小道具制作など多数の協力者が必要とされ、作者が作りたい作品の意図を、活発に意見を交わしながら、アイデアを構築していく必要があるからである。また、完成後の展覧会では、作品を通して他者とのコミュニケーションが生まれ、完成後の深い学びも継続的に行われる。他者と協力し、一つのものを作り上げていく工程は、社会

の中で必要な「生きる力」を育むことにつながる。

名画になりきり、そっくりな写しをすることではなく、名画の本質を考え、理解した上で、現代に生きる生徒たちが名画を自分自身の解釈に置き換えられているかということが重要である。この題材は、制作する生徒の積極的な態度や他者との協働を引き出し、生徒たちの主体的な学び、深い学びにつなげている。

カ 授業の様子・生徒作品：



■生徒作品と制作の様子

(2) 「ポスター制作」〔芸術「美術Ⅱ」(学年：2年)：デザイン・鑑賞〕

ア 研究推進委員：神奈川県立麻溝台高等学校 宮本 知保教諭

イ 題材のねらい：ポスター作品の鑑賞や制作を通じてデザインへの理解を深め、独自のポスターを構想する力、アイデアをかたちにし、他者に伝えられるように表現する。ポスター制作の題材で行う鑑賞、構想、制作の流れの中で、知識や技能を活用する思考力、判断力、表現力を身に付け、美術だけではなく実生活や社会生活において何かを生み出す(企画し、計画し、実現する)ことを深い学びと捉えた。

ウ 身に付けさせたい力：積極的に授業に関わろうとする力、独自のポスターを構想する力、アイデアをかたちにし、他者に伝えられるよう表現できる力。(校内授業づくりテーマ『基礎的・基本的な知識及び技能を活用するための思考・表現力の育成』を目標とする。)

エ 指導内容と構成の工夫：

①スライドによるデザインについての鑑賞。

・「東京オリンピックのロゴ問題」など様々なポスター作品の鑑賞を通じてポスターやデザインワークについての理解を深める。

②グループワークによる教科書のポスター作品を活用した鑑賞。

・話し合いをしながら作者の制作意図や工夫を読み取り、プロジェクターを使って発表する。

③個人によるポスター作品の鑑賞。

・日ごろ目にするポスターで自分が「いいな」と思うものを取り上げ、鑑賞文を書く。

④マインドマップなどを用い、自分でテーマを選び、誰に何をどのように訴えるポスターにするのか、プリント等にアイデアスケッチをする。構想を練りながら、下図を完成させる。

⑤伝えたい内容に合った表現方法を工夫し、制作する。

・主題が見る人に伝わっているか。ある程度制作が進んだら、客観的に自分の作品を眺め、検討する。

⑥制作後、作品の意図や表現の工夫等を鑑賞し、それぞれの作品を味わう。

・⑦各自がシートに隣の人の作品のよいところを言葉で書く。⑧すべての人の作品を観て、よいところを言葉で書く。書いたシートは作者の作品の側に置き、作者が読めるようにする。

⑦隣のグループの作品の中から一つ自分たちで「いいな」と思うものを取り上げ、話し合いをしながら作者の制作意図や工夫を読み取り、まとめとしてプロジェクターを使って発表する。

オ 評価と分析・成果と課題：導入の鑑賞として、スライド鑑賞→グループワーク鑑賞→個人ワーク鑑賞の流れは良かった。受動的な鑑賞から活発な話し合いによる鑑賞を経て、生徒がより深い理解に向けて下地を作ってから最後に個人で主体的に取り組む鑑賞となった。受動的な学び、活性化された学びをバランスよく適切な時期に効果的に授業に導入することが、個人における自主的な深い学びにも結び付くのではないかと。振り返りの鑑賞においてもグループワークによる鑑賞と発表を行い、対話的な学びにより、友人の作品をより深く理解する手段として有効であった。

制作において、オリジナルのポスターを企画、計画し、実現するという一連の流れの中で、構想に時間を割き、作品表現にじっくり取り組む時間を作ったので、生徒が作品と向き合う時間は十分取れたのではないかと。

導入と最後の鑑賞ではより深く理解する手立てとしてアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた学習活動を効果的に行うことができた。今後、深く理解させる上で、『アクティブ・ラーニング→個人の主体的な深い学び』という流れは有効かもしれない。一方、制作においては「基礎的・基本的な知識及び技能を活用するための思考力・表現力の育成」という面で何らかの形でアクティブ・ラーニングの視点をうまく結び付けられるとよいと感じた。

カ 授業の様子・生徒作品：



■相互鑑賞会の様子

(3) 「染織(染め)「藍染によるハンカチ制作」」〔芸術「美術Ⅲ」(学年：3年)：デザイン〕

ア 研究推進委員：神奈川県立霧が丘高等学校 山本 文彦教諭

イ 題材のねらい：身近な用具(ハンカチ)をデザイン及び制作することで、生活の中で美術・デザインが果たす役割を理解するとともに、日本の伝統的な染色の手法である藍染の特徴や制作工程を理解する。

ウ 身に付けさせたい力：意図や用途に応じた模様配置等を吟味しながらデザインする力。自分の意図や工夫した点などを言葉や図を使ってまとめたり発表したりする力。また、他者の作品の良さや特長を認め、言語で伝える力。

エ 指導内容と構成の工夫：

- ①ビデオ視聴を通して、型染めの歴史・原理・型染めの工程を理解する。
 - ・埼玉県八潮市の染色工場の制作風景を収めたビデオを鑑賞する。制作の前に鑑賞やグループワークを取り入れることで、他者の考え方も取り入れながら発想する能力を高める。
- ②四方連続模様を制作する上で、版制作の原理を、簡易体験(ステンシル版画)を通して理解する。
 - ・グループワークを通して分割版制作の原理を理解する。
- ③完成品をイメージしながら、美しく楽しい図案を構想する。
 - ・アイデアスケッチを通して意図に応じた配置や模様を追求する。
- ④作品について説明する場面や他者の作品の意図等を読み取る機会を設定する。
 - ・各自の作品についてグループでのプレゼンテーションとワークシート(振り返りシート)を記入し、学習内容の確認とともに達成感や成就感を味わう。
 - ・制作後にプレゼンテーションを行い、学習を振り返るとともに、自らの考えを言語化してまとめる力を付ける。

オ 評価と分析・成果と課題：本番の藍染作品制作の前に、ステンシル版画の習作を行うことで、型制作の理解を深め、本番制作への十分な見通しを持たせることができた。また、話し合いの活動を通して、各自の能力、持ち味の理解を深めることができ、新たな動機付けにつながった。

ビデオ視聴を通して、藍染について深く学ぶことはできたが、主体的な深い学びに結び付けるには、今後更に継続した学習活動の必要を感じている。

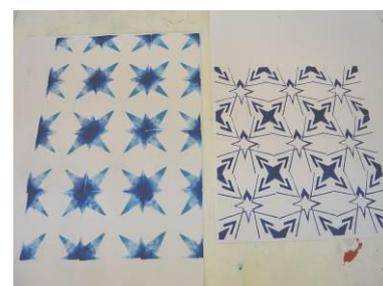
カ 授業の様子・生徒作品：



■ビデオ視聴の様子



■藍染め作業の様子



■生徒作品